

はじめに

各学校では、また、それぞれの教室でも、一年間の国語科の指導計画を作成して、その計画に沿って授業を中心とした学習指導を行います。授業は、学習する生徒に「国語の学力」をつけさせるということが目標であり目的であることは、言うまでもありません。そして、一人一人の生徒に確かな言葉の力が身についたかどうかを確かめるために評価（学習評価）が行われます。学習評価はさらに、行われた授業について、その内容や進め方が妥当であったかどうかを教師が検証し、授業を改善するための機能ももっています。

授業を通して行われる学習指導と学習評価は、このような関係にあります。

しかし、この学習指導と学習評価のつながりが、正しく行われてきたのでしょうか？

学習評価が生徒にとって「自らの学習の状況に気付き、その後の学習や発達が促される契機となるべきもの」*1となっているのでしょうか？

この文章では、平成20年に改訂された学習指導要領と、平成22年3月24日に中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会から出された『児童生徒の学習評価の在り方について（報告）』（以下『報告』と示します）、及び平成22年11月に国立教育政策研究所教育課程研究センターから出された『評価規準の作成のための参考資料（中学校）』（以下『参考資料』と示します）をもとに、『中学生の国語』を使って授業を行うとき、評価についてどのように考え、実施していくことが求められているのかについてのよりどころをお示します。

各学校で、また教室で、学習する生徒のための充実した学習指導が行われるようになるためには、まず評価の改善が必要だからです。

1 学習評価の意義を確かめましょう

授業には目標があって、その目標の実現に向かって学習活動が展開されます。国語の授業では、学習活動を行うことにより、言葉の力を身につけることが目標になります。

どんな言葉の力をつけることを目指して学習が行われるのか、見通しをもって意識しながら学習に取り組むことと、学習が終わったところで、学習した内容と方法について学習する生徒自身が確かめるために振り返ることにより、学習した内容がいつそう定着することになります。同時に、これらの活動は、自ら学ぶ意欲を育てることにつながります。*2

学習評価は、この学習内容についての「見通しと振り返り」と大きなかわりがあります。

それは、学習評価が、「生徒の学習について、学習した内容がどの程度実現されているかを見るために行われる」ものであり、さらに「児童生徒にとって、学習評価は、自らの学習状況に気付き、その後の学習や発達・成長が促される契機となるべきもの」だからです。*3

学習した内容について、それが目標に照らしてどの程度身につけているかを、指導する教師が、評価規準に基づいて生徒に示します。この評価を受け取った生徒は、自身の学習した結果が目標に照らして必要な規準に達しているかどうかを判断することができます。それが「B おおむね満足できる」と評価されるようになることが、個々の生徒にとっては、一応の学習のゴールだと言えるからです（ただし、学習した後の「振り返り」の内容について、それが妥当なものなのか、求められる規準に達しているのかどうかは、生徒はそれだけでは判断できません。教師による評価と照らし合わせることに

*1『児童生徒の学習評価の在り方について（報告）』、平成22年3月24日、
中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会

*2「中学校学習指導要領 第1章 総則 第4の2（6）」参照。

*3『報告』「3. 学習評価の今後の方向性について （1）学習評価の意義と学習評価を踏まえた教育活動の改善の重要性」参照。

よって、初めて可能になります)。

学習評価は、このように、個々の生徒の学習の成果を値踏みするために行うものではなく、学習の成果をもとに、その後の発達・成長を促す契機となるように、学習を促すためにこそ機能することが求められています。

これまで、とかく「評価」というと、学習の成果を点数化することや、できたかできなかったかを論ずることだと考えられてきました。しかし、今回の学習指導要領の改訂を契機として、上に示したような評価についてのパラダイムの転換が強く求められていることを踏まえて、学習評価について考えていく必要があります。

2 学習評価の改善の方向を確かめましょう

では、これからの学習評価は、どうあるべきなのでしょう。

先に示した『報告』及び『参考資料』は、改訂された学習指導要領と、その前提となった学校教育法の一部改正、さらには中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」（平成20年1月）（以下『答申』と示します）の趣旨を踏まえたものとなっています。また、平成22年5月には、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」が出されました。その中に、これからの学習評価に求められる方向性が示されています。

まず第一に、学習評価を、「学習する目標と内容について行う」ということを確かめる必要があります。

特に国語科は、“言語を対象として言語を用いて学習する教科である”という特性を踏まえて学習評価を行うという姿勢を確認する必要があります。具体的には、たとえばこれまでとすると、「C読むこと」の教材を学習している時間に行われる「話し合い」の活動を、「A話す・聞く能力」で評価するというようなことが行われていました。また、学習指導案などに、一単位時間の授業ごとに、「関心・意欲・態度」と、「A話す・聞く能力」、「B書く能力」、「C読む能力」、さらに「言語についての知識・理解・技能」のすべての観点について評価するように書かれていることもありました。実は、このような評価の在り方を改めることが、強く求められています。

それは『答申』において、次のように端的に指摘されています。

1単位時間の授業において評価の4観点（関心・意欲・態度、思考・判断、技能・表現、知識・理解）のすべてを評価しようとしたり、授業冒頭に「進んで取り組んでいるかどうか」をチェックし、チェック終了後授業に入ったりするなど評価のための評価となっている不適切な事例も見られる。^{*4}

また、学習評価の時期の問題について、すなわち、授業の進行に応じて適切な場面で評価することと、学習のまとまりを意識して、ある程度の区切りの中で学習を評価するという考え方に変えていく必要性も指摘されています。^{*5}

第二は、学習指導と学習評価の一体化についての視点です。

『報告』では、指導計画や指導案を作成するに当たっては、学校として組織的に取り組むことを前提に、その指導計画や指導案に、「評価規準や評価方法等、評価の計画も含める」ことが明示されました^{*6}。そのうえで、作成した評価計画も含む指導計画そのものを評価して、何らかの課題が明らかになった場合には、そのことに対応するように教育計画全体を改善する姿勢が必要であると指摘しています。

このことを実現するためには、教科指導の在り方を根本的に改める必要が生じます。たとえば「本

^{*4}『答申』「9.（3）効果的・効率的な指導のための諸方策」P143

^{*5}『報告』「4. 観点別学習状況の評価の在り方について （6）観点別学習状況の評価を円滑に実施するに当たっての留意事項」参照。

^{*6}『報告』「3. 学習評価の今後の方向性について （1）学習評価の意義と学習評価を踏まえた教育活動の改善の重要性」参照。

校の生徒の実態として、思考力・判断力・表現力等に課題がある」ことが明らかになったとしたら、指導計画を（時には年度途中でも）見直して、必要な改善を行うということです。なぜなら、年度当初に作成した指導計画通りに教科指導を行っていたのでは、明らかになった課題に対応できないからです。学校によっては、教材の配列の大幅な入れ替えが必要になるかもしれません。ある場合には、同様の内容を扱う教材を再度別の視点や立場から指導する必要が生じます。

このようにダイナミックな発想をもって、学習指導と学習評価の一体化を推し進めることが求められているのです。

第三は、学習評価について、「妥当性と信頼性を高める」ことの重要性についての認識です。特に「妥当性」ということについて『報告』では、

本報告においては、学習評価の「妥当性」は、評価結果が評価の対象である資質や能力を適切に反映しているものであることを示す概念として用いている。この「妥当性」を確保していくためには、評価結果と評価しようとした目標の間に関連性があること（学習評価が学習指導の目標（学習指導要領等）に対応するものとして行われていること）、評価方法が評価の対象である資質や能力を適切に把握するものとしてふさわしいものであること等が求められる。^{*7}

と示されました。このことは、「関心・意欲・態度」の評価の改善について、特に意識する必要があります。たとえば、授業中の挙手や発言の回数などといった表面的な状況から評価するのではなく、「授業や面談における発言や行動などを観察するほか、ワークシートやレポートの作成、発表といった学習活動を通して評価する」ことが例示されているように^{*8}、国語科の学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を身につけているかどうか、学習を行った成果としてどのような態度が身についたか、などを評価する観点です。そこで、この観点の評価については、ある学習場面だけで評価するのではなく、教材全体の学習を通して、また、同一の領域の学習をまたがって評価するなど、これまで行ってきた評価方法と評価時期を見直す必要があります。

最後に、評価規準の示し方についての課題です。「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」、及び『参考資料』では、次のように示されました。

各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨

国語

国語への関心・意欲・態度：国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、国語を尊重しようとする。

話す・聞く能力：目的場面に応じ適切に話したり聞いたり話し合ったりして、自分の考えを豊かにしている。

書く能力：相手や目的、意図に応じ、筋道を立てて文章を書いて、自分の考えを豊かにしている。

読む能力：目的や意図に応じて、様々な文章を読んだり読書に親しんだりして、自分の考えを豊かにしている。

言語についての知識・理解・技能：伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく整えて速く書いている。

この記述からは、観点ごとの学習状況の評価について、それぞれの文末の表記から学習の成果を質的にとらえて評価を行うという立場をとることが示されています。すなわち、何かができたかどうかという評価ではなく、また、限られた範囲のテストで数値化したものを評価として示すのではないという立場です。つまり、日常の学習活動の具体的な姿から評価していこうとする考え方です。

したがって、これまで以上に、教材ごとの評価規準の検討が必要になります。また、評価方法につ

^{*7}『報告』「3. 学習評価の今後の方向性について（2）今回の学習評価の改善に係る基本的な考え方」参照。

^{*8}『報告』「4. 観点別学習状況の評価の在り方について（4）「関心・意欲・態度」の評価に関する考え方」参照。

いても、今後さまざまに検討されることが求められることになります。

このことについて『参考資料』では、

評価基準を適切に設定するとともに、評価方法の工夫改善を進めること、評価結果について教師同士で検討すること、実践事例を着実に継承していくこと、授業研究等を通じて教師一人一人の力量の向上を図ること等に、校長のリーダーシップの下で、学校として、組織的・計画的に取り組む必要がある。^{*9}

として、学習評価が学校全体で行われることを求めています。

学習評価の改善については、以上のことだけで十分というわけではありません。その趣旨は、改訂された学習指導要領の内容が確実に定着するように、学習指導の改善につながるように、学習評価を改善することにあります。そのことを基盤として、これからの学習指導と評価を考えていく必要があるのです。

3 具体的な手順を考えましょう

学校では、年度が始まるにあたって、年間の指導計画を立てます。これまでその年間指導計画には、月と週と教材や単元があって、それぞれの教材ごとの配当時間が示され、その次によりよく、学習活動があるというような形のものが多かったのではないのでしょうか。このような指導計画は、まず教科書があって、その教科書の単元や教材の配列に従って授業を進めていくことが前提となって作られてきました。

確かに教科書は学校における主たる学習資料であり、それが学習指導の柱であることは言うまでもありません。しかし、今回の学習指導要領の改訂とそれに伴う評価について、『報告』では、その根本的なあり方についての改善が求められています。

『報告』の、「3. 学習評価の今後の方向性について (1) 学習評価の意義と学習評価を踏まえた教育活動の改善の重要性」の中で、(学習評価を踏まえた教育活動の改善の重要性)の項には、次のように示されています。

○ 従前指導と評価の一体化が推進されてきたところであり、今後とも、各学校における学習評価は、学習指導の改善や学校における教育課程全体の改善に向けた取り組みと効果的に結びつけ、学習指導に係るPDCAサイクルの中で適切に実施されることが重要である。

○ すなわち、教師や学校にとっては、

【1】学校における教育課程の編成や、それに基づいた各教科等の学習指導の目標や内容のほか、評価基準や評価方法等、評価の計画も含めた指導計画や指導案の組織的な作成

【2】指導計画を踏まえた教育活動の実施

【3】児童生徒の学習状況の評価、それを踏まえた授業や指導計画等の評価

【4】評価を踏まえた授業改善や個に応じた指導の充実、指導計画等の改善

といった、Plan (【1】)、Do (【2】)、Check (【3】)、Action (【4】)のPDCAサイクルを確立することが重要である。

このようなPDCAサイクルは、日常の授業、単元等の指導、学校における教育活動全体等の様々な段階で繰り返されながら展開されるものである。学習評価を通じて、教師が授業の中で児童生徒の反応を見ながら学習指導の在り方を見直したり、一連の授業の中で個に応じた指導を図る時間を設けたりすることや、学校における教育活動を組織として改善したりしていくこと等が求められる。

ここでまず注目すべきなのは、「【1】各教科等の学習指導の目標や内容のほか、評価基準や評価方法等、評価の計画も含めた指導計画や指導案の組織的な作成」という記述です。先にあげたこれまでのような指導計画ではなく、学習指導における目標や内容(＝学習指導要領の指導事項)を示すことがまず必要であり、そのうえで、評価の計画も含んだ指導計画や指導案を、学校という組織として作成することが求められています。さらには、その指導計画に基づく教育活動を対象とした評価を行っ

^{*9}『参考資料』「第1編 第2章 3 各学校における学習評価の進め方及び留意点」P12

たうえて、必要に応じて指導計画そのものを改善する必要性が示されました。

既に述べたように、年間の指導計画を年度当初に立てて、それを用いて一年間の教育活動を行うのでよしとする考え方を改め、年度の途中の適切な時期に教育活動全体についての評価を行い、もし課題が明らかになったら、年間指導計画そのものを見直し修正する姿勢が、学校には求められるのです。

では今後、国語科の年間指導計画と教材の指導計画はどのように準備し、授業を行っていくべきなのでしょう。

(1) 「つきたい力」から始まる授業

授業は、言うまでもなく生徒に学習をさせ、その結果として「学んで得た力」としての「学力」を身につけさせるために行われる教育活動です。そこで、私たち教師はまず、本校の生徒に「どんな学力に課題があるか」を明らかにする必要があります。各学校により様々ですが、例えば、「考えることに課題がある」ということが、各種の調査から明らかになることがあるでしょう。学校によっては、「発表したり、人に意見を伝えたりすることに課題がある」ということもあるかもしれません。

指導計画の作成は、ここから始まります。教科書は、学習指導要領の目標と内容が偏りなく配列されていますが、それに従って指導計画を作成すれば十分だとは言えない理由がここにあります。

「本校の生徒の実態に基づく指導計画」が必要だということです。その中で、課題を解決し、「学力」を偏りなく育てることが学校の責務なのです。

そこで、まず教科書の教材の配列に基づいた仮の指導計画を作成します。そこに、「本校の生徒の課題」を重ね合わせて、どの領域や事項の内容を重点的に指導する必要があるかを考え、次の段階に進みます。ここでぜひ考えておきたいことは、その指導計画が、「誰が見てもわかるもの」になるよう配慮することです。近年、各学校において、さまざまな情報を保護者・市民に開示することが広く行われるようになりました。そのことも念頭に置いて、学校のすべての教職員が作成された指導計画をもとに教育活動が行えるように、さらには、指導計画で示した目標が理解できることで、自覚して学習する姿勢が生まれることも視野に入れた、そういう「わかりやすさ」が求められるのではないのでしょうか。

指導計画の最初の枠組みには、学習の目標としての「つきたい力」が書かれます。これは、その教材で学習することによって生徒に身につく「学力」そのものであり、「学習のゴール」でもあります。その根拠は「学習指導要領の第2 各学年の目標と内容」に求められます。なぜなら、各領域の内容の(1)と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕で示された指導事項こそが、学習を通して「つきたい言葉の力」そのものだからです（ただし、それぞれの指導事項には、複数の要素が含まれていることがありますから、教材の内容によっては、整理をする必要が生じます）。

この学習指導要領の内容の(1)は、学習指導を行う際の根拠ではありますが、そのままでは、学習の目標にはなりません。そこで『中学生の国語』では、各教材の題名の前に、「学習目標」を示しています。この「学習目標」は、生徒にその教材で学ぶ言葉の力がどんなものなのかを示して、「自覚して学習する姿勢」を持たせたいという願いを教科書を編集し提供する立場から具体化したものですが、授業を行う先生方にとっては、「つきたい力」が明示されていることになります。年間指導計画には、この「学習目標」に基づき、それを「～する力」と置き換えることにより、学習の目標が示されることになります。

(2) 「つきたい力」から「評価規準」へ

授業では「学習のねらい」が達成できるように学習活動が行われます。『中学生の国語』では、その具体的な過程を、「A 話すこと・聞くこと」及び「B 書くこと」の領域では、具体的に教科書の内容として示しています。また、「C 読むこと」の領域では、各教材の後の「学びの道しるべ」がそれにあたります。さらに、学習の最終段階で、「A 話すこと・聞くこと」及び「B 書くこと」では、「振り返る」において、学習の目標が達成できたかどうかを生徒が確かめることができるように示しています。これは、従来の印象を書きこむような自己評価ではなく、学んだこと

の意味や価値を考えさせるという「振り返り」をさせるための学習活動です。同様に「C 読むこと」の教材では、「学びの道しるべ」の最後に、「学びを振り返る」を置いて、学習目標が達成できたかどうかを振り返ることができるようになっています。

これらは、学習の目標を達成することを目指して行われる学習過程において、それぞれの教材で行われる領域ごとの言語活動を評価する規準として機能するように示しています。

教科書全体として、「つきたい力」が身につく学習活動が行われることを意図して構成され、その学習活動の過程で観点ごとの評価が行われるよう構造化されています。

各教材の評価規準は、既に述べたように、すべての領域の評価が行われるものではなく、その教材で目指す「学習のねらい」に沿って示されるべきであり、そのことだけがそれぞれの教材で評価する学習活動であるという考えに基づいています。例えば「C 読むこと」の学習の過程で、読み取ったことを書く学習が行われます。生徒が書いた内容は、あくまで「C 読む能力」で評価されなければなりません。同様に、読み取った内容やそれに基づいて考えたことを話し合う学習についても、その評価規準は例えば「文章の内容を的確にとらえ、（話し合いを通して）自分の考えを明確にしている。」となります。この学習活動を「A 話す・聞く能力」で評価することは、『報告』で示された学習評価の意義に反することになるからです。

学習評価については、評価規準と併せて評価方法を示すことも必要です。

国語科の学習活動の特質から、評価方法は、次のような整理ができます。

行動の観察	学習の中で求められている「行動」が行われているかどうかを「観察」によって評価する方法。 主として音読・朗読、話し合い、スピーチ・発表などの言語活動を評価する場合に用いる。
発言の確認	学習の中で「発言」した内容が、求められている評価規準を満たしているかどうかを「確認」して評価する方法。
発言の分析	「行動の観察」や「発言の確認」により評価する場面で、「発言」された内容について、「分析」してその発言の質を評価する方法。
記述の点検	設定した評価規準に基づいて求められる内容が「記述」されているかどうかを、「点検」して評価する方法。
記述の確認	「記述」された内容が、評価規準を満たしているかどうかを、ノートやワークシートなどにより「確認」して評価する方法。
記述の分析	「記述の点検」や「記述の確認」により評価する場面で、「記述」された内容について「分析」してその質を評価する方法。

学習評価は、その授業で行う学習活動を対象として行われますから、それぞれの評価規準に適した評価方法を明確にして評価することが、学習過程を明確にし、学習活動を確かなものにするためには不可欠です。

（３）学習活動の計画へ

教材研究を行う意味と意義はどこにあるでしょう。それは当然、授業をする先生方が、より良い授業を行いたい、生徒の学力を高めたいなどという「教師としての願い」に基づいています。「つきたい力」があって、そのための「評価規準」があるのですから、教材をどのように扱うかということについては、「評価できる学習活動」を行わせる必要があります。教材研究では、教材そのものの価値について研究することがその第一段階として欠かすことはできませんが、それが授業においてどのような意味をもつかを考えることも必要です。どの教材も、その取り上げ方、あるいは授業における扱い方は、多様に考えられます。その多様性を考えることも教材研究です。その中から、目の前の生徒にとって価値のある学習活動を行うために、可能な限り多くの生徒が評価規準の「B おおむね満足できる」状況を達成できるようにするためには、どのような学習活動を行えばよいか

を考える、そういう立場からこそ、教材を研究する必要があります。

それぞれの学校の生徒の実態と課題に応じた教科としての重点を考慮して、教科の目標が作成されます。指導計画の作成は、そこから出発しています。従って、生徒の実態についての診断的評価に基づいて、授業で取り上げる教材について、標準的な配当時間数ではなく、重点的に指導することが必要な領域については時間をかけることも必要です。また、学習の進行によって、繰り返して学習させる指導事項が明らかになることもあります。その場合には、教材の順序を入れ替えることも考えられます。

従来の教科書で見られた教材に新しく出てくるものを学習するという漢字学習の方法では、このような柔軟な指導計画の見直しと修正は事実上不可能でした。この『中学生の国語』では、漢字学習の重要性を踏まえたうえで、系統的に、偏りなく学習が行えるようになっています。それは、単に漢字学習だけの問題ではなく、指導計画と評価計画を柔軟なものとして、各学校の教育活動が特色あるものとするのが可能になるシステムでもあります。

(4) 1時間の授業の計画と学習評価

「つきたい力」が学習する生徒に身につくことを願って、「学習目標」が明確な学習活動を組織するためには、評価計画が必要です。その評価計画には、評価規準と評価方法が示されます。『報告』では、学習指導案にも、それを明示することが求められています。

そこで留意したいことは、評価の時期の問題です。同じく『報告』では、このことについて、次のように示されました*10。

○ 授業改善のための評価は日常的に行われることが重要である。一方で、指導後の児童生徒の状況を記録するための評価を行う際には、単元等ある程度長い区切りの中で適切に設定した時期において「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価することが求められる。

この指摘からは、1時間の授業を行うための学習指導案という発想ではなく、教材全体の指導計画案を作成することが求めていると考えることができます。なぜなら、観点別の評価規準は、ある1時間だけを見たのでは評価しきれないことがあるということです。言い換えれば、「身につけた学力」は、1時間で身につくとは考えられないということでもあります。

この『中学生の国語』では、この立場に基づいて観点別学習状況の評価が行われることを前提に、毎時間学習評価を行うのではなく、学習のまとまりとして数時間にわたる場合には、そのまとまりごとに評価することを想定した指導計画を作成しました。

当然、授業をする際には、この1時間が学習過程全体のどの位置にあつて、それがどのような観点別学習状況の評価を行うどの段階にあるかを意識して取り組むことが求められます。

このように考えることにより、求められている指導と評価の一体化や、授業改善のための学習評価が、一層明確になると考えるからです。

(5) 授業を改善するための学習評価

これまで、学習評価は、学習する生徒のためにその学習の成果を評価することがその中心的な働きであると考えられてきました。学習評価の機能はそれだけではないことが、繰り返し言われてきましたが、学校にはそれがなかなか浸透してこなかったのが現実です。このことについて、『報告』では、「3. 学習評価の今後の方法性について」の冒頭で、「学習評価を踏まえた教育活動の改善の重要性」が強調されています。*11

○ 学習評価は、児童生徒が学習指導要領の示す目標に照らしてその実現状況を見ることが求められるものである。学習指導要領は、各学校において編成される教育課程の基準として、す

*10『報告』「4. 観点別学習状況の評価の在り方について (6) 観点別学習状況の評価を円滑に実施するに当たっての留意事項 (評価時期)」参照

*11『報告』「3. 学習評価の今後の方向性について (1) 学習評価の意義と学習評価を踏まえた教育活動の改善の重要性」参照。

すべての児童生徒に対して指導すべき内容を示したものであり、指導の面から全国的な教育水準の維持向上を保障するものであるのに対し、学習評価は、児童生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能を有するものと言える。

また、本文の「2 学習評価の改善の方向を確かめましょう」でも触れたように、「学習評価の妥当性と信頼性を高める」ことが合わせて強調されました。

それは、学習評価が改善されることが、授業の改善と結びついていて、最終的には、生徒の学力の向上につながると考えられるからです。

学習評価は授業を通して生徒の学習の状況を把握して、可能な限り多くの生徒が「B おおむね満足できる」状況が実現できるように授業を改善するためにこそ行われなければならないということです。

たとえば実際の授業で、もし全員を、ある観点において「B おおむね満足できる」もしくは、「A 十分満足できる」と評価した場合を考えてみましょう。この評価は妥当でしょうか？ また、信頼できる評価だと言えるのでしょうか？ 一方で、学級のほとんどの生徒について「C 努力を要する」状況という評価になった場合はどうでしょう？ どちらの場合でも、まず評価規準が妥当なものであったかを検討する必要があります。

また、国語科においては、「A 話す・聞く能力」、「B 書く能力」、「C 読む能力」は、他の教科の基礎的・基本的な知識・技能と「思考・判断・表現」を合わせた評価の観点とされていますから*12、他の教科の観点別学習状況の評価の結果とも照合する必要があると言えます。

このように、学習評価の妥当性と信頼性を高めるためには、学校全体として常にその在り方や、学習の状況を把握して、その是正に努める必要があります。それが、教育活動全体を活性化させ、学校への信頼にもつながるからです。もし上のようなことが見られた時、学校としてはどうすべきでしょう？ また、さまざまな調査などから、生徒の学習状況について新たな課題が明らかになった場合には、学校は何かその解決の糸口を見いだせるでしょう？

学習評価の改善がその入口にあるはずです。日々の授業を見直し、指導計画を検討し、教育活動全体を組織として改善するというサイクルの最初の過程と位置づけられるからです。

おわりに

これからの学校教育の改善の具体的な方向については、中央教育審議会の答申を受けた学習指導要領で示されましたが、とりわけ、「思考力・判断力・表現力の育成」と、その具体化のための「各教科等における言語活動の充実」は、国語科に課せられた大きな課題です。

このことを実現するためには、これまでの国語の授業を変えていかなければなりません。時代の変化とともに社会状況が大きく変わり、求められる教育の内容についても変革が求められているからです。

具体的には、教育活動を行うために各学校が作成する教育計画の在り方を見直すことから始まります。カリキュラム・マネジメントという発想が求められる背景は、まさにここにあります。その中で、学習評価についての根本的な意識改革と、改善の具体化が求められていると言えます。

「指導と評価の一体化」が、掛け声だけに終わらないように、日常的な、学校全体での取り組みが求められています。

*12『報告』「4. 観点別学習状況の評価の在り方について （5）各教科における評価の観点に関する考え方」参照。

配当授業時数について

年間の総授業時数は、第一・第二学年 140 時間（週 4 時間）、第三学年 105 時間（週 3 時間）とし、各領域・事項の配当授業時間数は、編成上の目安として、表のように想定しました。

表 各領域・事項の配当授業時数

	1年（140）	2年（140）	3年（105）
話す・聞く	12（15～25）	12（15～25）	10（10～20）
書く	27（30～40）	27（30～40）	19（20～30）
読む	35	37	33
伝・言	30	28	20
小計	104	104	82
裁量分	16	16	13
書写	20	20	10
総授業時数	140	140	105

*（ ）内の数字は、学習指導要領に示された時数です。

*本編教材の総計で「話す・聞く」「書く」の時数が学習指導要領の下限に不足する場合がありますが、裁量分とした時間数で「確かめよう」「学びを広げる」を活用するなど、弾力的な運用で補っていただくことを想定した配当です。

（参考）学習指導要領の指導事項と本資料での略称

領域	略号	1 年生	2 年生	3 年生	事項	略号	1 年生	2 年生	3 年生
聞くこと・話すこと	A ア	話題設定や取材	話題設定や取材	話題設定や取材	伝統的な言語文化	伝（ア）	文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。	作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。	歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。
	A イ	話すこと	話すこと	話すこと					
	A ウ			聞くこと					
	A エ	聞くこと	聞くこと	話し合うこと					
	A オ	話し合うこと	話し合うこと	—					
書くこと	B ア	課題設定や取材	課題設定や取材	課題設定や取材・構成	言葉のきまりや特徴	伝（イ）	古典には様々な種類の作品があることを知ること。	古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。	古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。
	B イ	構成	構成	記述					
	B ウ	記述	記述	推敲					
	B エ	推敲	推敲	交流					
	B オ	交流	交流	—					
読むこと	C ア	語句の意味の理解	語句の意味の理解	語句の意味の理解	言葉のきまりや特徴	言（イ）	語句・語彙	語句・語彙	語句・語彙
	C イ	文章の解釈	文章の解釈	文章の解釈		言（ウ）			—
	C ウ		自分の考えの形成	自分の考えの形成		言（エ）	単語、文及び文章		—
	C エ	自分の考えの形成				言（オ）	表現の技法	単語、文及び文章	—
	C オ		読書と情報活用	読書と情報活用	漢字	漢（ア）	漢字の読み	漢字の読み	漢字の読み
	C カ		読書と情報活用	—		漢（イ）	漢字の書き	漢字の書き	漢字の書き

年間学習指導・評価計画例

■ 1年生

月	3学期	2学期	単元名	教材名【領域】	時数	学習目標	指導事項・言語活動例	学習活動	評価規準
4	1学期	前期	伝統的な言語文化	声に出して、さまざまな作品を読もう【伝】	4	・さまざまな種類の作品の音読を通して、古典のきまりなどを知る。	伝(ア)(イ)	1 声に出して、さまざまな作品を読む。	関 文章を音読することをおして古典に親しんだり、我が国に長く伝わる伝統文化について関心を深めたりしようとしている。 言 さまざまな種類の作品について、それぞれの作品のもつ言葉のリズムや表現の特徴の違いに気づいている。
				竹取物語【伝】	4	・古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界にふれる。	伝(ア)	1 自分たちのものの見方や考え方を比べながら読む。	関 言葉のリズムを確かめながら読んで、古典に描かれている人々の生活や心情、ものの見方や感じ方を想像しようとしている。 言 古文特有のきまりや作品のもつ言葉のリズムに注意して音読している。
				漢字の字体・画数・筆順【漢】	1	・言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 教材文を読んで、漢字の字体・画数・筆順について考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関 さまざまな字体・書体や画数と筆順を学ぶこととおして、書きやすく読みやすい文字について考えようとしている。 言 字体・書体や画数、筆順の意味を理解している。
				漢字を使いこなそう①【漢】	1	・漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関 文化に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言 言語文化や伝統文化に関わる言葉を書いたり読んだりしている。
5			表現力1	スピーチをしよう【話・聞】	4	・聞き手の反応に注意しながら話をする。 ・さらに知りたいことやわからないことについて質問する。	Aアウエ言(ア)活動例(ア)	1 話題を選ぶ。 2 話す材料を集める。 3 スピーチの練習をする。 4 スピーチをする。 5 学習を振り返る。	関 聞き手の反応に注意しながら話したり、もっと知りたいことについて質問したりしようとしている。 A 日常生活の中から話題を決め、スピーチをするための材料を集めて整理して、伝えたい内容を明確にしている。 A 聞いたスピーチについて、話し手の伝えたい内容や話し方の工夫を捉え、必要に応じて質問している。 言 話す目的にふさわしい話し方はどのようなものかを考えながらスピーチをしている。
				一枚レポートを書こう【書】	4	・集めた材料を分類・整理して、文章の構成を考える。 ・調べたことについて、根拠を明確にした文章を書く。	Bイウ言(エ)活動例(イ)	1 テーマと視点を決める。 2 材料を集めて整理する。 3 構成を考えて書く。 4 意見を交流する。 5 学習を振り返る。	関 レポートを書くことを振り返って、構成を考えたり根拠を明らかにして文章を書いたりすることの必要性に気づき、自分の表現にいかそうとしている。 B レポートの構成を考えるために、集めた材料を分類したり取捨選択したりするなどして、整理している。 B テーマについて、集めた材料にもとづいて根拠を明確にして書いている。 言 レポートにふさわしい「書き言葉」の表現や、接続する言葉・指示する言葉などを適切に用いて書いている。
				類義語辞典の活用【言】	1	・言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	言(ウ)	1 教材文を読んで、類義語辞典の活用について考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関 似た意味を表す多様な語句があることに気づき、話や文章の中で使う際の表現上の違いについて考えようとしている。 言 似た意味を表す多様な語句について辞典などを用いて調べて、話や文章の中ではたらしきについて理解している。
				漢字を使いこなそう②【漢】	1	・漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関 表現に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言 表現に関わる言葉を書いたり読んだりしている。

月	3 学期	2 学期	単 元 名	教材名【領域】	時 数	学習目標	指導事項・ 言語活動例	学習活動	評価規準
6			表現力 2	水田のしくみを探る 【読・説明】	4	筆者の説明にはどのような工夫があるか考えながら読む。	Cエ 言(エ) 漢(ア) 活動例(イ)	1 52 ページの図の三つの層は、それぞれどのような層だと説明されているかをまとめる。 2 次の点について読み取り、みんなで話し合う。 ①文章の組み立て方の工夫 ②表現上の工夫 3 本文に加える写真や図表としてふさわしいものを、一つ選ぼう。そして、選んだ理由を書く	関文章の組み立てや表現の工夫について理解することとおして、ものの方や考え方を広げようとしている。 C文章の段落構成や展開にもとづいて、水田の構造の科学性や長所が述べられていることを理解している。 C文章の展開、図やグラフの使われ方などに注意して読むと、内容が理解しやすくなることを自分の言葉で説明している。 言指示語や接続詞およびこれらと同じようなはたらきをもつ語句などに注意して読んでいる。
				体験文を書こう 【書】	5	- 日常生活の中から題材を決め、材料を集める。 - 文章の構成を考え、理由を明らかにして自分の考えを書く。	Bアイウ 言(ウ)(エ) 活動例(ア)	1 体験したことを思い出す。 2 構成を考える。 3 体験文を書く。 4 読み合い、感想を伝え合う。 5 学習を振り返る。	関わかりやすい文章にするために、材料を集めながら考えをまとめたり、段落の役割を考えて文章を構成したりしようとしている。 B書く目的にそって題材を決め、関連する材料を集めながら、体験文の中心となる事柄をまとめている。 B集めた材料を整理して、伝えたい事柄が明確になるように段落の役割を考えながら文章を構成している。 言事象や行為などを表す語句や、指示語や接続詞などを効果的に用いて書いている。
				接続語・指示語 【言】	1	言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	言(エ)	1 教材文を読んで、接続語・指示語について考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関接続する言葉や指示する言葉を自分の表現や理解にいかそうとしている。 言接続する言葉や指示する言葉の意味とはたらきを適切に理解している。
				漢字を使いこなそう ③ 【漢】	1	漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関表現に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言表現に関わる言葉を書いたり読んだりしている。
7			理解力 1	空中ブランコ乗りのキキ 【読・文学】	4	場面の展開や登場人物に注意して読む。	Cウ 言(オ) 漢(ア) 活動例(ア)	1 この作品の登場人物は、それぞれどのような人物として描かれているだろうか。表に書き出してまとめる。 2 場面ごとのキキの気持ちを捉え、考えたことを話し合う。 3 場面を一つ選んで音読し、感想を交流する 4 「白い大きな鳥」は何を表しているのか考える	関言葉を手がかりにしながら文脈をたどって読んで、描写の効果について考えようとしている。 C場面の展開や状況の中で登場人物がどのように描かれているかを、確かめながら読んでいる。 C情景や行動・せりふなどに注目して、それぞれの場面のキキの心情がどのように描かれているか考えながら読んでいる。 言文章の中で使われている比喩や省略、倒置などの表現の技法の意味や使われ方について理解している。

月	3 学期	2 学期	単 元 名	教材名【領域】	時 数	学習目標	指導事項・ 言語活動例	学習活動	評価規準
9				ユニバーサルな心を目指して 【読・説明】	4	・言葉の意味を捉えながら筆者の考えを読み取る。	Cア 言(イ) 漢(ア) 活動例(イ)	1 第一段落と第二段落を読み、次の点を表にしてまとめる。 ・「バリアフリー」と「ユニバーサルデザイン」との違い ・現在の生活での問題点 2 「穴」と「発想」という言葉を手がかりに、次の課題について内容をまとめる。 ①エレベーターの「穴」はどこにあるか。それを埋めるための「発想」は何か。 ②点字ブロックの「穴」はどこにあるか。それを埋めるための「発想」は何か。	関語句の文脈の中での意味を的確に捉えて文章を読むことをとおして、筆者のものの見方や考え方を理解しようとしている。 C筆者が捉えている「バリアフリー」と「ユニバーサルデザイン」の意味を、筆者の言う「問題点」としての指摘から理解している。 C例にあげられている事柄の意味について、かぎかっこをつけた言葉の意味をふまえて考えている。 言本文の語句について、辞書的な意味をふまえたうえで、思考力や想像力を働かせて文脈上の意味を捉えている。
				漢字の部首と成り立ち 【漢】	1	・言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 教材文を読んで、漢字の部首と成り立ちについて考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関漢字の部首や成り立ちを学ぶことをとおして、漢字のしくみや学び方について考えようとしている。 言漢字の部首と成り立ちについて、基本的な用語の意味や漢字に対する見方を理解している。
				漢字を使いこなそう ④ 【漢】	1	・漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関社会に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言社会に関わる言葉を書いたり読んだりしている。
	2 学期	理 解 力 2		詩三編 【読・文学】	3	・詩の内容を理解し、表現の特徴について自分の考えをもつ。	Cエ 言(オ) 漢(ア) 活動例(ア)	1 三編の詩の内容や表現について、それぞれ感じたことや気づいたことをまとめる。 2 感じたことや気づいたことが伝わるように、自分なりに工夫して朗読する。 3 朗読するときに、感じたことや気づいたことを伝えるためにどのような工夫をしたか書く。	関表現の特徴を分析的に捉え、その工夫や効果について自分の考えをもとうとしている。 Cそれぞれの詩の内容や表現の特徴について、気づいたことを説明している。 C詩の内容や表現の特徴を捉えて、朗読の工夫をしている。 言詩に用いられている表現の技法について理解して、朗読にいかしている。
				鑑賞文を書こう 【書】	2	・理由を明らかにして自分の気持ちを伝える。	Bウオ 言(ウ) 活動例(ア)	1 鑑賞文を書く。 2 感想を交流する。 3 学習を振り返る。	関自分の感じたことを人に説明するためには、その根拠や理由を示すことが大切であることに気づいて、文章を書こうとしている。 B題材についての自分の感じたよさが読み手に伝わるように、根拠を明らかにして書いている。 B題材について書き手の感じたよさと、それがどのように書かれているかに着目して自分の意見や感想を述べている。 言自分の感じたよさを表すために、事象や行為などを表す多様な語句の中から、ふさわしいものを選んで用いている。
				言葉の単位・文節の関係 【言】	2	・言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	言(ウ)	1 教材文を読んで、言葉の単位・文節の関係について考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関単語や文節の切り方によって異なってくる多義的な文の意味に見つけようとしている。 言言葉の単位や文節の関係に関わりのある言葉について、その名称と働きを理解している。

月	3 学期	2 学期	単 元 名	教材名【領域】	時 数	学習目標	指導事項・ 言語活動例	学習活動	評価規準
10			後 期	漢字を使いこなそう ⑤ 【漢】	1	・漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関関係に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言関係に関わる言葉を書いたり読んだりしている。
				討論ゲームをしよう 【話・聞】	5	・相手の意見をふまえながら話す。 ・相手の発言を聞いて、自分の考えをまとめる。	Aイオ 言(ア) 活動例(イ)	1 テーマを決める。 2 自分の考えをまとめる。 3 役割を決める。 4 討論ゲームをする。 5 学習を振り返る。	関話し合いをとおして、自分と異なる立場や考え方を尊重しながら、自分の考えを確かなものにしてしようとしている。 A自分の意見とその根拠が相手に伝わるように、話の組み立てを考えている。 A討論ゲームの話題や方向を捉えて話したり聞いたりしながら、自分の考えをまとめている。 言場にふさわしい言葉遣いや、音量、抑揚などを意識して話し合っている。
				この小さな地球の上で 【読・説明】	3	・自分のものの見方・考え方を広げるために読む。	Cオ 言(ウ) 漢(ア) 活動例(ウ)	1 「ナスカ高原」の話と「イースター島」の話を、表にしてまとめ、比較する。 2 さまざまな体験や経験によって筆者はどのような見方や考え方をもったか話し合う。 筆者のものの見方・考え方について、共感する部分や共感できない部分について話し合う。 3 この文章を読んで自分の考えがどのように変わったか、文中の表現を根拠にしてまとめる。	関筆者のものの見方や考え方について、話し合ったり考えたりすることをとおして、自分の考えを広げようとしている。 C筆者のものの見方や考え方を、それがどのような体験や経験によるものなのかをふまえて読み取っている。 C「人間は、果てしなく賢明で、底知れず愚かだ。」(P115L4)とする筆者のものの見方や考え方について話し合ったことをもとに、共感することや疑問に思ったことについて、自分の考えをもっている。 言事象や行為などを表す多様な語句について、その意味を確かめながら文章の内容を理解している。
				音声のしくみとはたらき 【言】	1	・言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	言(ア)	1 教材文を読んで、音声のしくみとはたらきについて考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関標語や川柳のリズムや響きのよさが、音節の数に由来していることを理解しようとしている。 言基本五十音図に対して、音節、母音・子音の考え方をとおむね理解している。
				漢字を使いこなそう ⑥ 【漢】	1	・漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関話し合いや日常生活に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言話し合いや日常生活に関わる言葉を書いたり読んだりしている。
11			思考力 1	学校案内リーフレットをつくろう 【書】	4	・書いた文章を読み返し、より読みやすくわかりやすい文章にする。	Bエ 言(ウ) 活動例(ウ)	1 載せる内容を決める。 2 構成を考えて下書きする。 3 推敲して清書する。 4 学習を振り返る。	関書いた記事を読み返したり、読み手の興味や関心を考えて意見を出し合ったりすることをとおして推敲の必要性に気づき、文章を書くことにいかそうとしている。 B書く目的に合うように必要な資料を集め、読み手の興味や関心を考えて、文章を書いている。 Bわかりやすく読みやすい文章にするために、文字や言葉の使い方、述べ方などを確かめながら、書き直している。 言読み手にとってわかりやすい適切な言葉を選んだり、親しみやすい述べ方を用いたりして書いている。

月	3 学期	2 学期	単 元 名	教材名【領域】	時 数	学習目標	指導事項・ 言語活動例	学習活動	評価規準
12				信頼をつなぐ 【話・聞】	4	・どんなことを伝えるために、何を例に用いて説明しているかを考えながら読む。	Cイ 言(エ) 漢(ア) 活動例(イ)	1 ファスナーはどのようなところで使われているか。本文中にあげられている例を書き出す。 2 三つのまとまりに、それぞれ見出しをつける。 筆者が伝えなかったことを中心にして、文章の内容を要約しよう。 3 この文章では、例がどのようなはたらきをしていたか、書いてまとめる。	関例示の意味や効果を考えながら、筆者が伝えたいことを論の展開にそって読み取ろうとしている。 A本文中にあげられている例のそれぞれが、筆者が伝えたいこととどのようにつながっているかを確かめながら読んでいる。 A大きな意味のまとまりごとに中心を読み取って、それぞれのまとまりがどのような役割をもっているかを理解している。 言伝えたいこととそれを支える例とを書き分けるために、文と文・段落のつながりを筆者がどのように工夫しているかを理解している。
				単語の類別・品詞 【言】	2	・言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	言(エ)	1 教材文を読んで、単語の類別・品詞について考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関品詞ごとの意味のおおまかな違いについて考えようとしている。 言単語の品詞分類についておおむね理解している。
				漢字を使いこなそう ⑦ 【漢】	1	・漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関考えることや身体・健康に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言考えることや身体・健康に関わる言葉を書いたり読んだりしている。
			思考力2	タオル 【読・文学】	4	・登場人物の行動から、心情を読み取る。	Cウ 言(ウ) 漢(ア) 活動例(ア)	1 おじいちゃんに対する少年の気持ちがよく表れている表現に線を引く。 2 場面ごとの少年の気持ちを捉え、話し合う。 最後の場面で「熱いものがまぶたからあふれ出た」理由を考え、説明する。	関文脈をたどりながら登場人物の行動や心情の描写を読み取ることをとおして、作品の世界を味わおうとしている。 C時間の流れにそって、祖父の死についての少年の心情を確かめながら読んでいる。 C最後の場面での、少年と父とシライさんのそれぞれの思いがどのように描かれているかを考えながら読んでいる。 言人物の行動や場面を描くために用いられている語句について、その効果を考えている。
				私のトップニュースを書こう 【書】	4	・日常生活の中から材料を集め、自分の考えをまとめる。 ・根拠の明確さについて意見を述べ合い、自分の表現の参考にする。	Bアオ 言(ウ) 活動例(イ)	1 記事の構想を練る。 2 下書きする。 3 下書きを読み合う。 4 新聞を作る。 5 学習を振り返る。	関書く目的にそって、伝えたい内容の根拠が明確になっているかどうかを交流して確かめ、自分の表現にいかそうとしている。 B自分が書きたいできごとを構想メモにまとめて、伝えたい内容やその理由を整理している。 B下書きを読み合い、どのようにしたらより伝わりやすくなるかを指摘し合い、表現を工夫して書き直して清書している。 言書く目的にそって、事象や行為などを表す多様な語句の中から、伝えたい内容にふさわしいものを選んで用いている。
				漢字の音と訓 【漢】	1	・言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 教材文を読んで、漢字の音と訓について考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関同音異字・同訓異字の使い分けについて考えようとしている。 言漢字の音と訓の違い、同音異字・同訓異字についておおむね理解している。
				漢字を使いこなそう ⑧ 【漢】	1	・漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関考えることや科学・自然に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言考えることや科学・自然に関わる言葉を書いたり読んだりしている。

月	3 学期	2 学期	単 元 名	教材名【領域】	時 数	学習目標	指導事項・ 言語活動例	学習活動	評価規準
1	3 学期		想像 力	「故事成語」を使って 書こう 【書】 ※【伝】との関連	3	・題材の用い方について感想を交流する。	Bア 伝(ア) 活動例(ア)	1 故事成語の由来を読む。 2 意味と由来を調べる。 3 文章を書く。 4 感想を交流する。 5 学習を振り返る。	関故事成語の意味や由来にそった文章を書くことをとおして、日常生活に故事成語が使われている意味を理解しようとしている。 B意味や由来を調べた故事成語について、それが使われるのにふさわしい場面と結びつけて文章を書いている。 B故事成語の由来を確かめ、それを使うことが日常の表現を豊かにすることを理解している。 言漢文特有のリズムを味わいながら書き下し文を読んで、故事成語の由来となった世界に触れている。
2				トロツコ 【読・文学】	5	・主人公の描かれ方とおして、自分のものの見方や考え方を広げる。	Cオ 言(ウ) 漢(ア) 活動例(ア)	1 良平が体験したことを、時間の順序にしたがって、表にしてまとめよう。 2 場面ごとの良平の気持ちを話し合う。 情景の描写が、どのような効果をあげているか、話し合う。 作品に表れた作者の考え方について、話し合う。 3 「そのときの彼を思い出すことがある」のはどんなときだと思うか。書いてまとめ。	関最後の場面に表れている作者のものの見方や考え方について、自分なりのものの見方や考え方をもちようとしている。 C主人公の心情がどのように描かれているかを、場面の展開にそって読み取っている。 C情景の描写が、物語の展開や作品の雰囲気を描き出すうえで、どのような効果をあげているかを考えながら読んでいる。 言主人公の心情や情景を描くうえで用いられている多様な語句(擬声語・擬態語や畳語など)について、その役割や効果に注意して読んでいる。
				せりふと書き 【書】	2	・書いた文章を読み合い、題材の捉え方について感想を話し合う。	Bオ 言(ウ)	1 話のおもしろさを、せりふと書きに着目して説明する。 2 四枚の写真を自由に並べかえ、それぞれにせりふと書きをつけて、短い物語をつくる。	関他の人の題材の捉え方や物語の組み立て方の工夫について考え、自分の表現に役立てようとしている。 B写真や絵などについてさまざまに発想して、意外性や転換のおもしろさのある物語を工夫して書いている。 B題材の捉え方や、物語の組み立て方の工夫に着目して、感想を交流している。 言書く目的にそって、事象や行為などを表す多様な語句の中から、効果的な言葉を選んで用いている。
				効果的な表現方法 【言】	1	・言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	言(オ)	1 教材文を読んで、効果的な表現方法について考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関比喻や擬人法が表そうとしている状況について考えようとしている。 言比喻や擬人法の表現効果についておおむね理解している。
				漢字を使いこなそう ⑨ 【漢】	1	・漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関比喻やつながりに関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言比喻やつながりに関わる言葉を書いたり読んだりしている。

月	3 学期	2 学期	単 元 名	教材名【領域】	時 数	学習目標	指導事項・ 言語活動例	学習活動	評価規準
3			言語感覚	食感のオノマトペ 【読・説明】	4	数値やグラフから読み取った情報を手がかりに文章を読み進める。	Cカ 言(ウ) 漢(ア) 活動例(ウ)	1 文中のグラフを見て、気づいたことを書き出す。 2 「食感のオノマトペ」について、筆者は三つの点から説明している。それぞれの調査方法と調査結果とを表にまとめる。 資料や調査結果から、筆者は「食感のオノマトペ」をどのように考察しているか。整理して説明する。 3 この文章を読んで、オノマトペについて考えたことを、本などを参考にしてまとめる。そのとき、必要な部分を引用する。	関資料を引用したり用例をあげたりしながら、オノマトペについて感じたり考えたりしたことをまとめようとしている。 C日本語のオノマトペについて、どのような特徴があるかを、本文とグラフをもとに読み取っている。 C筆者が資料や調査結果をもとにどのように考え、整理したのかを読み取っている。 言さまざまなオノマトペが、日本語の表現を豊かにしていることを理解している。
				正確に聞き取ろう 【話・聞】	3	- 話される情報を正確に聞く。 - 自分の考えとの共通点や相違点を整理して聞く。	Aエ 言(ア) 活動例(ア)	1 情報を正確に聞く。 2 意見を聞き取る。 3 友達と意見を聞き合う。 4 学習を振り返る。	関全体と部分、事実と意見などに注意して話を聞いて、内容を確認するために質問をしたり、考えを比べたりして、聞き取った内容を整理しようとしている。 A話し手の伝えようとする内容がどのようなものかを、全体と部分、事実と意見などに注意しながら聞き取っている。 A話し手の意見について、自分の考えと比べて同じところや異なるところを整理しながら聞き取っている。 言聞き手として、話し手の声の大きさや間の取り方、話す速さなどの話し言葉の特徴に注意して話を聞いている。
				未来を見つめる 【書】	3	- 自分の伝えたいことを、適切な材料を用いて明確に書く。 - 書いた文章を読み返し、わかりやすい書き方について考える。	Bウエ 言(イ) 活動例(ア)	1 これからの自分を考える。 2 構成を考える。 3 下書きをする。 4 交流してから書く。 5 完成した文章を読み合う。 6 学習を振り返る。	関交流したことをいかにして推敲することをおして、読みやすくわかりやすい表現の仕方について考えようとしている。 B書きたい事柄の中心が明確になるように、内容を整理している。 B読み手に内容が確かに伝わる文章になっているかどうかを、交流をおして確かめ合っている。 言自分の「決意」を伝えるために選んだ漢字や短言葉について、その辞書的な意味をもとに自分らしい捉え方を説明している。
				文脈状の意味と用法 【言】	1	言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	(言)イ	1 教材文を読んで、文脈上の意味と用法について考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関文脈上で意味のわからない単語を国語辞典で引いて、意味を考えようとしている。 言辞書的な意味をもとにして文脈上の意味をおおむね推定している。
				漢字を使いこなそう ⑩ 【漢】	1	漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関言語や慣用句に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言言語や慣用句に関わる言葉を書いたり読んだりしている。

■2年生

月	3学期	2学期	単元名	教材名【領域】	時数	学習目標	指導事項・言語活動例	学習活動	評価規準
4	1学期	前期	伝統的な言語文化	枕草子・徒然草【伝】	3	・古典に表れたものの見方や考え方にふれ、登場人物や筆者の思いなどを想像する。	伝(イ)	1 筆者が人間や自然についてどう思っていたのか、現代の私たちと同じ点や違う点を考える。	関古典に表れたものの見方や考え方などについて、現代と比べて考えるなどして、古典の世界を楽しもうとしている。 言現代語訳や解説などを手がかりにして、古典に描かれたものの見方や考え方に触れている。
				漢詩の世界【伝】	3	・漢詩の特徴を生かして朗読するなどし、古典の世界を楽しむ。	伝(ア)	1 漢詩の中に描かれた情景や作者の心情などを想像しながら、朗読を工夫して、その世界を味わう。	関漢詩の特徴をいかしたり、作品の世界を想像したりしながら朗読することをおして、古典の世界を楽しもうとしている。 言語注などを手がかりに、作品に描かれた情景について想像したことをいかして読んでいる。
				国語辞典の活用【言】	1	・言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	言(イ)	1 教材文を読んで、国語辞典の活用について考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関言葉のもともとの意味を知ろうとして国語辞典を活用しようとしている。 言言葉にはもともとの意味や用法があることに理解している。
				漢字を使いこなそう①【漢】	1	・漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関伝統文化や伝統的なものの数え方、伝統的なことわざに関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言伝統文化や伝統的なものの数え方、伝統的なことわざに関わる言葉を書いたり読んだりしている。
	5		表現力1	プレゼンテーションをしよう【話・聞】	4	・社会生活の中から話題を決め、集めた材料を整理して資料をつくる。 ・目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話す。	Aアウ 言(オ) 活動例(ア)	1 計画を立てる。 2 資料を集める。 3 効果的な伝え方を考える。 4 リハーサルをする。 5 プレゼンテーションをする。 6 学習を振り返る。	関社会生活の中の話題について、自分の立場や考えを根拠を明らかにして伝えるために、資料や機器などを活用して話すことの効果を考えようとしている。 A社会生活の中からテーマを決め、さまざまな方法で材料を集め、目的に応じて整理している。 Aわかりやすく説明するために、機器などを用いたり、資料に図表や写真などを活用したりして話している。 言話す相手や目的にふさわしい話の形態や展開があることを理解している。
				読書感想文を書こう【書】	4	・自分の感想や考えが効果的に伝わるように書く。 ・文章を読み合い、自分のものの見方や考え方を広げる。	Bウオ 言(イ) 活動例(イ)	1 印象に残ったことを書く。 2 印象に残った理由を書く。 3 考えたことをまとめる。 4 読書感想文を読み合う。 5 学習を振り返る。	関読書感想文を読み合うことをおして、さまざまな考え方を知ったり、表現や構成について気づいたりして、自分の文章の参考にしようとしている。 B読んだ本の内容について感じたことや考えたことを、文章の一節を引用したり表現を工夫したりして、わかりやすく説明している。 B感想文を読み合い、説明の仕方や、感想文に表れたものの見方や考え方などについて、自分の考えを述べている。 言読んだ本の内容について感じたことや考えたことを表現するためにふさわしい言葉を選んでいる。
				用言の活用【言】	2	・言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	言(エ)	1 教材文を読んで、用言の活用について考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関「着る」と「切る」の活用の違いを考えようとしている。 言活用表のしくみをおおむね理解している。
				漢字を使いこなそう②【漢】	1	・漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関表現に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言表現に関わる言葉を書いたり読んだりしている。

月	3 学期	2 学期	単 元 名	教材名【領域】	時 数	学習目標	指導事項・ 言語活動例	学習活動	評価規準
6			表現力2	壁に残された伝言 【読・説明】	4	・発見された事実と、それを取材した筆者の思いがどのように書かれているかを読み取る。	Cイ 言(ウ) 漢(ア) 活動例(イ)	1 本文の写真を見比べて、感じたことや考えたことを書く。 2 本文の写真や図を参考に、「伝言」が発見された経緯と保存された事情を説明する。 本文に書かれたできごとが起こった理由を考えて話し合う。 3 伝言という言葉にこめられた二つの意味について、考えてまとめる。	関「伝言」という言葉のもつ二つの意味について、図や表を用いて表現している筆者の思いや願いについて考え、自分なりのものの見方や考え方を広げようとしている。 C「伝言」が発見された経緯や保存された事情について、写真や図なども参考にして読み取っている。 C発見された「伝言」のもつ価値について読み取ったことをもとに、当事者にとってだけでなくその社会的意義を含めて、考えたことをまとめている。 言発見された「事実」の説明と筆者の「思い」を書き分けるために、段落の構成の仕方や図・写真の用い方について、筆者はどのように工夫しているかを理解している。
				意見文を書こう 【書】	5	・社会生活の中から課題を決め、自分の考えをまとめる。 ・自分の意見や立場が明確になるよう、構成を工夫して書く。	Bアイ 言(オ) 活動例(イ)	1 課題を設定する。 2 取材する。 3 構成する。 4 下書きを交流・清書する。 5 文章を読んで交流する。 6 学習を振り返る。	関他の人の文章と自分の文章とを読み比べて、意見を伝えるためにふさわしい文章の構成や説明の仕方を考えようとしている。 B社会生活の中から選んだ課題について、多様な方法で集めた資料を友達と質問し合いながら整理し、自分の考えをまとめている。 B下書きの交流をとおして、意見や立場が明確か、根拠と意見がつながっているかなどの視点から文章全体の構成を見直している。 言伝えたい意見や事柄にふさわしい文章の展開を工夫している。
				さまざまな意味 【言】	1	・言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	言(イ)	1 教材文を読んで、言葉のさまざまな意味について考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関多義語や類義語・対義語、同音異義語をあげようとしている。 言一つで多くの意味を持つ語句(多義語)や別の語でありながら表す意味が似た語(類義語)、意味のうえで互いに反対の関係にある語(対義語)、音が同一であって意味の異なる語(同音異義語)について理解している。
				漢字を使いこなそう ③ 【漢】	1	・漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関表現に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言表現に関わる言葉を書いたり読んだりしている。
7			理解力1	走れメロス 【読・文学】	4	・登場人物の生き方や考え方について、自分の考えや意見をもつ。	Cエ 言(イ) 漢(ア) 活動例(ア)	1 メロスと王とが出会う場面を表にして整理する。 2 場面ごとのメロスの行動や気持ちを整理して話し合う。 最後のせりふを言ったときの王の気持ちについて考え、話し合う。 作品の登場人物の考えた方について、共感したり疑問をもったりした点を話し合う。 3 ある場面について、メロスの心情と自分の考えとを比べて感想を書く。	関小説に描かれた人物のものの見方や考え方について、自分なりの考えをもとに感想を交流して、考えを深めようとしている。 C小説の中のそれぞれの場面の登場人物の言動や心情などについて、描写の効果なども考えながら読み取っている。 C登場人物のそれぞれのものの見方や考え方について、自分の考えと比べながら、共感できることや疑問をもったことをまとめながら読んでいく。 言人物の心情や行動を表すために作者がどのような言葉や表現を用いているかなどの、表現上の効果を考えながら小説を読んでいる。

月	3 学期	2 学期	単 元 名	教材名【領域】	時 数	学習目標	指導事項・ 言語活動例	学習活動	評価規準
9	2 学期			日本人はアリスの同類だった 【読・説明】	4	・自分のものの見方や考え方と比べながら読む。	Cエ 言(エ) 漢(ア) 活動例(イ)	1 本文から日本のマンガとアニメを定義した文を探す。 『鳥獣人物戯画』と現代のマンガとを比べ、共通点と相違点をまとめる。 2 〈絵〉と〈ことば〉との関係を整理して、具体的な例をあげて説明する。 本文に表れた筆者の見方について、自分の経験などと結びつけて考え、話し合う。 3 本文に表れた筆者の考えをまとめる。	関筆者の「語り絵」についてのものの見方や考え方と自分の考え方を比べ、話し合ったり考えたりすることを通して、自分の考えを広げようとしている。 C筆者が捉えているマンガとアニメという言葉の定義や、「鳥獣人物戯画」と「現代のマンガ」、「絵」と「言葉」という二つの言葉の関係を確かめながら、内容を読み取っている。 C「私たち日本人は～、昔からアリスの同類だったらしいのです。」(P91L7)という筆者のものの見方や考え方について話し合ったことをもとに、共感することや疑問に思ったことについて、自分の考えをまとめている。 言文中の「語り絵」という言葉の意味を、筆者がかぎかつことやまかつことを使い分けていることも含めて考えている。
				熟語の構成と意味 【言】	1	・言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	言(イ)	1 教材文を読んで、熟語の構成と意味について考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関熟語の組み立てを考えて型に分類しようとしている。 言熟語の組み立てには型があることを理解している。
				漢字を使いこなそう ④ 【漢】	1	・漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関産業・経済に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言産業・経済に関わる言葉を書いたり読んだりしている。
			理解力2	短歌の世界 【読・文学】	4	・語句の意味や用い方に注意して、作品世界を味わう。	Cア 言(イ) 漢(ア) 活動例(ア)	1 意味の切れ目や調子に注意して音読する。 2 短歌にこめられた情景や心情について、調べたり考えたりしたことを交流する。 3 好きな短歌を選んで鑑賞文を書く。	関一首を選んで鑑賞文を書くことをとおして、短詩形のよさや特徴などについて考えを深めようとしている。 Cそれぞれの短歌の内容や表現の特徴について、「短歌を味わうために」(P100)を参考に、自分の考えをまとめている。 C短歌にこめられている情景や心情、それを表現している語句の意味や方法について、感想をまとめ交流している。 言意味の切れ目や調子に注意して、短歌を朗読している。
				見られる側の言い分 【書】	2	・発想や表現のおもしろさについて感想を交流する。	Bウオ 言(ア) 活動例(イ)	1 何かになりきってつぶやきを書く 2 作品を読み合い、感想を交流する。	関題材に応じて表現を工夫した文章を書き、それを読み合うことをとおして、自分の考えを広げようとしている。 B「見られる側」の意見や心情が伝わるように、ふさわしい話題を選んだり描写や表現を工夫したりしている。 B書いた作品を読み合い、発想のおもしろさ、描写や表現の工夫の仕方に着目して意見を述べている。 言話し言葉の特徴を意識し、題材に応じて共通語と方言を使い分けるなど、言葉の使い方を工夫している。
				助詞・助動詞のはたらき 【言】	2	・言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	言(ウ)	1 教材文を読んで、助詞・助動詞について考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関自立語の後にさまざまな助詞・助動詞を付けて多くの文を作ろうとしている。 言助詞・助動詞が自立語の後にについてさまざまな意味を表すことを理解している。
				漢字を使いこなそう ⑤ 【漢】	1	・漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関産業・経済、人と人との関係などに関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言産業・経済、人と人との関係などに関わる言葉を書いたり読んだりしている。

月	3学期	2学期	単元名	教材名【領域】	時数	学習目標	指導事項・言語活動例	学習活動	評価規準
10		後期	伝え合う力	パネルディスカッションをしよう【話・聞】	5	- 異なる立場や考えの人にもわかるように、自分の考えをまとめる。 - 相手の立場や考えを尊重し、目的にそって話し合う。	Aイオ 言(ア)(イ) 活動例(イ)	1 テーマを決める。 2 発表内容を組み立てる。 3 パネルディスカッションをする。 4 学習を振り返る。	関 目的にそって話し合うことをとおして、さまざまな立場や視点にふれたり、それらと自分の考えを比べたりしようとしている。 A 自分の立場を支える資料を集め、異なる立場からの反論や意見などを予想しながら、述べ方や構成を考えている。 A 主張や意見、根拠や理由などを考えるための話し合いをとおして、互いの発言の内容を検討し、自分の考えを広げている。 言 話し合いの中で、考えを伝えるのにふさわしい語句の用い方、言葉遣いがどのようなものかを理解している。
				小さな手袋【読・文学】	4	文体や描写に気をつけて読み、その表現効果について考える。	Cエ 言(オ) 漢(ア) 活動例(ア)	1 登場人物を整理する。 2 場面ごとの語り手の気持ちを捉えて交流する。 語り手が物語に及ぼす効果について、考えて説明する。 3 視点人物を変えて物語を書き換える。	関 視点をえて物語を書き換えるなどして、物語の構成や展開、描写や表現の効果などについて考えようとしている。 C 作品のそれぞれの場面で、「私」の「シホ」に対する気持ちなどがどのように描かれているかを考えながら、内容を読み取っている。 C 作者がなぜ「私」を視点にこの物語を書いたのかということについて、表現の効果も含めて考えている。 言 作品の中の登場人物が、それぞれ他の人物からどのような人物として描かれているかを、表現に基づいて整理している。
				話し言葉と書き言葉【言】	1	言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	言(ア)(オ)	1 教材文を読んで、話し言葉と書き言葉について考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関 実際に発話して話し言葉に現れる特徴を見つけようとしている。 言 話し言葉と書き言葉では語彙や表現、伝達の仕方などで違いがあることをおおむね理解している。
				漢字を使いこなそう⑥【漢】	1	漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関 話し合いや日常生活に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言 話し合いや日常生活に関わる言葉を書いたり読んだりしている。
11			思考力1	事典をつくろう【書】	4	- 課題にそって材料を整え、観点を決めて自分の考えをまとめる。 - 具体的で効果的な説明の仕方を考え、描写を工夫する。	Bアウ 言(エ) 活動例(イ)	1 事典の名前と見出し語と題材を決める。 2 観点を決めて材料を集める。 3 説明文を書いて事典をつくる。 4 交換して読み合う。 5 学習を振り返る。	関 描写の仕方を工夫して書くことをとおして、読み手に事実や事柄を効果的に伝えようとしている。 B 書く内容にそって、説明の仕方を考えて材料を集めたり、整理したりしている。 B わかりやすい説明や具体例を加えたり、例をあげて具体的に説明したりするなど、描写を工夫しながら書いている。 言 微妙なニュアンスを伝えるために助詞や助動詞が果たしている役割について、理解している。
				「循環型社会」とは何か【読・説明】	4	文中に用いられている言葉を正しく理解し、筆者の論の進め方に注意しながら読む。	Cアウ 言(ウ) 漢(ア) 活動例(ウ)	1 リサイクル・リデュース・リユースの意味と具体例とを表にまとめる。 2 筆者が最も伝えたいことが書かれた段落を探し、そう考えた根拠を説明する。 筆者の文章構成の工夫について話し合う。 3 「循環型社会」について「環境」と「資源」の二つの言葉を使ってまとめる。	関 文中に用いられている語句の意味を理解したうえで、述べられている意見について考えを広げようとしている。 C 問題提起の文に着目し、それに対する論の展開を捉え、そこから筆者の主張を読み取っている。 C 筆者の「論の進め方」と「具体例の取りあげ方」に着目し、そのような書き方をした目的や意図について自分の考えをもっている。 言 意見を論理的に伝えるために、どのような文章の構成の工夫がされているかを理解して、内容を読み取っている。

月	3 学期	2 学期	単 元 名	教材名【領域】	時 数	学習目標	指導事項・ 言語活動例	学習活動	評価規準
12				敬語の意味と種類 【言】	1	・言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	言(ア)(オ)	1 教材文を読んで、敬語の意味と種類について考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関敬語を正しく使おうとしている。 言丁寧語、尊敬語、謙譲語の違いをおおむね理解している。
				漢字を使いこなそう ⑦ 【漢】	1	・漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関考えることや科学に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言考えることや科学に関わる言葉を書いたり読んだりしている。
				蒼いみち 【読・文】	4	・描写の工夫や効果を考え、登場人物の心情の変化を読み取る。	Cイ 言(イ) 漢(ア) 活動例(ア)	1 作品の登場人物を整理する。 2 他の登場人物に対する語り手の考えを捉えて話し合う。 文章に表れた語り手の思いを説明する。 3 登場人物の特徴が表れた表現を抜き出し、その効果について考えてまとめる。	関登場人物の特徴を表している表現の効果について、考えたり感じたりしたことを交流して深めようとしている。 Cこの作品が「私」の視点で描かれていることから全体の構成や展開にどのような効果をあげているかを考えながら、物語を読んでいる。 C最後の場面での「私」の思いを、「納得した」内容を中心に考えたことを交流している。 言人物や情景を描くために用いられている言葉の使い方の工夫に着目して、物語を読んでいる。
				手紙文を書こう 【書】	4	・書いた文章を読み返し、言葉遣いや内容を見直す	Bエオ 言(ア) 活動例(ウ)	1 下書きをする。 2 下書きを読み返す。 3 下書きを読み、アドバイスし合う。 4 清書して投函する。 5 学習を振り返る。	関書いた手紙を読み返したり、書く目的を考えて意見や助言をし合ったりすることをおして推敲の必要性を理解し、文章を書くことについていかそうとしている。 B書く目的にふさわしい文章にするために、語句や文の使い方や手紙の形式などに注意して、書いた手紙を読み返している。 B書いた手紙を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言し合ったりしている。 言書く相手や目的にふさわしい言葉遣いや敬語を用いて書いている。
				文の成分の順序と照応 【言】	1	・言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	言(ウ)	1 教材文を読んで、文の成分の順序と照応について考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関文の意味の曖昧さや照応の不適切さについて考えようとしている。 言曖昧な文の意味がはっきりするように直したり、照応の不適切さを修正したりしている。
				漢字を使いこなそう ⑧ 【漢】	1	・漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関自然や身体・健康に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言自然や身体・健康に関わる言葉を書いたり読んだりしている。
1	3 学期		想像力	平家物語 【読・文学】 ※【伝】との関連	4	・描かれた場面を想像し、登場人物の生き方について考える。	Cイ 伝(ア) 伝(イ) 漢(ア) 活動例(ア)	1 場面や人物の様子を想像して朗読する。 2 場面ごとの熊谷次郎直実の行動や心情をまとめる。 3 「平家物語」の冒頭や「敦盛の最期」で描かれたものの見方や考え方について考えてまとめる。	関「冒頭」と「敦盛の最期」で描かれているものの見方・考え方に共通するものは何かを捉え、それについての自分なりの考えをまとめようとしている。 C場面の展開や登場人物などの描写に注意しながら作品を読んで、内容を理解している。 C作品に描かれた人物のものの見方や考え方について、時代背景や状況なども考えながら想像して、交流を通して確かめている。 言文体の特徴に注意して、登場人物の心情や作者の思いを想像しながら、作品を音読している。

月	3学期	2学期	単元名	教材名【領域】	時数	学習目標	指導事項・言語活動例	学習活動	評価規準
2				詩二編 【読・文学】	2	・構成や展開、描写の特徴を読み取る。	Cウ言(イ)漢(ア) 活動例(ア)	1 観点にそって詩の内容を整理する。 2 読み取ったことが伝わるように朗読し、その違いを確かめ合う。 3 それぞれの詩の表現の工夫について、他の人の考えも含めてまとめる。	関詩の構成や展開、表現の仕方について気づいたことを具体的にあげながら感想を発表し合い、考えを深めようとしている。 C詩の構成や展開、表現の仕方にどのような工夫があるかを、具体的な表現に基づいて考えながら、内容を捉えている。 C互いに朗読を聞き合い、詩の構成や展開、表現の仕方をどう捉えて朗読にいかそうとしたかを確かめ合っている。 言詩の中で使われている語句の意味を吟味したり、語句の使われ方の微妙な違いを意識したりしながら読んでいる。
				物語をつくろう 【書】	4	・伝えたいことが明確になるように表現を工夫する。 ・文章の構成、表現の仕方について意見を交流する。	Bイオ言(オ) 活動例(ア)	1 ストーリーを構想する。 2 物語を書く。 3 感想を交流する。 4 学習を振り返る。	関物語を書いて、読み合ったり感想を交流したりすることをおして、文章の構成や表現の仕方を工夫しようとしている。 B選んだ絵から考えたことをもとに、場面や登場人物を設定し、物語の展開を考えている。 B文章の構成や表現の仕方などで工夫が見られた点やよかったところなどについて、意見を述べ合っている。 言想定した読み手に物語の内容が伝わるように、文章の形態や表現を工夫している。
				方言と共通語 【言】	1	・言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	言(ア)(オ)	1 教材文を読んで、方言と共通語について考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関自分自身や身の回りの人からその地域の方言の言葉を探そうとしている。 言方言と共通語の違いやそれぞれのはたらきについておおむね理解している。
				漢字を使いこなそう ⑨ 【漢】	1	・漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関比喻やつながりに関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言比喻やつながりに関わる言葉を書いたり読んだりしている。
			言語感覚	日本語メガネのかけ替え 【読・説明】	3	・ものの見方や捉え方の違いについて考えながら読む。	Cオ言(ア)漢(ア) 活動例(ウ)	1 日本語の一人称の多様性から筆者が考えたことをまとめる。 2 英語と日本語の物事の捉え方の違いに対する筆者の考えについて話し合う。 3 題名について考えてまとめる。	関文中の「メガネ」が、なぜかぎかつこをつけて書かれたのかということを中心に、筆者のものの見方や考え方についての意見を交流しようとしている。 C例示された事柄についての筆者のものの見方や捉え方が表れている言葉について、それぞれがどのような意図で書かれたのかを考えながら文章を読んでいる。 C筆者が二つの「メガネ」を使えるようになる前と後で、ものの見方や考え方がどのように変化したと考えているか、交流を通して確かめている。 言日本語の一人称のそれぞれがどのような使われ方をしているのかを確かめて、言葉の語感について考えている。
3				論理を追って聞こう 【話・聞】	3	・論理の展開に気をつけて聞き合い、自分の考えを深める。	Aエ言(ウ) 活動例(ア)	1 話の構成を考えながら聞く。 2 友達と意見を聞き合う。 3 学習を振り返る。	関話をまとまりとして聞いて、その内容について比べながら、自分の考えを広げようとしている。 A他の学習者の話を聞いて、話の要点とそれがどのような事実に基づいているかを捉えている。 A話の論理的な構成や展開に注意して聞いて、自分の考えと比べて賛成か反対か、納得できるかどうかなどの判断をしている。 言伝わりやすく聞き取りやすい話に必要な語順や語の照応に注意して、話したり聞いたりしている。

月	3 学期	2 学期	単 元 名	教材名【領域】	時 数	学習目標	指導事項・ 言語活動例	学習活動	評価規準
				この人を語る 【書】	4	- 相手に効果的に伝わるように、構成や表現を工夫して書く。 - わかりやすい文章になるよう、語句や文、文章の構成を見直す。	Bウエ 言(オ) 活動例(イ)	1 人物を決めて資料を集める。 2 構成を考える。 3 紹介の仕方を考えて書く。 4 パンフレットを読み返す。 5 学習を振り返る。	関書く目的を明確にして読み手に効果的に内容が伝わるように、文章の構成や表現を工夫しようとしている。 B伝えたい事柄や事実が効果的に伝わるように、具体例の示し方や、説明・描写の仕方を工夫して書いている。 B伝えたい内容にふさわしい説明や描写になっているか、それぞれの記事のつながりが適切かなどの視点から文章を整えている。 言書く目的にそって、文章の形態や展開にふさわしいものとなるように(考えながら)、資料を用いて書いている。
				さまざまな熟語の読み 【言】	1	言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	言(イ)	1 教材文を読んで、さまざまな熟語の読みについて考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関特別な読み方をする熟語の読み方について考えようとしている。 言特別な読み方をする熟語についてそのしくみをおおむね理解している。
				漢字を使いこなそう ⑩ 【漢】	1	漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関特別な読みに関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言特別な読みに関わる言葉を書いたり読んだりしている。

■3年生

月	3 学期	2 学期	単 元 名	教材名【領域】	時 数	学習目標	指導事項・ 言語活動例	学習活動	評価規準
4	1 学期	前期	伝統的な 言語文化	おくのほそ道 【伝】	3	・歴史的背景を考えながら古文を読み、古典の世界に親しむ。	伝(ア)	1 文章のもつリズムを味わいながら朗読する。 2 芭蕉がどのような思いを抱いて旅をしたか。根拠をあげて話し合う。 3 本文にある芭蕉の読んだ三つの句から一つを選び、三百字程度の鑑賞文を書く。	関芭蕉の旅への思いを想像しながら選んだ句についての鑑賞文を書くことをとおして、古典の世界に親しもうとしている。 言作品の背景をふまえて、俳句に描かれた情景につながる地の文の内容を捉えている。
				中国の古典の言葉 【伝】	3	・漢文の一節を引用して、自分の体験や考えを文章にまとめる。	伝(ア)(イ)	1 漢文独特のリズムや口調を味わいながら朗読する。 2 中国の古典の言葉の一説を引用し、三百字程度の文章を書く。 3 中国の古典言葉から読み取った内容について交流する。	関中国の古典(漢文)の一節を引用した文章を書いたり読み合ったりすることをとおして、古典に表れているものの見方や考え方を捉えて、言語生活にいかそうとしている。 言中国の古典(漢文)の一節を引用した文章を書いたり読み合ったりして、その言葉の意味の捉え方や用い方の妥当性を確かめている。
				慣用句・四字熟語 【言】	1	・言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	言(イ)	1 教材文を読んで、慣用句・四字熟語について考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関慣用句の正しい使い方や四字熟語の由来・意味について考えようとしている。 言慣用句を集めたり、四字熟語を使った短文を作ったりしている。
				漢字を使いこなそう ① 【漢】	1	・漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関伝統や四字熟語に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言伝統や四字熟語に関わる言葉を書いたり読んだりしている。
5			表現力	パブリックスピーチをしよう 【話・聞】	4	・相手や場に応じた内容を考えて、適切な言葉遣いで話す。 ・聞き取った内容や表現の仕方を、自分の表現にいかす。	Aイ 言(ア) 活動例(ア)	1 条件をはっきりさせる。 2 テーマや話題を決める。 3 スピーチメモをつくる。 4 スピーチをする。 5 学習を振り返る。	関話す相手や場の状況にふさわしいスピーチを考えることをとおして、内容や組み立て、言葉遣いを考えて、効果的な話し方について工夫しようとしている。 A聞き手の人数や立場をふまえて、適切な言葉遣いを意識しながらスピーチの内容を考えている。 A自分の表現にいかすために、内容の組み立て方や話し方、言葉遣いについて評価しながら、スピーチを聞き合っている。 言相手や場面に応じた言葉遣いや、敬語の適切な使い方を理解している。
				「私の友情論」を書こう 【書】	3	・資料を適切に引用して説得力のある文章を書く。 ・書いた文章を読み返し、文章全体を整える。	Bイ 言(イ) 活動例(ア)	1 自分の考えを書き出す。 2 資料を選び、引用の仕方を考える。 3 カードをもとに書く。 4 交換して読み合う。 5 学習を振り返る	関取りあげた問題についての自分の考えを明確にするために、論理の展開の仕方や資料の用い方に注意して、文章の体裁を整えようとしている。 B書く目的にそって、自分の考えを述べるためにふさわしい資料を用いて書いている。 B説得力のある文章になるように、論理の展開や資料の用い方を見直している。 言社会生活で使う語彙について意識しながら言葉を使い、語感を磨き語彙を豊かにしている。

月	3 学期	2 学期	単 元 名	教材名【領域】	時 数	学習目標	指導事項・ 言語活動例	学習活動	評価規準
6				冥王星が「準惑星」になったわけ 【読・説明】	4	この文章と他の資料とを読み比べ、筆者の考え方や論の進め方について考える。	Cウオ言(イ)漢(ア)活動例(イ)	1 「天王星」、「海王星」、「冥王星」の発見は、それぞれどのような技術革新によってもたらされたのかをまとめる。 2 文中の語に着目しながら、冥王星が「準惑星」になった経緯を説明する。 冥王星が「準惑星」になったことについて、本文と資料とを読み比べて、気づいたことや考えたことなどを話し合う。 3 本文中の5枚の新聞記事や写真、図表が、それぞれどのような効果をあげているかを箇条書きでまとめる。	関科学的な内容を伝えるための文章で、構成や展開、表現の仕方、資料の用い方などがどのように工夫されているかを考えながら読み比べて、書き手の意図と表現の仕方の関わりを考えようとしている。 C冥王星が準惑星になった経緯について、根拠や歴史的な経緯をふまえて順序立てて説明している。 C本文と資料とを読んで、それぞれの文章に表れている社会や自然についての見方や考え方の違いを比べながら考えている。 言天文に関する内容を科学的に説明するために、筆者が論の展開や言葉の使い方を工夫していることを理解して(文章の内容を読み取っている)。
				相手意識と敬語の機能 【言】	1	言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	言(ア)	1 教材文を読んで、相手意識と敬語の機能について考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関話し相手や話の場面に適切な言葉や表現を考えようとしている。 言話し相手や話の場面にふさわしい敬語を使って対話をしている。
				漢字を使いこなそう② 【漢】	1	漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関表現に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言表現に関わる言葉を書いたり読んだりしている。
			理解力	「文殊の知恵」の時代 【読・説明】	4	筆者の主張と、それを支える具体例との関係を考えながら読む。	Cイ言(イ)漢(ア)活動例(ウ)	1 筆者は「文殊の知恵」とはどのようなものかといっているかがわかる部分に線を引く。 2 本文の前半と後半とで、筆者はそれぞれどんなことを述べ、それらはどのような関係にあるかを整理して話し合う。 筆者の主張とそれを支える具体例との関係を考えるために、資料にある二つの文章を読み、考えた意見を交流する。 3 「文殊の知恵」を生み出す力について、自分の体験をふまえて考え、書いて整理する。	関文章の論の展開にしたがって筆者の考えを理解し、自分の体験と結びつけて考えようとしている。 C筆者の主張の根拠や、わかりやすく述べるための論理の展開を確かめながら、内容を的確に理解している。 C本文と後の二つの文章とを読み比べて、筆者の主張と根拠の示し方について、その違いや妥当性などについて自分の考えをまとめている。 言「三人寄れば文殊の知恵」という言葉の由来を確かめたり、類似した表現を調べたりして、語感を磨いたり、語彙を豊かにしたりしている。

月	3 学期	2 学期	単 元 名	教材名【領域】	時 数	学習目標	指導事項・ 言語活動例	学習活動	評価規準
7				猫 【読・文学】	4	・場面の展開にそ って人物の心の 動きを読み取る。	Cイ 言(イ) 漢(ア) 活動例(ア)	1 ソフィアの目には、マッ ペとスヴァンテはそれぞれ のような猫として映って いるかを、表にしてまとめ る。 2 獲物を捕り始めたこと で、マッペに対するソフィ アの気持ちはどのように 変化したか、書いてまとめ る。 ソフィアが「マッペに帰っ てきてほしいの！」と叫ん だ理由を考えて話し合う。 3 「おばあさん」が作品の 中で果たしている役割が わかる部分を書き出す。	関登場人物が作品全体の中で果たしている役割 について評価して、作品のよさについて考えよ うとしている。 C主人公の気持ちの変化を、猫の成長による変 化と関連づけて捉え、作品の世界がどのように 描かれているかを考えている。 C主人公の発言にこめられた思いが、作品全体 のなかでどのような意味をもつかということにつ いて、交流をとおして考えを深めている。 言登場人物の気持ちや言動を特徴づけている語 句や語彙について、場面や描写にそって理解 している。
				詩の魅力を伝えよう 【書】	3	・グループで取材 して考えを深め、 適切な構成を工 夫する。 ・書いた文章を読 み合い、自分の 表現にいかす。	Bアエ 言(イ) 活動例(ア)	1 詩を選び、魅力を探る。 2 情報を集める。 3 魅力を伝える文章を書 く。 4 学習を振り返る。	関書いた文章を互いに読み合っ て、情報の活用の 仕方や文章の構成を評価し合 い、自分の文 章にいかそうとしている。 B書く目的にそって集めた情報について、さま ざまな視点や立場から検討して考えを深めてい る。 B他の人との交流をとおして、集めた情報の中か ら何を取りあげ、どのように書くかを考えてい る。 言選んだ詩の中の語句や表現について、その意 味の微妙な違いを説明している。
				俳句の世界 【読・文学】	3	・語句の意味や表 現の効果を考え ながら、読み味 わう。	Cア 言(イ) 漢(ア) 活動例(ア)	1 句切れに注意しながら、 俳句を音読する。 2 季語に注意して、掲載さ れた俳句にこめられた情 景や心情を読み味わい、 交流する。 3 好きな俳句を選び、自分 なりの視点をもって鑑賞 文を書く。	関選んだ俳句について、その句の表現の特徴や よさを評価して、言葉の使い方について考えを 深めようとしている。 C解説文を参考に、句切れなどの表現の特徴に 注意して音読し、句の内容を理解している。 C季語などを手がかりにして、それぞれの句の情 景や作者の心情を捉え、語句の用い方の効果 などについて感じたことを交流している。 言俳句に用いられている語句の意味や、語句の 使われ方について理解している。
				国語辞典の広がり 【言】	1	・言葉の特徴やき まり、漢字につ いての理解を深め る。	言(イ)	1 教材文を読んで、国語 辞典の広がりについて考 える。 2 「やってみよう」に取り組 む。	関国語辞典をさまざまな用途に使用しようとい っている。 言国語辞典を活用してさまざまな課題について 調べている。
				漢字を使いこなそう ③ 【漢】	1	・漢字の読み書き についての理解 を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字 を書く。 2 中学校で学習する漢字 を学ぶ。	関社会・経済や産業・技術に関わる言葉の漢字 を読んだり書いたりすることをおして、自分の 言語生活にいかそうとしている。 言社会・経済や産業・技術に関わる言葉を書い たり読んだりしている。
			伝え合う力	「企画会議」を開こう 【話・聞】	4	・話題を決め、資 料などを活用し て説得力のある 話をする。 ・話し合いの展開 や進行を工夫 し、お互いの考 えをいかし合う。	Aアエ 言(イ) 活動例(イ)	1 話題を決め、企画を出 す。 2 企画を交流する。 3 企画を統合する。 4 企画を発信する。 5 学習を振り返る。	関少数意見を尊重するなど、全体としての話し合 いがよりよい結論に至るように意識して、話し合 いに参加しようとしている。 A話す目的にそって内容を考え、相手に伝わるよ うに話の構成や資料の提示の仕方を工夫する などして、効果的に話している。 Aお互いの考えをいかしたりまとめたりするた めに、話し合いの内容について質問をしたり意見 を述べたりしている。 言言葉についての知識を広げ、話す目的にふさ わしい語句を用いている。

月	3 学期	2 学期	単 元 名	教材名【領域】	時 数	学習目標	指導事項・ 言語活動例	学習活動	評価規準
9	2 学期			海馬 【読・説明】	4	・説明の工夫や聞き手の役割に注目しながら対談を読み、考えたことをまとめる。	Cア 言(イ) 漢(ア) 活動例(ア)	1 対談者の説明でわかりやすいと思う箇所をあげる。また、その理由を考えてメモする。 2 対談者の言葉が対談を進めるうえで果たしている役割について、考えて説明する。 文中の言葉に注目して、神経細胞の特長について考え、話し合う。 3 対談者の答え方の工夫や聞き方の上手さを感じた部分を書いてまとめる。	関対談という形式から、話し手が伝えたい内容の中心を理解するためにどのような整理の仕方をすればよいかを考えようとしている。 C対談において、説明の仕方や話の聞き方にどのような工夫や配慮があるかを、確かめながら読んでいく。 C神経細胞の特徴について、「回路」「情報」や、「都市」「都市設計」という言葉を使うことで、どのようなよさや効果があるか考えて、自分の言葉で説明している。 言対談の中で言い換えをしている言葉について、それがどのようなつながりや効果をうみだしているかを考えながら読んでいく。
				表現につなげる文法 1 【言】	1	・言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	言(イ)	1 教材文を読んで、文章表現について考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関助詞相当の語句を使ったり、文末の表現を変えたりすることによって生じる意味の違いについて考えようとしている。 言場面や文脈に適した助詞相当の部句や、さまざまな文末の表現の働きについておおむね理解している。
				漢字を使いこなそう ④ 【漢】	1	・漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関話し合いや日常生活に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言話し合いや日常生活に関わる言葉を書いたり読んだりしている。
10	後 期		思考力	主張文を書こう 【書】	4	・社会生活の中から課題を決め、自分の考えを深める。 ・論理の展開を工夫して、説得力のある文章を書く。	Bアイ 言(イ) 活動例(ア)	1 主張したい内容を決める。 2 考えを整理する。 3 構成を考えて清書する。 4 書いた文章を交換して交流する。 5 学習を振り返る。	関文章を書く目的にふさわしい形態・論理の展開・言葉遣いなどに着目して、説得力のある文章とはどのようなものかを考えようとしている。 B社会生活の中から決めた課題について、自分の考えを広げたり深めたりするために、多様な方法で材料を集めたり整理したりしている。 B説得力のある文章になるように、考えの根拠となる適切な資料を用いたり、文章全体の構成を工夫したりして書いている。 言書く目的にそって考えを整理したり説明・説得したりするために適切な語句を選んで文章を書いている。
				高瀬舟 【読・文学】	6	・生き方や社会のあり方について、自分の考えを深める。	Cエ 言(ア) 漢(ア) 活動例(ア)	1 喜助と庄兵衛はどのような人物として描かれているか、箇条書きでまとめる。 2 喜助の言葉や行動が庄兵衛にもたらした思いを、ある視点からまとめる。 本文の結末の表現が暗示していることについて、考えて交流する。 3 この作品を読んで、人の生き方や社会のあり方などについて、考えたことを書く。	関小説に描かれている人の生き方や社会のあり方について、これまでに読んだ本を振り返ったり、新たに読書をしたりして、考えを深めたり広げたりしようとしている。 C登場人物の心の「ゆれ」や、他の人物の発言や行動などが与えた影響がどのようなものかを考えながら、作品に描かれた世界を理解している。 C作品の最後の一文から人の生き方について考えたことを、交流をとおして深めている。 言小説に使われている言葉について、それが書かれた時代、人物の描かれ方による用い方や意味の違いを現在の言葉遣いと比べながら、作品を読んでいる。
				和語・漢語・外来語 【言】	1	・言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	言(イ)	1 教材文を読んで、和語・漢語・外来語について考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関語種の違いによって生じる伝わる意味の違いを考えようとしている。 言語種の違いをもつ類義語をおおよそあげている。

月	3 学期	2 学期	単 元 名	教材名【領域】	時 数	学習目標	指導事項・ 言語活動例	学習活動	評価規準
11				漢字を使いこなそう ⑤ 【漢】	1	・漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関考えることや自然に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言考えることや自然に関わる言葉を書いたり読んだりしている。
				好きな和歌を紹介しよう 【書】 ※【伝】との関連	4	・書いた文章を交流し、自分の表現に役立てる。	Bエ 伝(ア) 活動例(ア)	1 響きを味わって音読する。 2 紹介する文章を書く。 3 感想を交流する。 4 学習を振り返る。	関書いた文章について感想を交流し、文章の展開や表現の仕方などについて評価し合うこととおして、自分の表現をよりよいものにしようとしている。 B選んだ作品について、情景や作者の心情、作品のよさなどについて感じたことを整理して、紹介する文章を書いている。 B書いた文章を読み合い、作品に描かれた情景や心情と、取りあげた作品について考えたり感じたりしたことが伝わるように書かれているかを、交流をとおして確かめ合っている。 言作者の立場や作品の背景となる状況をふまえて、作品に描かれた情景や作者の心情に親しんでいる。
12			想像力	詩二編 【読・文学】	3	・詩を読み比べ、表現の特徴や効果を考える。	Cウ 言(イ) 漢(ア) 活動例(ア)	1 二編の詩の内容と表現の仕方について、「相違点と共通点」「詩の表現上の特徴」に着目して、読み取ったことをまとめる。 2 それぞれの詩を読み、「用いられている語句のよさや特徴」「描写の仕方についてのよさや特徴」について、考えたことや感じたことを説明する。 3 感じ取ったよさや特徴が伝わるように声に出して読み、作品の理解を深める。	関それぞれの詩から感じられるよさや特徴をいかなしながら朗読し、作品の理解を深めようとしている。 C二つの詩に共通することと相違することとを整理し、表現の仕方の特徴が、詩の内容とどう関わっているかを考えながら読んでいる。 Cそれぞれの詩に用いられている語句や描写の仕方のよさや特徴について感じたことや考えたことを、交流を通して深めている。 言詩に用いられている象徴的な文語や方言のものが表現効果を理解している。
				理想のロボット 【書】	2	・構成の工夫や表現の仕方を評価しながら読み合う。	Bエ 言(イ) 活動例(ア)	1 身のまわりを見つめ、題材を集める。 2 ロボットの名称や特色、用途などを考える。 3 ロボットの「仕様書」を書く。 4 完成した仕様書を読み合って、話し合う。	関伝わりやすい説明の仕方とはどのようなものか、交流をとおして考えようとしている。 B書く目的にふさわしい言葉の使い方や文章の構成、表現の仕方とはどのようなものか、交流をとおして確かめている。 言伝えたい内容が明確に伝わるように慣用句・四字熟語、和語・漢語・外来語などを適切に用いている。
				言葉の現在・過去・未来 【言】	1	・言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	言(ア)	1 教材文を読んで、言葉の現在・過去・未来について考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関現在ゆれが生じている言葉や使われなくなった死語を探そうとしている。 言現在ゆれが生じている言葉や使われなくなった死語をいくつか指摘している。
				漢字を使いこなそう ⑥ 【漢】	1	・漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関比喩やつながりに関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言比喩やつながりに関わる言葉を書いたり読んだりしている。

月	3 学期	2 学期	単 元 名	教材名【領域】	時 数	学習目標	指導事項・ 言語活動例	学習活動	評価規準
1	3 学期		言語 感覚	対話劇を体験しよう 【話・聞】	2	- 状況や相手に応じて言葉を使い分ける。 - ふだんの自分の話し言葉について考えを深める。	Aイ 言(ア) 活動例(ア)	1 台本を読む 2 対話劇をする。 3 学習を振り返る。	関 対話劇を演じたり聞いたりすることをとおして、自分たちの話し言葉を振り返り、目的・相手・場面などに応じた話し方について考えようとしている。 A 場の状況や相手の様子に応じて対話劇のせりふを考えている。 A 人物の立場や人柄、心理などと、せりふに用いられている言葉や話し方との関係に注意して対話劇を聞いている。 言 相手や場面に応じた適切な言葉や話し方があることを理解している。
2				「ありがとう」と言わない重さ 【読・説明】	5	言葉と生活・社会・文化について考えながら読む。	Cエ 言(ア) 漢(ア) 活動例(ウ)	1 モンゴル人、日本人、アメリカ人の、感謝の気持ちとそれを表す言葉との関係についての考えがわかる箇所に線を引く。 2 「ありがとう」と言わないことを筆者が「重さ」と表現している理由を、考えて話し合う。 3 言葉と生活・社会・文化との関わりについて、考えたことをまとめよう。	関 筆者のものの見方や考え方を理解し、言葉とその背景にある文化について、話し合いをとおして考えを深めようとしている。 C 三つの感謝の表現の違いについての筆者の見方や考え方を読み取って、その見方や考え方について根拠をもって評価している。 C 題名にこめられた筆者の思いについて、交流を通して考えを深めている。 言 「ありがとう」、「パヤルラー」、「サンキュー」がそれぞれどのような語感をもって使われているかを比べて、言葉の伝わり方について考えている。
3				大切な言葉で編む 【書】	3	- 必要な資料を探し、適切に引用して文章を書く。 - 文章を読み返し、編集の意図が生きるように工夫する。	Bイ 言(イ) 活動例(イ)	1 題名を決める。 2 材料を探す。 3 構成を考える。 4 紙面を作る。 5 学習を振り返る。	関 アンソロジーをつくることをとおして、意図や目的が読み手に伝わるように表現の仕方を工夫しようとしている。 B 書く目的にそって、さまざまな方法で集めた材料を整理して、ふさわしい文章の形態や構成を考えて編集している。 B 文章を読み返して材料の取りあげ方や文章の構成などを見直して、アンソロジーの体裁を整えている。 言 選んだ言葉を手がかりにさまざまな言葉に触れることをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。
				表現につなげる文法2 【言】	1	言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深める。	言(イ)	1 教材文を読んで、文章表現について考える。 2 「やってみよう」に取り組む。	関 自動詞と他動詞による文の意味の違いや、異なる副助詞を使った文の意味の違いについて考えようとしている。 言 自動詞と他動詞による文の意味の違いや、異なる副助詞を使った文の意味の違いについておおむね理解している。
				漢字を使いこなそう⑦ 【漢】	1	漢字の読み書きについての理解を深める。	漢(ア)(イ)	1 小学校で学習した漢字を書く。 2 中学校で学習する漢字を学ぶ。	関 慣用句に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。 言 慣用句に関わる言葉を書いたり読んだりしている。

年間学習指導計画に基づく学習の評価

この資料における各教材についての評価規準と評価方法の例をお示しします。評価規準と評価方法はすべての教材について「関心・意欲・態度」と「言語についての知識・理解・技能」は必ず示すとともに、領域目標を学習目標に対応する形で各領域2つずつ例示しています。

＜表の見方について＞

教材名

…この資料に掲載されている教材は、必修となる「本編」の教材です。1教材につき1シートで作成されています。

学習目標

…各教材の冒頭に掲載されている学習目標と同じものです。

言語活動

…各教材の言語活動と、学習指導要領の各領域の言語活動例との対応例を示しています。
なお、言語活動例はあくまで多様な活動の一部ですので、言語活動例で示された活動の結果として獲得が期待される言語能力との対応を示したものもあります。

○「A十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例

…「○」はA規準の例示です。

なお、Aについては非常に多様な状況が考えられます。したがってこの資料では、Aと判断される姿の例を示していますが、この例にあてはまらない場合でも適宜Aに到達していると判断してください。

「☆」は「B（おおむね満足できると判断される状況）」に到達できていない学習者への手だての例示です。各教材の全ての評価規準で示しています。

言語についての知識・理解・技能

…〔言語事項〕以外の三つの領域では、「言語についての知識・理解・技能」についての指導事項はこの欄に掲載しています。

『学びを広げる』

…各学年の『学びを広げる』の教材は、本編の「読むこと」教材と入れ替えが可能な教材についてのみ評価規準を掲載しています。

「確かめよう」の評価

…「確かめよう」については、短時間（15～30分程度）での扱いを想定しているため、各領域の能力の評価規準を一つだけ示しています。

1 年生

■本編

単元名	伝統的な言語文化
単元のねらい	言語文化にふれる

教材名		配当時間	「声に出して、さまざまな作品を読もう」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
声に出して、さまざまな作品を読もう		4 言語 4	さまざまな種類の作品の音読を通して、古典のきまりなどを知る。 【伝(ア) 文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること】 【伝(イ) 古典には様々な種類の作品があることを知ること】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例	
関心・意欲・態度	1 文章を音読することをおして古典に親しんだり、我が国に長く伝わる伝統文化について関心を深めたりしようとしている。	記述の分析	○ さまざまな音読や朗読の仕方を考えたり、暗唱したりして、作品に描かれた世界をより豊かに味わっている。 ○ これまでに学習した古典の作品を紹介したり、興味をもった作品の他の部分や類似した作品を読んだりしようとしている。 ☆ 繰り返し音読させて、最も親しみやすいと感じる作品について「なぜそう感じたのか」を考えさせる。	
知識・理解・技能 言語についての	1 さまざまな種類の作品について、それぞれの作品のもつ言葉のリズムや表現の特徴の違いに気づいている。	記述の確認	○ それぞれの作品ごとの言葉のリズムや表現の特徴の違いに気づき、その違いがどのようなものかを自分なりの考えをもとに説明している。 ☆ 「春のうた」・「朧月夜」と和歌・俳句とを繰り返し音読させて、その違いをあげさせる。	

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習の学習目標」に基づいて設定している。

『学びを広げる』との関連	・京都・奈良紀行 (P8) ・小倉百人一首 (折込)
--------------	---

単元名	伝統的な言語文化
単元のねらい	言語文化にふれる

教材名		配当時間	「竹取物語」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
竹取物語		4 言語 4	・古典特有のリズムを味わいながら，古典の世界にふれる。 【伝(ア) 文語のきまりや訓読の仕方を知り，古文や漢文を音読して，古典特有のリズムを味わいながら，古典の世界に触れること】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例	
関心・意欲・態度	1 言葉のリズムを確かめながら読んで，古典に描かれている人々の生活や心情，ものの見方や感じ方を想像しようとしている。	記述の分析	☆ 現代語訳を手がかりに，登場人物や大まかな話の展開を確かめながら音読させる。	
知識・理解・技能 言語についての	1 古文特有のきまりや作品のもつ言葉のリズムに注意して音読している。	行動の観察	☆ 繰り返し音読させるなどして，古典のリズムに慣れさせる。	

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため，ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

『学びを広げる』との関連	・言葉を旅する (P26)
--------------	---------------

単元名	伝統的な言語文化
単元のねらい	言語文化にふれる

教材名		配当時間	「漢字の字体・画数・筆順」の学習目標 【学習指導要領の指導事項】	
漢字の字体・画数・筆順		1 漢字 1	・漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 さまざまな字体・書体や画数と筆順を学ぶことをとおして、書きやすく読みやすい文字について考えようとしている。		行動の観察	☆ 字体によって画数の違う例を確かめさせたり、漢和辞典などを用いて筆順などを調べさせたりする。
知識・理解・技能 言語についての	1 字体・書体や画数、筆順の意味を理解している。		行動の観察	☆ 漢和辞典や「漢字字典」(P292)などを用いて画数や筆順を調べさせ、それにしたがって書くことによって、読みやすい文字となることを確かめさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習の学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	伝統的な言語文化
単元のねらい	言語文化にふれる

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう①」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう ①		1 漢字 1	・漢字の読み書きについての理解を深める 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 文化に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 言語文化や伝統文化に関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習の学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・常用漢字活用字典 (P110)
--------------	------------------

単元名	表現力 1
単元のねらい	的確に表す

教材名		配当時間	「スピーチをしよう」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
スピーチをしよう		4 話す・聞く 4	・聞き手の反応に注意しながら話をする。 ・さらに知りたいことやわからないことについて質問する。 【Aア 話題設定や取材】 【Aウ 話すこと】 【Aエ 聞くこと】
言語活動		日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり，それらを聞いて質問や助言をしたりすることとおした指導。【A－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 聞き手の反応に注意しながら話したり，もっと知りたいことについて質問したりしようとしている。	記述の分析	○ 場の状況や相手の様子に応じて話したり，自分の考えと比較しながら聞いたりしようとしている。 ☆ スピーチについて「友達からのカード」などを活用して話し合いをさせて，話し方・聞き方について振り返らせる。
話す・聞く能力	1 日常生活の中から話題を決め，スピーチをするための材料を集めて整理して，伝えたい内容を明確にしている。	記述の確認	○ 聞き手を意識してより効果的に伝えるために，必要に応じてさらに材料をつけ加えたり，再整理したりしている。 ☆ 自分自身の体験だけでなく，身近な人々の体験や知識なども参考にさせる。
	2 聞いたスピーチについて，話し手の伝えたい内容や話し方の工夫を捉え，必要に応じて質問している。	記述の確認	○ 自分の考えと比べながらスピーチを聞いて，話し手に尋ねたいことの内容をはっきりさせている。 ☆ スピーチの内容や話し方について，メモをもとに何が足りないかを確かめさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 話す目的にふさわしい話し方はどのようなものかを考えながらスピーチをしている。 【言（ア） 言葉の働きや特徴，言葉遣い】	行動の観察 記述の点検	○ スピーチの効果を高めるために必要な話し方の工夫について，話す内容にそって考えている。 ☆ 話す目的に合った声の大きさや速さ，声の調子や間の取り方などについて注意を向けさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため，ここでは学習指導要領の「2 内容」「A 話すこと・聞くこと」と「学習の学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	1 話題を決めるには 4 聞き手を意識して話すには
『学びを広げる』との関連	・事物からの情報収集（P81） ・評価の場面（P99）

単元名	表現力 1
単元のねらい	的確に表す

教材名		配当時間	「一枚レポートを書こう」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
一枚レポートを書こう		4 書く 4	- 集めた材料を分類・整理して、文章の構成を考える。 - 調べたことについて、根拠を明確にした文章を書く。 【Bイ 構成】 【Bウ 記述】
言語活動		図表などを用いた説明や記録の文章を書くことをとおした指導。【B－言語活動例イ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 レポートを書くことを振り返って、構成を考えたり根拠を明らかにして文章を書いたりすることの必要性に気づき、自分の表現にいかそうとしている。	記述の分析	○ 他との交流をとおして、よりわかりやすく伝えるための文章構成や根拠を明確にした文章の書き方について考えて、自分の表現にいかそうとしている。 ☆ 書いたレポートを友達と交換して読み合い、書き手の考えがどのように記述されているかを指摘させる。
書く能力	1 レポートの構成を考えるために、集めた材料を分類したり取捨選択したりするなどして、整理している。	記述の確認	○ レポートの構成がより効果的なものとなるように考えて、カードの内容を修正したり必要なカードをつけ加えたりしている。 ☆ 「はじめ」「なか」「おわり」を意識してカードを並べ替えさせる。
	2 テーマについて、集めた材料にもとづいて根拠を明確にして書いている。	記述の確認	○ 限られた紙面の中で読み手にとってわかりやすく伝えるために、どの部分が根拠であるかが明確になるように、必要に応じて要約したり、適切に引用したりするなどの工夫をして書いている。 ☆ 必要に応じて文章と図表やグラフを適切に用いるようにさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 レポートにふさわしい「書き言葉」の表現や、接続する言葉・指示する言葉などを適切に用いて書いている。 【言(エ) 単語、文及び文章】	記述の確認	○ 事象や行為などを表す多様な語句から文脈にふさわしいものを適切に選択したり、接続する言葉・指示する言葉と同じような働きをもつ語句などを用いたりして書いている。 ☆ 「レポートの文章表現」(P44)を参照させて、文章表現について確認しながらレポートを書かせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」「B 書くこと」と「学習の学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	8 書く材料を整理するには 10 根拠を明確にして書くには
『学びを広げる』との関連	- 表とグラフによる表示 (P87) - 引用の手法 (P89)

単元名	表現力 1
単元のねらい	的確に表す

教材名		配当時間	「類義語辞典の活用」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
類義語辞典の活用		1 言葉の特徴やきまり 1	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【言(ウ) 語句・語彙】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 似た意味を表す多様な語句があることに気づき，話や文章の中で使う際の表現上の違いについて考えようとしている。		行動の観察	☆ 日常の言葉遣いの中で，場面や目的，相手によって言いかえている例をもとに，似た意味を表す語句の中から使い分ける必要性を考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 似た意味を表す多様な語句について辞典などを用いて調べて，話や文章の中でのはたらきについて理解している。		行動の観察	☆ 例文の語句を似た意味を表す他の語句と置きかえて，その違いを確かめさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	表現力 1
単元のねらい	的確に表す

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう②」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう ②		1 漢字 1	・漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 表現に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 表現に関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・常用漢字活用字典 (P110)
--------------	------------------

単元名	表現力 2
単元のねらい	わかりやすく述べる

教材名		配当時間	「体験文を書こう」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
水田のしくみを探る		4 読む 4	・筆者の説明にはどのような工夫があるか考えながら読む。 【Cエ 自分の考えの形成】
言語活動		文章と図表などとの関連を考えながら、説明の文章を読むことをとおした指導。 【Cー言語活動例イ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際の キーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 文章の組み立てや表現の工夫について理解することをとおして、ものの見方や考え方を広げようとしている。	記述の点検	○ 写真や図表をどのように用いたらよいかということについて、他の人の意見も参考にして考えを広げている。 ☆ 筆者がなぜこのような段落のつながりと意味のまとまりで書いたかを考えさせる。
書く能力	1 文章の段落構成や展開にもとづいて、水田の構造の科学性や長所が述べられていることを理解している。	記述の分析	○ 筆者がナンバリングとラベリングの考え方をを用いていることや、述語の説明をしてから内容を書くという一貫性があることを理解して内容を読み取っている。 ☆ 水田が土を固めて作られている理由が説明されている段落とそのつながりを指摘させる。
	2 文章の展開、図やグラフの使われ方などに注意して読むと、内容が理解しやすくなることを自分の言葉で説明している。	記述の分析	○ 写真・図・表が、書き手の意図とどのように結び付いているか、具体的な根拠を挙げて書いている。 ☆ 図やグラフの内容がどの段落で述べられているかを確かめさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 指示語や接続詞およびこれらと同じようなはたらきをもつ語句などに注意して読んでいる。 【言(エ) 単語、文及び文章】 【漢(ア) 漢字の読み】	記述の点検	○ 段落の冒頭の言葉だけでなく、文をつなぐ言葉や内容のつながりにも注意して、文章の構成を読み取っている。 ☆ 各段落の文頭の言葉がどのようなはたらきをしているかを確かめさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習の学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	17 文章の特徴について考えるには
『学びを広げる』との関連	・表とグラフによる表示 (P87) ・説明的な文章の要約 (P91)

単元名	表現力 2
単元のねらい	わかりやすく述べる

教材名		配当時間	「体験文を書こう」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
体験文を書こう		5 書く 5	- 日常生活の中から題材を決め、材料を集める。 - 文章の構成を考え、理由を明らかにして自分の考えを書く。 【Bア 課題設定や取材】 【Bイ 構成】 【Bウ 記述】
言語活動		関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くことをとおした指導。【B－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 わかりやすい文章にするために、材料を集めながら考えをまとめたり、段落の役割を考えて文章を構成したりしようとしている。	記述の確認	○ 書く内容全体についての見通しをもって文章を書くことの必要性を意識して、構想を立てたり、文章の構成を工夫したりしている。 ☆ 生徒作品例「添乗員さんと出会って」(P62)とカード例(P60)とを比べさせて、カードの内容が作品例にどのようにいかされているかを考えさせる。
書く能力	1 書く目的にそって題材を決め、関連する材料を集めながら、体験文の中心となる事柄をまとめている。	記述の点検	○ もっとも伝えたい内容について、考えたことや感じたことをその理由が述べられるように工夫しながら書いている。 ☆ 取りあげたい題材について、その内容を時間・様子・そのときの気持ちなどの事柄ごとにあげさせる。
	2 集めた材料を整理して、伝えたい事柄が明確になるように段落の役割を考えながら文章を構成している。	記述の点検	○ 内容が読み手によりよく伝わるように、それぞれの段落の役割を明確にして文章を書いている。 ☆ 書く材料を分類する視点を例示して具体的に考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 事象や行為などを表す語句や、指示語や接続詞などを効果的に用いて書いている。 【言(ウ) 語句・語彙】 【言(エ) 単語、文及び文章】	記述の分析	○ 文章をよりよいものにするための方法を具体的に挙げて、それに基づいて語句や指示語・接続詞などを効果的に用いて文章を書き直している。 ☆ カードの内容を詳しく説明させたり、段落と段落をつなぐ言葉を考えさせたりする。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「B 書くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	7 書く内容を決めるには 9 段落の役割を考えて構成するには
『学びを広げる』との関連	- 情報の評価 (P83) - 記録のメモ (P85)

単元名	表現力 2
単元のねらい	わかりやすく述べる

教材名		配当時間	「接続語・指示語」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
接続語・指示語		1 言葉の特徴やきまり 1	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【言(エ) 単語，文及び文章】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 接続する言葉や指示する言葉を自分の表現や理解にいかそうとしている。		発言の確認 行動の観察	☆ 接続語や指示語を使った文章と，それらを取り除いた文章とを比べさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 接続する言葉や指示する言葉の意味とはたらきを適切に理解している。		行動の観察	☆ 実際の文章の中から接続語や指示語を探し出し，分類したり意味を考えさせたりする。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	表現力 2
単元のねらい	わかりやすく述べる

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう③」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう ③		1 漢字 1	・漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 表現に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 表現に関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・常用漢字活用字典 (P110)
--------------	------------------

単元名	理解力 1
単元のねらい	的確に読み解く

教材名		配当時間	「空中ブランコ乗りのキキ」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
空中ブランコ乗りのキキ		4 読む 4	・ 場面の展開や登場人物に注意して読む。 【Cウ 文章の解釈】
言語活動		さまざまな種類の文章を音読したり朗読したりすることとおした指導。【Cー言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 言葉を手がかりにしながら文脈をたどって読んで、描写の効果について考えようとしている。	記述の確認	○ 「白い大きな鳥」が比喩であることを捉えたうえで、比喩の読み取りを行うと同時に、「悲しそうに鳴きながら～」の悲しみの内容にまで理解を進めようとしている。 ☆ 「白い大きな鳥」に関わる表現をたどらせ、それらがどのようなつながりをもっているかを考えさせる。
読む能力	1 場面の展開や状況の中で登場人物がどのように描かれているかを、確かめながら読んでいる。	記述の分析	○ 教材の記述をふまえたうえで、客観的に、自分の言葉で登場人物像や心情をまとめている。 ☆ それぞれの登場人物について書かれている部分に線を引かせて、どのような人物かを考えさせる。
	2 情景や行動・せりふなどに注目して、それぞれの場面のキキの心情がどのように描かれているか考えながら読んでいる。	行動の観察	○ 情景や行動・せりふなどに注目して、それぞれの場面のキキの心情がどのように描かれているか考えながら音読している。 ☆ キキの心情がわかる表現を確かめさせ、それぞれの場面についてどのような気持ちかを箇条書きであげさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 文章の中で使われている比喩や省略、倒置などの表現の技法の意味や使われ方について理解している。 【言（オ） 表現の技法】 【漢（ア） 漢字の読み】	記述の点検	○ 比喩や省略、倒置といった表現技法が実際に使われているところに線を引いているだけではなく、比喩を使用して表そうとしていることや表現の効果について記述している。 ☆ 比喩や省略、倒置などの例をあげ、同じような表現を文中から探させる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習の学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	20 場面の展開を読み取るには
『学びを広げる』との関連	・ 宮沢賢治「注文の多い料理店」(P42)

単元名	理解力 1
単元のねらい	的確に読み解く

教材名		配当時間	「ユニバーサルな心を目指して」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
ユニバーサルな心を目指して		4 読む 4	・言葉の意味を捉えながら筆者の考えを読み取る。 【Cア 語句の意味の理解】
言語活動		文章と図表などの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むことをとおした指導。【Cー言語活動例イ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 語句の文脈の中での意味を的確に捉えて文章を読むことをとおして、筆者のものの見方や考え方を理解しようとしている。	記述の分析	○ 「ユニバーサルな心」をもつことが重要であることが説明できていると同時に、「ユニバーサルな心」をもつことで現実の「穴」を捉えることができることへの指摘がなされている。 ☆ 筆者が求めている「発想」とはどのようなものかを考えさせる。
読む能力	1 筆者が捉えている「バリアフリー」と「ユニバーサルデザイン」の意味を、筆者の言う「問題点」としての指摘から理解している。	記述の確認	○ 筆者が捉えている「バリアフリー」と「ユニバーサルデザイン」の意味について、現状の「問題点」からも理解したうえで、記述することができている。 ☆ 「そして」「ところが」「つまり」などの接続詞を手がかりに、「みんなが」(P80L8・P81L2)の傍点の意味を考えさせる。
	2 例にあげられている事柄の意味について、かぎカッコをつけた言葉の意味をふまえて考えている。	記述の点検	○ 車椅子・点字対応のエレベーターが設置されている現実を捉えた上で、点字表示だけではまだまだ不十分であることを筆者の体験をもとにまとめることができる。 ☆ エレベーターの例では、「穴」が他にどのように言いかえられるかを考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 本文の語句について、辞書的な意味をふまえたうえで、思考力や想像力を働かせて文脈上の意味を捉えている。 【言(イ) 語句・語彙】 【漢(ア) 漢字の読み】	行動の観察	○ 「穴」と「発想」という語句について、辞書的な意味をふまえたうえで、思考力や想像力を働かせて筆者の体験に結びつけて意味を捉えることができる。 ☆ 「穴」を辞書で引かせて、文脈に合った言葉の意味を見つけさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	13 語句の意味を知るには 14 中心となる内容を捉えるには
『学びを広げる』との関連	・飯田朝子「教え方でみがく日本語」(P68) ・説明の具体化 (P93)

単元名	理解力 1
単元のねらい	的確に読み解く

教材名		配当時間	「漢字の部首と成り立ち」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字の部首と成り立ち		1 漢字 1	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 漢字の部首や成り立ちを学ぶことをとおして，漢字のしくみや学び方について考えようとしている。		行動の観察	☆ 漢和辞典などを用いて部首や成り立ちを調べさせ，それらと漢字の意味や読みとの関係を確認させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 漢字の部首と成り立ちについて，基本的な用語の意味や漢字に対する見方を理解している。		行動の観察	☆ 漢和辞典や「漢字字典」(P292)などを用いて部首や成り立ちと読みとの関係を確認させる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	理解力 1
単元のねらい	的確に読み解く

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう④」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう ④		1 漢字 1	・漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 社会に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 社会に関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・常用漢字活用字典 (P110)
--------------	------------------

単元名	理解力 2
単元のねらい	判断して説明する

教材名		配当時間	「詩三編」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
詩三編 (いるか・夕焼け・雨ニモマケズ)		3 読む3	・詩の内容を理解し、表現の特徴について自分の考えをもつ。 【Cエ 自分の考えの形成】	
言語活動		さまざまな種類の文章を音読したり朗読したりすることとおした指導。【C－言語活動例ア】		
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例	
関心・意欲・態度	1 表現の特徴を分析的に捉え、その工夫や効果について自分の考えをもとうとしている。	記述の確認	○ 作品全体をふまえて朗読の工夫を考えたり、他の詩句との関連を意識して朗読の仕方を工夫したりしようとしている。 ☆ 三編の詩について、それぞれどのような朗読の仕方がふさわしいかを考えさせる。	
読む能力	1 それぞれの詩の内容や表現の特徴について、気づいたことを説明している。	記述の確認	○ 三編の詩のそれぞれの内容と表現の特徴を豊かに捉え、自分なりの表現を工夫して表している。 ☆ 三編の詩を比べて、それぞれにどのような違いがあるか確かめさせる。	
	2 詩の内容や表現の特徴を捉えて、朗読の工夫をしている。	記述の点検	○ 「いるか」の意味が多様に捉えられるおもしろさや楽しさを意識して詩を理解し、朗読の工夫をしている。 ☆ 「いるか」を音読させて、どこにおもしろさや楽しさを感じるかを、詩の表現に即して確かめさせる。	
知識・理解・技能 言語についての	1 詩に用いられている表現の技法について理解して、朗読にいかしている。 【言(オ) 表現の技法】 【漢(ア) 漢字の読み】	行動の観察	○ 詩の内容理解を朗読にいかし、自分の感じたことや気づいたことを工夫して朗読している。 ☆ 読む速さや強弱、言葉の調子や間の取り方などを変えることで、どのような印象の違いが感じられるかを確かめさせる。	

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	19 語句の意味やイメージをつかむには 23 ものの見方や考え方を広げるには
『学びを広げる』との関連	・詩の音読・暗唱 (P32)

単元名	理解力 2
単元のねらい	判断して説明する

教材名		配当時間	「鑑賞文を書こう」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
鑑賞文を書こう		2 書く 2	理由を明らかにして自分の気持ちを伝える。 【Bウ 記述】 【Bオ 交流】
言語活動		関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くことをとおした指導。【B－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 自分の感じたことを人に説明するためには、その根拠や理由を示すことが大切であることに気づいて、文章を書こうとしている。	記述の分析	○ 自分が取りあげた対象にテーマや内容が近いものについて書かれた他の文章を参考にして、構成や言葉遣いについても工夫して、伝わりやすい文章にしようとしている。 ☆ 交流でのコメントから、感じたことが伝わった場合と伝わっていない場合の違いを確かめさせる。
書く能力	1 題材についての自分の感じたよさが読み手に伝わるように、根拠を明らかにして書いている。	記述の確認	○ 多様な角度から題材の魅力を分析して鑑賞文を書いている。 ☆ 観点(対象・デザイン・色など)を例示して、何を感じたかを整理させる。
	2 題材について書き手の感じたよさと、それがどのように書かれているかに着目して自分の意見や感想を述べている。	記述の確認 行動の観察	○ 視点を明確にして意見や感想を述べている。 ☆ 「作品例1・2」(P103)を読ませて、それぞれの書き手の感じたこととよさがどのように述べられているかを確かめさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 自分の感じたよさを表すために、事象や行為などを表す多様な語句の中から、ふさわしいものを選んで用いている。 【言(ウ) 語句・語彙】	記述の確認	○ 相手に伝わりやすいように比喻や擬態語などを用いて表現している。 ☆ 国語辞典や類義語辞典などを用いて、より適切な表現がないか探させる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」「B 書くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	9 段落の役割を考えて構成するには
『学びを広げる』との関連	- 情報の評価 (P83) - わかりやすいメッセージ (P97)

単元名	理解力 2
単元のねらい	判断して説明する

教材名		配当時間	「言葉の単位・文節の関係」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
言葉の単位・文節の関係		2 言葉の特徴やきまり 2	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【言(ウ) 文の中の文の成分の順序や照応 ※2年】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 単語や文節の切り方によって異なってくる多義的な文の意味を見つけようとしている。		発言の確認 行動の観察	☆ 多義的な文について，単語や文節の大きな意味の切れ目に線を引かせたり，切れ目を意識して実際に声に出して読ませたりするさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 言葉の単位や文節の関係に関わりのある言葉について，その名称と働きを理解している。		行動の観察	☆ 単語と文節の切れ目を線で区切ったり，文節間の関係を図に表させたりする。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	理解力 2
単元のねらい	判断して説明する

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう⑤」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう ⑤		1 漢字 1	・ 漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 関係に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 関係に関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・ 常用漢字活用字典 (P110)
--------------	-------------------

単元名	伝え合う力
単元のねらい	ともにわかり合う

教材名		配当時間	「討論ゲームをしよう」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
討論ゲームをしよう		5 話す・聞く 5	- 相手の意見をふまえながら話す。 - 相手の発言を聞いて、自分の考えをまとめる。 【AI 話すこと】 【AO 話し合うこと】
言語活動		日常生活の中的话题について対話や討論などを行うことをとおした指導。【Aー言語活動例イ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 話し合いをとおして、自分と異なる立場や考え方を尊重しながら、自分の考えを確かなものにしようとしている。	記述の確認	○ 討論の観察や討論における自分の考えの変化をふまえて、話し合いにおいて他者を説得するためにはどのようなことが必要かということについて考えようとしている。 ☆ 話し合いの流れにそって、自分の考えを振り返って確かめさせる。
話す・聞く能力	1 自分の意見とその根拠が相手に伝わるように、話の組み立てを考えている。	記述の確認	○ 自分の意見についての反論を予想し、それについて説得力のある再反論を考えている。 ☆ 話し合いの準備の相談の中で、他の人からアドバイスされた意見をもとに、付け足す部分や話す順番を考えさせる。
	2 討論ゲームの話題や方向を捉えて話したり聞いたりしながら、自分の考えをまとめている。	記述の確認 行動の観察	○ 討論の内容をふまえ、自分の考えとその根拠について、多角的な視点から考察してまとめている。 ☆ 自分と異なる意見の根拠を、箇条書きで整理させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 場にふさわしい言葉遣いや、音量、抑揚などを意識して話し合っている。 【言(ア) 言葉の働きや特徴、言葉遣い】	行動の観察	○ 聞き手の反応に応じて言葉遣いや音量、抑揚などを工夫して話している。 ☆ 聞きやすくなりやすい発言と、そうでないものとの違いを確かめさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「A 話すこと・聞くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	3 伝わるように話すには 6 話題にそって話し合うには
『学びを広げる』との関連	- 情報の評価 (P83) - わかりやすいメッセージ (P97)

単元名	伝え合う力
単元のねらい	ともにわかり合う

教材名		配当時間	「この小さな地球の上で」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
この小さな地球の上で		3 読む 3	・自分のものの見方・考え方を広げるために読む。 【Cオ 自分の考えの形成】
言語活動		課題にそって本を読み、必要に応じて引用して紹介することをおとした指導。【C 一言語活動例ウ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際の キーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 筆者のものの見方や考え方について、話し合ったり考えたりすることをおして、自分の考えを広げようとしている。	記述の分析	○ 文章に表れている筆者独自のものの見方について表現の特色をふまえて理解し、自分のものの見方や考え方を広くしようとしている。 ☆ 「人間の英知」(P117L13)という言葉をあげた筆者の意図を、最後の三段落(P117L1～)から考えさせる。
読む能力	1 筆者のものの見方や考え方を、それがどのような体験や経験によるものなのかをふまえて読み取っている。	記述の確認	○ 題名が象徴する筆者の考え方を捉え、人間のあり方について自分なりの考え方をもっている。 ☆ 筆者が「人間」について述べている部分をあげさせ、筆者がなぜそう考えたのかを確かめさせる。
	2 「人間は、果てしなく賢明で、底知れず愚かだ。」(P115L4)とする筆者のものの見方や考え方について話し合ったことをもとに、共感することや疑問に思ったことについて、自分の考えをもっている。	記述の点検	○ 筆者のものの見方や考え方で共感したり疑問に思ったりしたことについて、他の事実や自分の体験をふまえて説明している。 ☆ 筆者が「人間は賢明だ」と述べている理由と「人間は愚かだ」と述べている理由を、それぞれ文章から抜き出させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 事象や行為などを表す多様な語句について、その意味を確かめながら文章の内容を理解している。 【言(ウ) 語句・語彙】 【漢(ア) 漢字の読み】	記述の点検	○ さまざまな語句や写真・挿絵が筆者のものの見方・考え方を述べるうえで効果的に使用されていることを理解し、文脈における意味を捉えている。 ☆ 「人間は、果てしなく賢明で、底知れず愚かだ。」(P115L4)について、「果てしなく」「底知れず」がある場合とない場合とで意味がどう異なるかを考えさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	18 必要とする情報を集めるには
『学びを広げる』との関連	・事物からの情報収集(P81) ・説明的な文章の要約(P91)

単元名	伝え合う力
単元のねらい	ともにわかり合う

教材名		配当時間	「音声のしくみとはたらき」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
音声のしくみとはたらき		1 言葉の特徴やきまり 1	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【言(ア) 音声の働きや特徴，言葉遣い】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 標語や川柳のリズムや響きのよさが，音節の数に由来していることを理解しようとしている。		発言の確認 行動の観察	☆ 標語や川柳の音節数を実際に数えさせたり，実際に発音させたりして，リズムや響きのよさを実感させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 基本五十音図に対して，音節，母音・子音の考え方をとおむね理解している。		行動の観察	☆ 基本五十音図をローマ字で書き出させる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	伝え合う力
単元のねらい	ともにわかり合う

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう⑥」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう ⑥		1 漢字 1	・漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 話し合いや日常生活に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 話し合いや日常生活に関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・ 常用漢字活用字典 (P110)
--------------	-------------------

単元名	思考力 1
単元のねらい	論理的に考える

教材名		配当時間	「学校案内リーフレットをつくろう」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
学校案内リーフレットをつくろう		4 書く 4	・書いた文章を読み返し、より読みやすくわかりやすい文章にする。 【B-エ 推敲】
言語活動		行事等の案内や報告をする文章を書くことをとおした指導。【B-一言語活動例ウ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 書いた記事を読み返したり、読み手の興味や関心を考えて意見を出し合ったりすることをおして推敲の必要性に気づき、文章を書くことにいかそうとしている。	記述の確認	○ リーフレットの制作をとおして推敲の大切さについて理解し、これからの学習や生活の中でいかそうとしている。 ☆ 書き直した文章の例をもとに、どのような推敲が行われたかを確かめさせる。
書く能力	1 書く目的に合うように必要な資料を集め、読み手の興味や関心を考えて、文章を書いている。	記述の確認	○ 読み手の興味・関心を想定し、記事の読みやすさ・親しみやすさにも配慮して、記事の内容を考えたり、資料を効果的に用いたりして書いている。 ☆ 中学校に入ってから感じた小学校との違いや中学校の特徴について具体例をあげさせて、どれを伝えたらよいか考えさせる。
	2 わかりやすく読みやすい文章にするために、文字や言葉の使い方、述べ方などを確かめながら、書き直している。	記述の点検	○ 伝えたい事柄を的確に表す語句を選択し、正しい文字・表記で文章を書いている。 ☆ 漢字や言葉遣いにまちがいがいいないか、他にもっとよ言葉がないかを考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 読み手にとってわかりやすい適切な言葉を選んだり、親しみやすい述べ方を用いたりして書いている。 【言(ウ) 語句・語集】	記述の点検	○ 小学生に伝わるような語句や表現に言い換えたり、親しみやすい述べ方を工夫したりしながら書いている。 ☆ やさしい言葉に言い換えたり、常体と敬体の区別を確かめたりさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「B 書くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	11 書いた文章を見直すには
『学びを広げる』との関連	・説明の具体化 (P93) ・視覚にうつたえる編集 (P95)

単元名	思考力 1
単元のねらい	論理的に考える

教材名		配当時間	「信頼をつなぐ」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
信頼をつなぐ		4 読む 4	どんなことを伝えるために、何を例に用いて説明しているかを考えながら読む。 【Cイ 文章の解釈】
言語活動		文章と図表などとの関連を考えながら、目的に応じて必要な情報を読み取ることをとおした指導。【Cー言語活動例イ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 例示の意味や効果を考えながら、筆者が伝えたいことを論の展開にそって読み取ろうとしている。	記述の分析	○ 例示が筆者の伝えようとしていることを明確にしたり、読者の理解を助けたり、興味・関心を高めたりする働きをしていることを理解しようとしている。 ☆ 例として示されている事柄が、大きな意味のまとまりごとの最後の一文とどうつながっているかを考えさせる。
読む能力	1 本文中にあげられている例のそれぞれが、筆者が伝えたいこととどのようにつながっているかを確かめながら読んでいく。	記述の確認	○ さまざまな例と、それらに求められる機能・条件を文章中から読み取り、整理して書いている。 ☆ ファスナーが使われている場所や条件によって、求められる機能や役割にどのような違いがあるかを確かめさせる。
	2 大きな意味のまとまりごとに中心を読み取って、それぞれのまとまりがどのような役割をもっているかを理解している。	記述の確認	○ 「身近な例を取りあげて話題を提示する」→「さまざまな例を示しながら結論の裏付けとなる事実を説明する」→「文章全体をまとめて強調する」のように各まとまりの役割と関係についてとらえている。 ☆ 大きな意味のまとまりごとに、それぞれの例について筆者がどんなことを伝えようとしているかを確かめさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 伝えたいこととそれを支える例とを書き分けるために、文と文・段落のつながりを筆者がどのように工夫しているかを理解している。 【言(エ) 単語、文及び文章】 【漢(ア) 漢字の読み】	記述の点検	○ 叙述の順序や繰り返し、指示語や接続詞の使い方などに着目して書いている。 ☆ 「このように」(P132L9)が、その前後の内容をどのようにつないでいるかを考えさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	16 文章の内容をまとめるには
『学びを広げる』との関連	- 渡辺武信「玄関扉」(P64) - 説明の具体化 (P93)

単元名	思考力 1
単元のねらい	論理的に考える

教材名		配当時間	「単語の類別・品詞」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
単語の類別・品詞		2 言葉の特徴やきまり 2	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【言(エ) 単語，文及び文章】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 品詞ごとの意味のおおまかな違いについて考えようとしている。		発言の確認 行動の観察	☆ 品詞の定義ごとに，「○○を表す言葉」を集めさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 単語の品詞分類についておおむね理解している。		行動の観察	☆ 十品詞の名称と主な単語を書き出させる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	思考力 1
単元のねらい	論理的に考える

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう⑦」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう ⑦		1 漢字 1	・漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 考えることや身体・健康に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 考えることや身体・健康に関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・常用漢字活用字典 (P110)
--------------	------------------

単元名	思考力 2
単元のねらい	多角的に考える

教材名		配当時間	「タオル」の学習目標 【学習指導要領の指導事項】
タオル		4 読む 4	・登場人物の行動から、心情を読み取る。 【Cウ 文章の解釈】
言語活動		さまざまな種類の文章を音読したり朗読したりすることとおした指導。【c-言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 文脈をたどりながら登場人物の行動や心情の描写を読み取ることとおして、作品の世界を味わおうとしている。	記述の分析	○ 表題の意味をふまえながら主題を捉えることを通して自分の考えをもち、作品の世界を味わおうとしている。 ☆ 祖父と他の登場人物との関係がどのように描かれているかを確かめさせる。
	1 時間の流れにそって、祖父の死についての少年の心情を確かめながら読んでいる。	記述の確認	○ 象徴的な表現の箇所を押さえつつ、時間の流れにそって、祖父の死についての少年の心情を確かめながら読んでいる。 ☆ 祖父の死に対する少年の心情の描写をあげさせて、整理させる。
読む能力	2 最後の場面での、少年と父とシライさんのそれぞれの思いがどのように描かれているかを考えながら読んでいる。	記述の確認	○ 最後の場面での、少年と父とシライさんのそれぞれの思いがどのように描かれているかを、タオルのもつ象徴的な意味を考えながら読んでいる。 ☆ 祖父についてのシライさんと少年との会話の内容を確かめさせる。
	1 人物の行動や場面を描くために用いられている語句について、その効果を考えている。 【言(ウ) 語句・語彙】 【漢(ア) 漢字の読み】	記述の点検	○ 人物の行動や場面を描くために用いられている語句について、主人公の心情とどのように関わっているかをふまえて、その効果を考えている。 ☆ 「熱いものがまぶたからあふれ出た。」(P152L15)などの表現について、他の言葉を使った表現と比べてどのような効果があるかを考えさせる。
知識・理解・技能	言語についての		

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	21 人物の描写をとおして内容を読み取るには
『学びを広げる』との関連	・立原えりか「アイスクャンデー売り」(P58)

単元名	思考力 2
単元のねらい	多角的に考える

教材名		配当時間	「私のトップニュースを書こう」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
私のトップニュースを書こう		4 書く 4	- 日常生活の中から材料を集め、自分の考えをまとめる。 - 根拠の明確さについて意見を述べ合い、自分の表現の参考にする。 【Bア 課題設定や取材】 【Bオ 交流】
言語活動		図表などを用いた説明や記録の文章を書くことをとおした指導。【B－言語活動例イ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 書く目的にそって、伝えたい内容の根拠が明確になっているかどうかを交流して確かめ、自分の表現にいかそうとしている。	記述の分析	○ 交流をふまえて文章を推敲し、修正した内容をふまえて、全体の構成や言葉の使い方についても再度検証して整えようとしている。 ☆ 指摘された内容をもう一度確認して、「次に書くときはどうするか」を具体的に考えさせる。
書く能力	1 自分が書きたいできごとを構想メモにまとめて、伝えたい内容やその理由を整理している。	記述の確認	○ 自分が書きたいできごとについて多角的な観点から適切な材料を集め、構想メモにまとめて、伝えたい内容やその理由を整理している。 ☆ 「構想メモの例」(P157)を参考にして、伝えたい中心になるできごとについて整理させる。
	2 下書きを読み合い、どのようにしたらより伝わりやすくなるかを指摘し合い、表現を工夫して書き直して清書している。	記述の確認	○ 下書きを読み合い、どのようにしたらより伝わりやすくなるかを指摘し合い、表現を工夫して書き直すとともに視覚にうったえる編集を意識しながら清書している。 ☆ 伝えたい中心が明確になっているか、できごとの様子や順序が明確かなどの視点から、交流をとおして指摘された内容について構想メモに戻って考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 書く目的にそって、事象や行為などを表す多様な語句の中から、伝えたい内容にふさわしいものを選んで用いている。 【言(ウ) 語句・語集】	記述の点検	○ 書く目的にそって、事象や行為などを表す多様な語句の中から、伝えたい内容にふさわしいものを選ぶとともに、より表現効果を高めるような語句を用いている。 ☆ 「わかりにくい・伝わりにくい」と指摘された表現について、いくつかの言い換えをあげさせて、その中からふさわしいものを選ばせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」「B 書くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	8 書く材量を整理するには 12 書いた文章を交流するには
『学びを広げる』との関連	・記録のメモ (P85) ・視覚にうったえる編集 (P95)

単元名	思考力 2
単元のねらい	多角的に考える

教材名		配当時間	「漢字の音と訓」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字の音と訓		1 漢字 1	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 同音異字・同訓異字の使い分けについて考えようとしている。		行動の観察	☆ 「復・複・腹」「温・暖」などの同音異字・同訓異字の意味の違いを考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 漢字の音と訓の違い，同音異字・同訓異字についておおむね理解している。		行動の観察	☆ 国語辞典や漢字字典を引いて，音と訓を確かめたり，同音異字・同訓異字の例文や熟語例を書き出させる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	思考力 2
単元のねらい	多角的に考える

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう⑧」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう ⑧		1 漢字 1	・ 漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 考えることや科学・自然に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 考えることや科学・自然に関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・ 常用漢字活用字典 (P110)
--------------	-------------------

単元名	想像力
単元のねらい	さまざまな見方・考え方を知る

教材名		配当時間	『故事成語』を使って書こうの学習目標【学習指導要領の指導事項】
「故事成語」を使って書こう		3 書く 3	題材の用い方について感想を交流する。 【Bア 課題設定と取材】 【伝(ア) 文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れる】
言語活動		関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くことをとおした指導。【B－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 故事成語の意味や由来にそった文章を書くことをとおして、日常生活に故事成語が使われている意味を理解しようとしている。	記述の分析	○ 交流をとおして、故事成語が言語生活を豊かにすることに気づき、自分の表現にいかそうとしている。 ☆ 故事成語を使って書いた文章を読み合って、その故事成語の使い方が適切かどうかを確かめさせる。
書く能力	1 意味や由来を調べた故事成語について、それが使われるのにふさわしい場面と結びつけて文章を書いている。	記述の確認	○ 故事成語を使って書いた文章を推敲し、よりわかりやすい文章を書いている。 ☆ 辞書や資料などの故事成語を使った文や文章の例について、そこでどのように故事成語が使われているかを確かめさせる。
	2 故事成語の由来を確かめ、それを使うことが日常の表現を豊かにすることを理解している。	記述の確認	○ 他の故事成語についても進んで調べ、文章を書こうとしている。 ☆ 辞書や資料などの故事成語を使った文や文章の例について、故事成語を使わない言い方や述べ方と比べて考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 漢文特有のリズムを味わいながら書き下し文を読んで、故事成語の由来となった世界に触れている。 【伝(ア)】	行動の観察	○ 「故事成語」の内容を理解し、その内容を声に出して表現しようと工夫している。 ☆ 繰り返し音読させるなどして、漢文特有のリズムに慣れさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「B 書くこと」および「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	12 書いた文章を交流するには
『学びを広げる』との関連	- 情報の評価 (P83) - 引用の手法 (P89)

単元名	想像力
単元のねらい	さまざまな見方・考え方を知る

教材名		配当時間	「トロッコ」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
トロッコ		5 読む5	・主人公の描かれ方とおして、自分のものの見方や考え方を広げる。 【Cオ 自分の考えの形成】
言語活動		さまざまな種類の文章を音読したり朗読したりすることとおした指導。【c-言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 最後の場面に表れている作者のものの見方や考え方について、自分なりのものの見方や考え方をもちようとしている。	記述の分析	○ 作者のものの見方や考え方について、自分なりの感想や意見・批判を述べている。 ☆ 最後の四行がある場合とない場合とで、作品の印象がどのように異なるかを考えさせる。
読む能力	1 主人公の心情がどのように描かれているかを、場面の展開にそって読み取っている。	記述の確認	○ トロッコへのあこがれ・喜び・不安・いらだち・解放感などの良平の心情を的確に読み取って表現している。 ☆ 場面ごとに、良平の気持ちを表す言葉を確認させる。
	2 情景の描写が、物語の展開や作品の雰囲気を描き出すうえで、どのような効果をあげているかを考えながら読んでいる。	記述の確認	○ 情景描写と良平の気持ちとの関連を図りながら読みを深めている。 ☆ 「みかん畑」についての三つの描写(P174L8～L16)について、それがあるのとないのとでどう違うか、どんな表現効果があるかを考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 主人公の心情や情景を描くうえで用いられている多様な語句(擬声語・擬態語や畳語など)について、その役割や効果に注意して読んでいる。 【言(ウ) 語句・語集】 【漢(ア) 漢字の読み】	記述の点検	○ 心情や情景を表す語句を的確にとらえて読みを深めている。 ☆ 擬声語・擬態語(P171の「ごろり」(L7)、「ひやり」(L8)、「ごろり、ごろり」(L9)など)や、畳語(P171の「恐る恐る」(L6)、「そろそろ」(L9)など)がどのような意味で使われているかを確かめさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	22 心情の変化を読み取るには 24 情報を読み取り、理解を深めるには
『学びを広げる』との関連	・ヘルマン・ヘッセ「少年の日の思い出」(P36)

単元名	想像力
単元のねらい	さまざまな見方・考え方を知る

教材名		配当時間	「せりふと書き」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
せりふと書き		2 書く 2	書いた文章を読み合い、題材の捉え方について感想を話し合う。 【Bオ 交流】
言語活動		関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くことをとおした指導。 【B－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 他の人の題材の捉え方や物語の組み立て方の工夫について考え、自分の表現に役立てようとしている。	記述の分析	○ 自分の書いた文章を他の人の書いた文章と比べ、自分の文章に足りないものを取り入れようとしている。 ☆ 題材の捉え方や物語の組み立て方について、自分が使ってみたいと思うものをあげさせる。
書く能力	1 写真や絵などについてさまざまに発想して、意外性や転換のおもしろさのある物語を工夫して書いている。	記述の確認	○ A・B・C・Dの写真をさまざまに組み合わせ、短い物語をつくっている。 ☆ 写真や絵などの組み合わせ方を変えて、それぞれの場合の物語の展開を考えさせる。
	2 題材の捉え方や、物語の組み立て方の工夫に着目して、感想を交流している。	記述の確認	○ 物語の展開だけでなく描写なども工夫し、読みやすい文章になるよう意識して書いている。 ☆ 書き手の題材の捉え方や物語の組み立て方について、どのような工夫があるかを質問して確かめさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 書く目的にそって、事象や行為などを表す多様な語句の中から、効果的な言葉を選んで用いている。 【言（ウ） 語句・語彙】	記述の点検	○ この漫画以外の四コマ漫画を読んで、そのおもしろさについて考えている。 ☆ 書こうとする物語の中の人物や動物について、話者を変えてせりふを考えさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「B 書くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	12 書いた文章を交流するには
『学びを広げる』との関連	・わかりやすいメッセージ（P97） ・評価の場面（P99）

単元名	想像力
単元のねらい	さまざまな見方・考え方を知る

教材名		配当時間	「効果的な表現方法」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
効果的な表現方法		1 言葉の特徴やきまり 1	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【言(オ) 表現の技法】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例	
関心・意欲・態度	1 比喻や擬人法が表そうとしている状況について考えようとしている。	発言の確認 行動の観察	☆ 「空中ブランコ乗りのキキ」の「空を滑るように」がどのような状況を表そうとしているか，考えさせる。	
知識・理解・技能 言語についての	1 比喻や擬人法の表現効果についておおむね理解している。	行動の観察	☆ 「落とし穴」「綱渡り」などの本来の意味と比喩的な意味の共通性を考えさせる。	

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	想像力
単元のねらい	さまざまな見方・考え方を知る

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう⑨」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう ⑨		1 漢字 1	・漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 比喻やつながりに関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 比喻やつながりに関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・ 常用漢字活用字典 (P110)
--------------	-------------------

単元名	言語感覚
単元のねらい	言葉の感覚を磨く

教材名		配当時間	「食感のオノマトペ」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
食感のオノマトペ		4 読む 4	数値やグラフから読み取った情報を手がかりに文章を読み進める。 【Cカ 読書と情報活用】
言語活動		課題にそって本を読み、必要に応じて引用して紹介することをおとした指導。【C－言語活動例ウ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 資料を引用したり用例をあげたりしながら、オノマトペについて感じたり考えたりしたことをまとめようとしている。	記述の分析	○ 筆者の考え方をふまえて自分の考え方をしっかりともち、それを的確に発表しようとしている。 ☆ 日常生活の中で、食感を表す以外にどのようなオノマトペを聞いたり使ったりしているか、具体的な例をあげさせる。
読む能力	1 日本語のオノマトペについて、どのような特徴があるかを、本文とグラフをもとに読み取っている。	記述の確認	○ 二つのグラフから、特に世代差、男女差という観点をもとに、その特徴を読み取って的確に整理している。 ☆ 三つの「わかってきた」ことと二つのグラフで示されている事柄との関係を確認させる。
	2 筆者が資料や調査結果をもとにどのように考え、整理したのかを読み取っている。	記述の確認	○ 三つの観点を的確に指摘して、それぞれの観点についての筆者の考え方を読み取っている。 ☆ 結論で述べられている「食べ物の性質や特色」が、「わかってきたこと」のどこを根拠にしているのかを確認させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 さまざまなオノマトペが、日本語の表現を豊かにしていることを理解している。 【言（ウ） 語句・語集】 【漢（ア） 漢字の読み】	記述の点検	○ 「食感のオノマトペ」に対する筆者の考え方を、具体的かつ的確に書いている。 ☆ 「このウドはしゃきしゃきしておいしいですね。」「このアナゴの天ぷら、外はぱりぱり、中はしっとりで最高です。」のそれぞれについて、オノマトペを使わなかったらどのような印象になるかを考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	15 事実と意見とを読み分けるには
『学びを広げる』との関連	・本川達雄「速い生活、だいじょうぶ？」(P60) ・表とグラフによる表示 (P87) ・引用の手法 (P89)

単元名	言語感覚
単元のねらい	言葉の感覚を磨く

教材名		配当時間	「正確に聞き取ろう」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
正確に聞き取ろう		3 話す・聞く 3	- 話される情報を正確に聞く。 - 自分の考えとの共通点や相違点を整理して聞く。 【Aエ 聞くこと】
言語活動		日常生活の中的话题について報告や紹介をしたり，それらを聞いて質問や助言をしたりすることをとおした指導。【A－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 全体と部分，事実と意見などに注意して話を聞いて，内容を確認するために質問をしたり，考えを比べたりして，聞き取った内容を整理しようとしている。	記述の分析	○ 相手の話をよく聞き，「メモするときのポイント」にある点をふまえて，的確にメモを取ろうとしている。 ☆ 聞き取ったメモを，事実と話し手の体験や経験，それにもとづく話し手の考えなどのポイントに分けて整理させる。
	2 話し手の伝えようとする内容がどのようなものかを，全体と部分，事実と意見などに注意しながら聞き取っている。	記述の確認	○ 二人の意見をよく聞いて，それぞれの意見をふまえて自分の考えをもち，相手の意見と比較できている。 ☆ 聞き取ったメモの内容を他の人と比べて，まちがいや足りないところがないかを確認させる。
話す・聞く能力	1 話し手の意見について，自分の考えと比べて同じところや異なるところを整理しながら聞き取っている。	記述の確認	○ 自分の考えとの共通点・相違点がしっかりとメモされ，理解されている。 ☆ 自分の考えと同じところや異なるところを話し手に質問して確かめさせる。
	2 聞き手として，話し手の声の大きさや間の取り方，話す速さなどの話し言葉の特徴に注意して話を聞いている。 【言(ア) 言葉の働きや特徴，言葉遣い】	記述の点検	○ 「運動会についての校内放送の例」(P195)を聞いて，自分の組がいつ，どこに，何を持っていけばよいかを指摘することができる。 ☆ 「運動会についての校内放送の例」(P195)では，どの部分を強調すれば内容が伝わりやすいかを考えさせる。
知識・理解・技能	1 聞き手として，話し手の声の大きさや間の取り方，話す速さなどの話し言葉の特徴に注意して話を聞いている。 【言(ア) 言葉の働きや特徴，言葉遣い】	記述の点検	○ 「運動会についての校内放送の例」(P195)を聞いて，自分の組がいつ，どこに，何を持っていけばよいかを指摘することができる。 ☆ 「運動会についての校内放送の例」(P195)では，どの部分を強調すれば内容が伝わりやすいかを考えさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため，ここでは学習指導要領の「2 内容」「A 話すこと・聞くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	2 わかりやすく話すには 5 聞いた内容を確認するには
『学びを広げる』との関連	- 情報の評価 (P83) - 記録のメモ (P85)

単元名	言語感覚
単元のねらい	言葉の感覚を磨く

教材名		配当時間	「未来を見つめる」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
未来を見つめる		3 書く 3	- 自分の伝えたいことを、適切な材料を用いて明確に書く。 - 書いた文章を読み返し、わかりやすい書き方について考える。 【Bウ 記述】 【Bエ 推敲】
言語活動		関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くことをとおした指導。【B－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 交流したことをいかして推敲することをとおして、読みやすくわかりやすい表現の仕方について考えようとしている。	記述の分析	○ 適切な材料を用いて、しっかりした構成の文章を書こうとしている。 ☆ 交流して気づいたことから、文章の構成や語句の用い方についてどのような問題があるのかを確かめさせる。
書く能力	1 書きたい事柄の中心が明確になるように、内容を整理している。	記述の確認	○ 選んだ漢字や言葉について、具体的な情報が書かれていて、書くための材料として充実している。 ☆ 書くための材料について、不足している内容を書き加えたり、類似の内容をまとめたりさせる。
	2 読み手に内容が確かに伝わる文章になっているかどうかを、交流をとおして確かめ合っている。	行動の観察	○ 相手の下書きを適切に評価し、相手の意見をしっかり捉えて意欲的に改善している。 ☆ 交流の観点(P201L6～8)にそって、文章の内容を確かめさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 自分の「決意」を伝えるために選んだ漢字や短い言葉について、その辞書的な意味をもとに自分らしい捉え方をして説明している。 【言(イ) 語句・語彙】 【漢(イ) 漢字の書き】	記述の点検	○ カードを並べて、自分の思いをしっかりと伝えられるように構成を考えている。 ☆ 選んだ漢字や言葉の意味と、自分の思いや経験とがどのようにつながっているかを考えさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「B 書くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	7 書く内容を決めるには 11 書いた文章を見直すには
『学びを広げる』との関連	・事物からの情報収集 (P81) ・引用の手法 (P89) ・わかりやすいメッセージ (P97)

単元名	言語感覚
単元のねらい	言葉の感覚を磨く

教材名		配当時間	「文脈上の意味と用法」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
文脈上の意味と用法		1 言葉の特徴やきまり 1	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【言(イ) 語句・語彙】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 文脈上で意味のわからない単語を国語辞典で引いて，意味を考えようとしている。		発言の確認 行動の観察	☆ 国語辞典を引いて，辞書的な意味と例文を書き出させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 辞書的な意味をもとにして文脈上の意味をおおむね推定している。		行動の観察	☆ 国語辞典の辞書的な意味を書き出し，それをもとにして文脈上の意味を想像して書き加えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	言語感覚
単元のねらい	言葉の感覚を磨く

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう⑩」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう⑩		1 漢字 1	・漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 言語や慣用句に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 言語や慣用句に関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・常用漢字活用字典 (P110)
--------------	------------------

■『学びを広げる』

「本編」との関連		・芥川龍之介「トロッコ」 （「想像力」単元）	
教材名	配当時間	「少年の日の思い出」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
少年の日の思い出	5 読む5	主人公の描かれ方をとおして、自分のものの見方や考え方を広げる。 【Cオ 自分の考えの形成】	
言語活動		さまざまな種類の文章を音読したり朗読したりすることをとおした指導。【c-言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 最後の場面に表れている作者のものの見方や考え方について、自分なりのものの見方や考え方をもちようとしている。	記述の分析	○ 最後の場面に表れている作者のものの見方や考え方について、仲間の考えと比較しながら自分のものの見方や考え方を広げたり深めたりしようとしている。 ☆ チョウを押し潰す場面がある場合とない場合とで、作品の印象がどのように異なるかを考えさせる。
読む能力	1 主人公の心情がどのように描かれているかを、場面の展開にそって読み取っている。	記述の確認	○ 主人公の心情がどのように描かれているのかを、各場面を結びつけながら、その変化をできごとと関わらせながら読み取っている。 ☆ 場面ごとに、「ぼく」の気持ちを表す言葉を確かめさせる。
	2 細部の描写が、物語の展開や作品の雰囲気を描き出すうえで、どのような効果をあげているかを考えながら読んでいる。	記述の確認	☆ 「クジャクヤママユ」についての三つの描写(P39中段L3～L9)について、それがあるのとないのとでどう違うか、どんな表現効果があるかを考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 主人公の心情や細部を描くうえで用いられている表現(副詞の多用や比喻など)について、その役割や効果に注意して読んでいる。 【言(オ) 表現の技法】 【漢(ア) 漢字の読み】	記述の点検	○ 主人公の心情や情景を描くうえで用いられている多様な語句について、その役割や効果を考え、主題と関わらせて読んでいる。 ☆ 副詞の多用(P37中段の「全く」「ひどく」(L3)、「すっかり」(L5)など)や、比喻(P37の「食るような」(中段L17)、「乾いた荒野の焼けつくような」(中段L22)、「まるで宝を探す人のように」(下段L2など)がどのような意味で使われているかを確かめさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するのであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「本編」との関連		・別役実「空中ブランコ乗りのキキ」 （「理解力1」単元）	
教材名	配当時間	「注文の多い料理店」の学習目標 【学習指導要領の指導事項】	
注文の多い料理店	4 読む 4	・場面の展開や登場人物に注意して読む。 【Cウ 文章の解釈】	
言語活動		さまざまな種類の文章を音読したり朗読したりすることとおした指導。【C－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体の評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 言葉を手がかりにしながら文脈をたどって読んで、描写の効果について考えようとしている。	記述の確認	○ 題名に込められた意味について考えるとともに、「紙くずのように～もとのとおりに治りませんでした。」という記述が表す意味について考えている。 ☆ 二人の紳士の言動をたどらせ、それらがどのようなつながりをもっているかを考えさせる。
読む能力	1 場面の展開や状況の中で登場人物がどのように描かれているかを、確かめながら読んでいる。	記述の分析	○ 教材の記述をふまえたうえで、客観的に、自分の言葉で登場人物像や心情をまとめている。 ☆ それぞれの登場人物について書かれている部分に線を引かせて、どのような人物かを考えさせる。
	2 情景や行動・せりふなどに注目して、それぞれの場面の二人の紳士の心情がどのように描かれているか考えながら読んでいる。	行動の観察	○ 情景や行動・せりふなどに注目して、二人の紳士の心情がどのように描かれているか考えている。 ☆ 二人の紳士の心情がわかる表現を確かめさせ、それぞれの場面についてどのような気持ちかを箇条書きであげさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 文章の中で使われている比喻や寓話らしい表現の技法の意味や使われ方について理解している。 【イ言（オ） 表現の技法】 【ウ漢（ア） 漢字の読み】	記述の点検	○ 擬音語や擬態語に着目して場面の情景を想像するとともに、「風」に関する表現など、象徴的な表現による場面展開の方法を知っている。 ☆ 比喻や寓話らしい技法などの例をあげ、同じような表現を文中から探させる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「本編」との関連		・重松 清「タオル」 （「思考力2」単元）	
教材名		配当時間	「アイスクャンデー売り」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
アイスクャンデー売り		4 読む 4	・登場人物の行動から、心情を読み取る。 【Cウ 文章の解釈】
言語活動		さまざまな種類の文章を音読したり朗読したりすることとおした指導。【C－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 文脈をたどりながら登場人物の行動や心情の描写を読み取ることをとおして、作品の世界を味わおうとしている。	記述の分析	○ P59 下段 L4「お腹が痛くなってもいいから、食べておけばよかった。」という筆者の思いがなぜ平和への願いに結びつくのかを考え、ノートにまとめている。 ☆ アイスクャンデー売りに対する「私」の心情の変化を確かめさせる。
読む能力	1 時間の流れにそって、アイスクャンデー売りについての「私」の心情を確かめながら読んでいる。	記述の確認	○ アイスクャンデー売りに対する「私」の心情をノートにまとめ、自分なりの考えを書いている。 ☆ アイスクャンデー売りに対する「私」の心情の描写をあげさせて、整理させる。
	2 P59 中段 L14 の場面で、アイスクャンデー売りとその場にいた子どもたちのそれぞれの思いがどのように描かれているかを考えながら読んでいる。	記述の確認	○ P59中段L14の場面で、アイスクャンデー売りとその場にいた子どもたちのそれぞれの思いがどのように描かれているかを考え、交流している。 ☆ アイスクャンデー売りの行動（P58L10～）の理由を確かめさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 人物の行動や場面を描くために用いられている語句について、その効果を考えている。 【言（ウ） 語句・語彙】 【漢（ア） 漢字の読み】	記述の点検	○ アイスクャンデー売りに対する「私」の気持ちがよく表れている表現を指摘し、それがもつ効果に気づいている。 ☆ 「お金を握り締めて」（P58 中段 L1）, 「指をくわえて」（P58 下段 L4）などの表現について、他の言葉を使った表現と比べてどのような効果があるかを考えさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「本編」との関連		・早川文代「食感のオノマトペ」 （「言語感覚」単元）	
教材名	配当時間	「速い生活, だいじょうぶ?」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
速い生活, だいじょうぶ?	4 読む 4	・数値やグラフから読み取った情報を手がかりに文章を読み進める。 【Cカ 読書と情報活用】	
言語活動		課題にそって本を読み, 必要に応じて引用して紹介することをおとした指導。【C－言語活動例ウ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 資料を引用したり用例をあげたりしながら, 動物の時間の進み方について感じたり考えたりしたことをまとめようとしている。	記述の分析	○ 筆者の考えに対して, 別の根拠に基づいた自分の考えをもっている。 ☆ 日常生活の中で, 時間の進み方が早く感じる場合と遅く感じる場合とについて, 具体的な例をあげさせる。
読む能力	1 動物の時間の進み方について, どのような特徴があるかを, 本文とグラフをもとに読み取っている。	記述の確認	○ 表の内容が本文のどの部分と対応しているかを理解し, 体重と時間との関係を的確に捉えている。 ☆ 二つの「わかってきた」ことと, 表やグラフで示されている事柄との関係を確かめさせる。
	2 筆者が資料や調査結果をもとにどのように考え, 整理したのかを読み取っている。	記述の確認	○ 体重と時間との関係をふまえて, 筆者の主張とその根拠を理解している。 ☆ 題名の「速い生活, だいじょうぶ?」が, どこを根拠にしているのかを確かめさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 読み手の理解を助けるために, 筆者がどのような表現の工夫をしているかを捉えている。 【言(ウ) 語句・語彙】 【漢(ア) 漢字の読み】	記述の点検	○ 読み手の理解を助けるために, 筆者が用いたグラフの効果を理解している。 ☆ 「時間は体重の四分の一乗にほぼ比例する」(P60 中段 L12), 「時間とエネルギー消費量とは反比例する」(P61 下段 L14) のそれぞれについて, 筆者がどのように言いかえているかを確かめさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については, この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「本編」との関連		・小関智弘「信頼をつなぐ」 （「思考力1」単元）	
教材名	配当時間	「玄関扉」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
玄関扉	4 読む4	・どんなことを伝えるために、何を例に用いて説明しているかを考えながら読む。 【Cイ 文章の解釈】	
言語活動		文章と図表などとの関連を考えながら、目的に応じて必要な情報を読み取ることとおしした指導。【C－言語活動例イ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 例示の意味や効果を考えながら、筆者が伝えたいことを論の展開にそって読み取ろうとしている。	記述の分析	○ 筆者の例の用い方の適切さや不十分さなどについて考え、評価しようとしている。 ☆ ドアの外開きと内開きについて、それぞれが何を象徴しているのかを確かめさせる。
読む能力	1 本文中にあげられている例のそれぞれが、筆者が伝えたいこととどのようにつながっているかを確かめながら読んでいる。	記述の確認	○ 筆者が具体的な場面(例)を想定して外開きと内開きの利点・欠点を比較していることについて記述している。 ☆ ドアが外開きであることによって、どのような利点があるかを確かめさせる。
	2 大きな意味のまとまりごとに中心を読み取って、それぞれのまとまりがどのような役割をもっているかを理解している。	記述の確認	○ 視点を変えることで新たなを図っていることや、2つのドアの比較から文化の比較へと論が広がっていることなどについて記述している。 ☆ 大きな意味のまとまりごとに、それぞれの例について筆者がどんなことを伝えようとしているかを確かめさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 筆者が伝えたいこととそれを支える例とを書き分けるために、文と文・段落のつながりをどのように工夫しているかを理解している。 【言(エ) 単語、文及び文章】 【漢(ア) 漢字の読み】	記述の点検	○ ドアの外開きと内開きを比較している7段落はそれ自体がさらに8段落と比較の関係にあることに気付いている。 ☆ 「一方」(P66 中段 L21)が、その前後の内容をどのようにつないでいるかを考えさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「本編」との関連	・三宮麻由子「ユニバーサルな心を目指して」 （「理解力1」単元）
----------	----------------------------------

教材名		配当時間	「数え方でみがく日本語」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
数え方でみがく日本語		4 読む 4	・言葉の意味を捉えながら筆者の考えを読み取る。 【Cア 語句の意味の理解】
言語活動		文章と図表などとの関連を考えながら，説明や記録の文章を読むことをとおした指導。【C－言語活動例イ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 筆者の伝えたいことを理解するために，語句の文脈の中での意味を的確に捉えて，文章を読もうとしている。	記述の分析	○ 教材本文中の「みがく」という言葉の意味を考えて，筆者の主張を読み取っている。 ☆ 筆者がいう「言葉の感性をみがく」（P69 下段 L17）とはどのようなことかを考えさせる。
読む能力	1 「枚」と「個」の使われ方の違いについて，筆者の例示や調査などに即して理解している。	記述の確認	○ 深さや厚さによって「枚」と「個」を使い分けていることを知るとともに，他の数え方についても調べている。 ☆ P68 と P69 の図を見て，「枚」と「個」が分かれる理由を考えさせる。
	2 例にあげられている慣用表現の意味について，もとになった言葉のもつ意味との関係をふまえて考えている。	記述の点検	○ 慣用表現内の「枚」の使われ方をもとにして，「枚」の意味について記述している。 ☆ 「二枚目」や「一枚かむ」・「枚挙にいとまがない」の言葉の由来が書かれた箇所を指摘させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 ものの数え方の違いやそれにまつわる慣用表現などが，日本語の表現を豊かにしていることを理解している。 【言（ウ） 語句・語彙】 【漢（ア） 漢字の読み】	行動の観察	○ ものの数え方はさまざまにあることを知ると同時に，特定の数え方をする理由について調べている。 ☆ 辞書などを用いて「枚」を使った別の慣用表現を見つけさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため，ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

■「確かめよう」

領域	教材名	指導事項	評価規準
話すこと・聞くこと	話題を決めるには	Aア	日常生活の中の話題について、話したり話し合ったりするための材料をどのように選んだり決めたりしたらよいかを考えている。
	わかりやすく話すには	Aイ	伝えたいことの中心を明らかにして、具体的な事実をもとに自分の考えを伝えるにはどのようにしたらよいかを考えている。
	伝わるように話すには	Aイ	話をするときに聞き手の反応に応じて話し方や話の内容をどのように工夫したらよいかを考えている。
	聞き手を意識して話すには	Aウ	聞き手に伝わるように話すためにはどのような知識をいかすことが必要かを確かめている。
	聞いた内容を確認するには	Aエ	聞いた内容を整理するにはどのようにしたらよいかを考えている。
	話題にそって話し合うには	Aオ	話題にそって話し合うためにはどのようにしたらよいかを考えている。
書くこと	書く内容を決めるには	Bア	日常生活の中の話題について、書くための材料をどのように選んだり決めたりしたらよいかを考えている。
	書く材料を整理するには	Bイ	書くために集めた材料をどのように分類・整理して構成したらよいかを考えている。
	段落の役割を考えて構成するには	Bイ	文章を書くときに段落の役割とそれぞれの段落のつなぎ方をどのようにしたらよいかを考えている。
	根拠を明確にして書くには	Bウ	自分の考えや気持ちを伝えるためにはどのように根拠を示したらよいかを考えている。
	書いた文章を見直すには	Bエ	書いた文章を読みやすくわかりやすいものにするにはどのようにしたらよいかを考えている。
	書いた文章を交流するには	Bオ	書いた文章を読み合うときにはどのようにしたらよいかを考えている。
読むこと（説明）	語句の意味を知るには	Cア	文章の中の語句の意味を的確に理解するにはどのようにしたらよいかを考えている。
	中心となる内容を捉えるには	Cイ	文章の中心となる内容を捉えるにはどのようにしたらよいかを考えている。
	事実と意見とを読み分けるには	Cイ	文章の中の事実と筆者の意見とを読み分けるためにはどのようにしたらよいかを考えている。
	文章の内容をまとめるには	Cイ	文章の内容を要約したり要旨を捉えたりするにはどのようにしたらよいかを考えている。
	文章の特徴について考えるには	Cエ	文章の特徴や工夫を捉えるにはどのようにしたらよいかを考えている。
	必要とする情報を集めるには	Cカ	本や文章などから必要な情報を集めるにはどのようにしたらよいかを考えている。
読むこと（文学）	語句の意味やイメージをつかむには	Cア	文章の中の語句の意味やイメージを的確につかむにはどのようにしたらよいかを考えている。
	場面の展開を読み取るには	Cウ	場面の展開を読み取るためにはどのようにしたらよいかを考えている。
	人物の描写をとおして内容を読み取るには	Cウ	人物の描写をとおして内容を読み取るためにはどのようにしたらよいかを考えている。
	心情の変化を読み取るには	Cエ	人物の心情の変化を読み取るためにはどのようにしたらよいかを考えている。
	ものの見方や考え方を広げるには	Cオ	文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くするにはどのようにしたらよいかを考えている。
	情報を読み取り、理解を深めるには	Cカ	本や文章などから集めた情報を読み取って、内容の理解を深めるにはどのようにしたらよいかを考えている。

2 年生

■本編

単元名	伝統的な言語文化
単元のねらい	言語文化を楽しむ

教材名		配当時間	「枕草子・徒然草」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
枕草子・徒然草		3 言語3	古典に表れたものの見方や考え方にふれ、登場人物や筆者の思いなどを想像する。 【伝(イ) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像する】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例	
関心・意欲・態度	1 古典に表れたものの見方や考え方などについて、現代と比べて考えるなどして、古典の世界を楽しもうとしている。	記述の分析	○ 自分にとっての「先達」について具体的に考えをまとめようとしている。 ☆ 「うつくしきもの」(P14)であげられている例や、「弓射ること」(P18)の「この戒め」を、今の生活に置きかえて考えさせる。	
知識・理解・技能 言語についての	1 現代語訳や解説などを手がかりにして、古典に描かれたものの見方や考え方に触れている。	記述の確認	○ 「懈怠の心」を十分に理解し、自分の経験等と比較できる。 ☆ 現代語訳から、「うつくしきもの」であげられている事物や、「弓射ること」で描かれている人物の言動を整理させる。	

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

『学びを広げる』との関連	・ 古典の冒頭二十五選（折込）
--------------	-----------------

単元名	伝統的な言語文化
単元のねらい	言語文化を楽しむ

教材名		配当時間	「漢詩の世界」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢詩の世界		3 言語 3	・漢詩の特徴をいかして朗読するなどし、古典の世界を楽しむ。 【伝(ア) 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例	
関心・意欲・態度	1 漢詩の特徴をいかしたり、作品の世界を想像したりしながら朗読することをとおして、古典の世界を楽しもうとしている。	記述の分析	○ 漢詩三編の全てを暗唱しようとしている（音読評価表の分析）。 ☆ 語句の意味や語順、漢詩特有の構成（起承転結など）などを確かめながら繰り返し読ませる。	
知識・理解・技能 言語についての	1 語注などを手がかりに、作品に描かれた情景について想像したことをいかして読んでいる。	行動の観察	○ 進んで音読に取り組んでいる（音読評価表の分析）。 ☆ 詩の表現や語注から、描かれている場面の状況を整理させる。	

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

『学びを広げる』との関連	・詩の音読・暗唱（P32）
--------------	---------------

単元名	伝統的な言語文化
単元のねらい	言語文化を楽しむ

教材名		配当時間	「国語辞典の活用」の学習目標 【学習指導要領の指導事項】	
国語辞典の活用		1 言葉の特徴やきまり 1	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【言(イ) 語句・語彙】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 言葉のもともとの意味を知ろうとして国語辞典を活用しようとしている。		行動の観察 記述の確認	☆ 国語辞典を引いて，意味や用法を確かめさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 言葉にはもともとの意味や用法があることに理解している。		記述の確認	☆ 言葉のもともとの意味と最近優勢になってきている意味とを書き出させる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	伝統的な言語文化
単元のねらい	言語文化を楽しむ

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう①」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう ①		1 漢字 1	・漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 伝統文化や伝統的なものの数え方, 伝統的なことわざに関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをとおして, 自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ, その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 伝統文化や伝統的なものの数え方, 伝統的なことわざに関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに, 国語辞典を活用するなどして, その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については, この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は, 学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって, ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と, Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・ 常用漢字活用字典 (P116)
--------------	-------------------

単元名	表現力 1
単元のねらい	的確に表す

教材名		配当時間	「プレゼンテーションをしよう」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
プレゼンテーションをしよう		4 話す・聞く 4	・社会生活の中から話題を決め、集めた材料を整理して資料をつくる。 ・目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話す。 【Aア 話題設定や取材】 【Aウ 話すこと】
言語活動		調べてわかったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすることをとおした指導。【A－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 社会生活の中の話題について、自分の立場や考えを根拠を明らかにして伝えるために、資料や機器などを活用して話すことの効果を考えようとしている。	記述の分析	○ テーマについて、自分の考えを根拠を明らかにして伝えるために、資料や機器などの特徴をいかし、その効果を考えようとしている。 ☆ 他の学習者の発表の中でわかりやすかったものをあげさせ、それがなぜわかりやすかったのかを確かめさせる。
話す・聞く能力	1 社会生活の中からテーマを決め、さまざまな方法で材料を集め、目的に応じて整理している。	記述の確認	○ 報告したい内容にふさわしい資料の図や表、グラフなどを工夫しながら書いている。 ☆ 伝えたい要点を確かめさせ、そのための中心になる材料を選ばせる。
	2 わかりやすく説明するために、機器などを用いたり、資料に図表や写真などを活用したりして話している。	行動の観察	○ 身振り手振りなど話し方を工夫したり、機器や資料を工夫して用いたりして、わかりやすく話している。 ☆ 集めた材料について、どのように示したら内容がより伝わるかを、箇条書き・表・グラフなどのいくつかの方法で考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 話す相手や目的にふさわしい話の形態や展開があることを理解している。 【言（オ） 単語、文及び文章】	記述の点検	○ 相手や目的にふさわしい話し方や展開を工夫して進行表に書いている ☆ 話全体の中心になる内容とそれを支える部分とを区別するなど、全体の構成を意識しながら、内容の順序を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「A 話すこと・聞くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	1 話す材料を集めるには 4 資料などを活用して話すには
『学びを広げる』との関連	・人からの情報収集 (P81) ・表とグラフによる比較 (P87) ・評価の視点 (P99)

単元名	表現力 1
単元のねらい	的確に表す

教材名		配当時間	「読書感想文を書こう」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
読書感想文を書こう		4 書く 4	- 自分の感想や考えが効果的に伝わるように書く。 - 文章を読み合い、自分のものの見方や考え方を広くする。 【Bウ 記述】 【Bオ 交流】
言語活動		多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くことをとおした指導。【B－言語活動例イ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 読書感想文を読み合うことをとおして、さまざまな考え方を知ったり、表現や構成について気づいたりして、自分の文章の参考にしようとしている。	記述の分析	○ ワークシートに観点に基づいた振り返りを今後にかすよう書こうとしている。 ☆ 他の人の感想文の中から自分の文章に使ってみたいと思う部分をあげさせる。
書く能力	1 読んだ本の内容について感じたことや考えたことを、文章の一節を引用したり表現を工夫したりして、わかりやすく説明している。	記述の確認	○ 文章の一節を効果的に引用するなど、自分の伝えたいことがよく伝わるよう工夫して書いている。 ☆ 本を読んで自分が感じたことや考えたことのもとなった部分を、本の中から抜き出させる。
	2 感想文を読み合い、説明の仕方や、感想文に表れたものの見方や考え方などについて、自分の考えを述べている。	行動の観察 記述の確認	○ 書き手の考えや説明の仕方について、根拠をもとにして積極的に発言したり、書いたりしている。 ☆ 他の学習者の感想文について、書き手の感じ方や考え方が書かれている部分を指摘させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 読んだ本の内容について感じたことや考えたことを表現するためにふさわしい言葉を選んでいる。 【言(イ) 語句・語彙】	記述の点検	○ 序論・本論・結論に整合性があり、本論部分の引用表現が考えを表すのに、その効果を考え適切に選び抜かれている。 ☆ 自分の感じたことや考えたことについて、その中心をどのように言いかえられるか考えさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」「B 書くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	8 伝えたいことを明確にするには 12 文章の工夫について交流するには
『学びを広げる』との関連	- 引用の機能 (P89) - 文学的な文章の要約 (P91)

単元名	表現力 1
単元のねらい	的確に表す

教材名		配当時間	「用言の活用」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
用言の活用		1 言葉の特徴やきまり 1	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【言(エ) 単語，文及び文章】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 「着る」と「切る」の活用の違いを考えようとしている。		記述の分析	☆ 「着る」と「切る」に同じ活用語尾を付け，かたちを比べさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 活用表のしくみをおおむね理解している。		行動の観察 発言の確認	☆ 主要な動詞・形容詞などに活用語尾を付けながら，自分で活用表を作り完成させる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	表現力 1
単元のねらい	的確に表す

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう②」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう ②		1 漢字 1	・漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 表現に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをおおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 表現に関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をおおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・常用漢字活用字典 (P116)
--------------	------------------

単元名	表現力 2
単元のねらい	わかりやすく述べる

教材名		配当時間	「壁に残された伝言」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
壁に残された伝言		4 読む 4	・ 発見された事実と、それを取材した筆者の思いがどのように書かれているかを読み取る。 【Cイ 文章の解釈】
言語活動		説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べることをとおした指導。【C－言語活動例イ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○ A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆ Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 「伝言」という言葉のもつ二つの意味について、図や表を用いて表現している筆者の思いや願いについて考え、自分なりのものの見方や考え方を広げようとしている。	記述の分析	○ 前時に行った話し合いをもとに、自分の考えを深めたり、関係者の心を理解して想像することで「伝言」にこめられた二つの意味を適切に述べたりしようとしている。 ☆ 「伝言」という言葉のもつ意味を、〈目に見えるもの〉＝(実際に書かれたもの)と〈目には見えないもの〉＝(筆者の思いや願い)という二つの視点から考えさせる。
読む能力	1 「伝言」が発見された経緯や保存された事情について、写真や図なども参考にして読み取っている。	記述の確認	○ 筆者のとまどいを読み取りながら、本当の意味で理解することの難しさを指摘している。 ☆ P45・46の二つの写真を比べ、その一致点や違いを見つけることで、「伝言」が発見された経緯を確認し、保存された事情をそれぞれの図について説明している段落と照らし合わせながら、一つずつ説明させる。
	2 発見された「伝言」のもつ価値について読み取ったことをもとに、当事者にとってだけでなくその社会的意義を含めて、考えたことをまとめている。	行動の観察	○ 「時間を超えて出てきた理由」や関係者の思いを具体的にイメージして複数記入できており、また、「目には見えないもの」にまで言及できている。 ☆ 「伝言」発見の話題を、なぜマスコミが大きく取りあげたのか、本文中の内容を根拠にしながら自分の考えをまとめさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 発見された「事実」の説明と筆者の「思い」を書き分けるために、段落の構成の仕方や図・写真の用い方について、筆者はどのように工夫しているかを理解している。 【言(ウ) 単語、文及び文章】 【漢(ア) 漢字の読み】	記述の確認	○ 事実の他に、その当時の人々や、後に見た人の思いを想像してノートに記述している。 ☆ 大きな意味のまとめ(五つの意味段落)ごとに小見出しをつけることで、具体的な事実の説明と筆者の思いが、どのような構成でまとめられているかを確かめさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	14 段落の役割と内容を整理して読むには
『学びを広げる』との関連	・ 中谷宇吉郎「卵の立つ話」(p54) ・ 説明の焦点化 (p93)

単元名	表現力 2
単元のねらい	わかりやすく述べる

教材名		配当時間	「意見文を書こう」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
意見文を書こう		5 書く 5	・社会生活の中から課題を決め、自分の考えをまとめる。 ・自分の意見や立場が明確になるよう、構成を工夫して書く。 【Bア 課題設定や取材】 【Bイ 構成】
言語活動		多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くことをとおした指導。【B－言語活動例イ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 他の人の文章と自分の文章とを読み比べて、意見を伝えるためにふさわしい文章の構成や説明の仕方を考えようとしている。	記述の分析 または 行動の観察	○ 他の学習者の文章で参考になった点が書かれており、自分の文章を振り返り、次に行うときにはこうしていきたいという評価ができています。 ☆ 他の学習者の文章を読み比べて、そこにどのような述べ方の違いがあるかを確かめさせる。
書く能力	1 社会生活の中から選んだ課題について、多様な方法で集めた資料を友達と質問し合いながら整理し、自分の考えをまとめている。	記述の確認	○ 多くの材料から、もっとも伝えたい内容について絞り込み、考えたことや感じたこと、その根拠が伝わりやすいように工夫され書かれている。 ☆ 「こんなことを質問し合おう」(P55)の項目ごとに、どのように答えたらよいかを考えさせる。
	2 下書きの交流をとおして、意見や立場が明確か、根拠と意見がつながっているかなどの視点から文章全体の構成を見直している。	記述の確認	○ 内容や、段落構成、語句、接続詞の使い方などのアドバイスをしている。アドバイスを受けて自分で赤鉛筆を使いわかりやすく書き直そうとした工夫が見られる。 ☆ もらったアドバイスについて、具体的にはどのような問題があるかを、質問したり相談したりして、どのように直したらよいか考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 伝えたい意見や事柄にふさわしい文章の展開を工夫している。 【言(オ) 文章】	記述の点検	○ 自分の意見をわかりやすく述べるための構成となっており、原稿用紙の使い方も適切である。 ☆ 「文章の組み立て」(P342)の「結論の示し方」の中から、自分の文章の型の一つ選ばせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」「B 書くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	7 書く材料を探すには 9 説得力のある文章を書くには
『学びを広げる』との関連	・情報の比較 (P83) ・引用の機能 (P89)

単元名	表現力 2
単元のねらい	わかりやすく述べる

教材名		配当時間	「さまざまな意味」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
さまざまな意味		1 言葉の特徴やきまり 1	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【言(イ) 語句・語彙】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 多義語や類義語・対義語，同音異義語をあげようとしている。		記述の確認	☆ 国語辞典を引きながら，多義語や類義語・対義語，同音異義語を書き出させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 一つで多くの意味を持つ語句(多義語)や別の語でありながら表す意味が似た語(類義語)，意味のうえで互いに反対の関係にある語(対義語)，音が同一であって意味の異なる語(同音異義語)について理解している。		記述の確認	☆ 多義語や類義語・対義語，同音異義語の定義を書き出させる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	表現力 2
単元のねらい	わかりやすく述べる

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう③」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう ③		1 漢字 1	・ 漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 表現に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 表現に関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・ 常用漢字活用字典 (P116)
--------------	-------------------

単元名	理解力 1
単元のねらい	的確に読み解く

教材名		配当時間	「走れメロス」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
走れメロス		4 読む 4	登場人物の生き方や考え方について、自分の考えや意見をもつ。 【Cエ 自分の考えの形成】
言語活動		詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流することとおした指導。 【Cー言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 小説に描かれた人物のものの見方や考え方について、自分なりの考えをもとに感想を交流して、考えを深めようとしている。	記述の確認	○ 作品を踏まえ、批判(非難)、共感、共鳴など、自分と比べながら捉えている。 ☆ 小説の場面の移り変わりを確かめさせ、その中で人物の心情がどのように描かれているかを考えさせる。
	1 小説の中のそれぞれの場面の登場人物の言動や心情などについて、描写の効果なども考えながら読み取っている。	記述の分析	○ 描写について、例えば天候に目を向けるなどの視点を設定して考察している。 ☆ どこかの場面を選ばせて、その場面での行動から人物の気持ちに変化しているかいないかを考えさせる。
読む能力	2 登場人物のそれぞれのものの見方や考え方について、自分の考えと比べながら、共感できることや疑問をもったことをまとめながら読んでいる。	行動の観察	○ 王、メロス、セリヌンティウスのそれぞれの見方や考え方について、自分の考えと比べ、共感したり、疑問をもったりしている。 ☆ 登場人物の心情が表れているといえる言葉を指摘させ、なぜその言葉が心情を表しているといえるのかを考えさせる。
	1 人物の心情や行動を表すために作者がどのような言葉や表現を用いているかなどの、表現上の効果を考えながら小説を読んでいる。 【言(イ) 語句・語彙】 【漢(ア) 漢字の読み】	記述の確認	○ 心情、行動やしぐさ、表情、会話などの表現を押さえ、メロスと王との違いを表にして対照的にとらえている。 ☆ わかりにくい表現や単語を確かめさせ、前後の表現から文脈上の意味を考えさせる。
知識・理解・技能	言語についての		

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するのである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	21 登場人物の言の意味を考えるには 24 調べたことをもとに理解を深めるには
『学びを広げる』との関連	・あさのあつこ「夏を見上げて。」(P42)

単元名	理解力 1
単元のねらい	的確に読み解く

教材名		配当時間	「日本人はアリスの同類だった」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
日本人はアリスの同類だった		4 読む 4	・自分のものの見方や考え方と比べながら読む。 【Cエ 自分の考えの形成】
言語活動		説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べることをとおした指導。【C－言語活動例イ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 筆者の「語り絵」についてのものの見方や考え方と自分の考え方を比べ、話し合ったり考えたりすることを通して、自分の考えを広げようとしている。	記述の分析	○ 筆者のものの見方や考え方と自分の考え方とを比べ、話し合ったり考えたりすることを通して、自分の考えを広げようとしている。 ☆ P91 の三枚の絵や写真について、それぞれにどのような違いがあるかを考えさせる。
	1 筆者が捉えているマンガとアニメという言葉の定義や、「鳥獣人物戯画」と「現代のマンガ」、「絵」と「言葉」という二つの言葉の関係を確かめながら、内容を読み取っている。	記述の確認	○ マンガ(とアニメ)の定義をふまえ、「鳥獣人物戯画」と「現代のマンガ」の共通点・相違点を、「語り絵」の概念を軸に、「絵」と「ことば」という二つの関係を確かめながら、内容を読み取っている。 ☆日本のマンガやアニメについての定義(P87L14～)について、それが鳥獣戯画や浮世絵・絵巻物などに当てはまるかどうかを考えさせる。
読む能力	2 「私たち日本人は～、昔からアリスの同類だったらしいのです。」(P91L7)という筆者のものの見方や考え方について話し合ったことをもとに、共感することや疑問に思ったことについて、自分の考えをまとめている。	記述の確認 行動の観察	○ 日本人(自分)が、アリスと同類なのかどうかについて、話し合ったことをもとに、共感することや疑問に思ったことについて、自分の考えをまとめている。 ☆ 「絵も会話もない本」が具体的にどのような本をさしているのか、具体的な書物を探させて、考えさせる。
	1 文中の「語り絵」という言葉の意味を、筆者がかぎかつことやまかつことを使い分けていることも含めて考えている。 【言(エ) 単語、文及び文章】 【漢(ア) 漢字の読み】	記述の点検	○ 文中の「語り絵」という言葉の意味を、筆者なりの定義を含めこんで〈〉を用いて説明するなど、筆者が、「」や〈〉を使い分けて効果的に説明していることも含めて考えている。 ☆ 筆者の定義している「語り絵」という言葉の意味を P88L5 から P89L13 を中心に「語り絵」ということばを説明している部分を本文中より探し線を引かせ、線を引かせた部分を参考に「語り絵」という言葉がどのような意味でつかわれているかを考えさせる。
知識・理解・技能	言語についての		

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	16 構成や展開について考えをまとめるには
『学びを広げる』との関連	・池田晶子「友愛」(P68) ・情報の比較 (P83)

単元名	理解力 1
単元のねらい	的確に読み解く

教材名		配当時間	「熟語の構成と意味」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
熟語の構成と意味		1 言葉の特徴やきまり 1	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【言(イ) 語句・語彙】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 熟語の組み立てを考えて型に分類しようとしている。		行動の観察 記述の分析	☆ 例示の熟語を構成する漢字の意味を漢字辞典で調べさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 熟語の組み立てには型があることを理解している。		記述の確認	☆ 熟語を構成する漢字の意味を明らかにして相互の関係を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	理解力 1
単元のねらい	的確に読み解く

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう④」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう ④		1 漢字 1	・漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 産業・経済に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 産業・経済に関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・常用漢字活用字典 (P116)
--------------	------------------

単元名	理解力 2
単元のねらい	判断して説明する

教材名		配当時間	「短歌の世界」の学習目標 【学習指導要領の指導事項】
短歌の世界		4 読む 4	・ 語句の意味や用い方に注意して、作品世界を味わう。 【Cア 語句の意味の理解】
言語活動		詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流することとおし た指導。【Cー言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際の キーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 一首を選んで鑑賞文を書くこと をとおして、短詩形のよさや特 徴などについて考えを深めよう としている。	記述の確認	○ 書く意欲をもって、段落構成に則って書こうと している。 ☆ 歌に描かれた情景や心情を、自らの体験と関連 付けて考えさせる。
読む能力	1 それぞれの短歌の内容や表現 の特徴について、「短歌を味わう ために」(P100)を参考に、自分 の考えをまとめている。	記述の点検	○ 指導者のスピーチで、短歌の基礎知識について 指導上の留意点にある項目が聞き取れている。 ○ 漢字表記がわからず「ひらがな」で書いたところ は、調べて漢字表記できる。 ☆ 短歌を一首選ばせてその内容について共感でき ることや疑問に思うことを明確にさせ、そこから その歌の内容について考えをまとめさせる。
	2 短歌にこめられている情景や 心情、それを表現している語句の 意味や方法について、感想をまと め交流している。	行動の観察	○ 参加する喜びや表現する満足感が得られてい る。 ○ 言葉を交わす一時を楽しむことができる ☆ 「短歌を味わうために」(P100)のどれかの項 目を選んで、同じ項目があてはまる短歌を P98・ 99 から探させて、なぜそういえるのかを確かめさ せる。
知識・理解・技能 言語についての	1 意味の切れ目や調子に注意し て、短歌を朗読している。 【言(イ) 語感と語彙】 【漢(ア) 漢字の読み】	行動の観察	○ 意味の切れめや調子、表記に注意しながら音読 や視写、暗誦に取り組んでいる。 ☆ 読みの速さ・強弱・間などを変えることによる、 印象や伝わり方の違いがあることを確かめさせ る。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	19 表現を確かめながら読むには 23 知識や体験をいかして読み深めるには
『学びを広げる』との関連	・ 歳時記 (P16)

単元名	理解力 2
単元のねらい	判断して説明する

教材名		配当時間	「見られる側の言い分」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
見られる側の言い分		2 書く 2	発想や表現のおもしろさについて感想を交流する。 【Bウ 記述】 【Bオ 交流】
言語活動		多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くことをとおした指導。【B－言語活動例イ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 題材に応じて表現を工夫した文章を書き、それを読み合うことをとおして、自分の考えを広げようとしている。	記述の分析	○ 読み手にとっておもしろいと思われる発想や表現の工夫をしている。 ☆ 他の学習者の作品の中で最もおもしろいと思ったものについて、作品の続きを考えさせる。
書く能力	1 「見られる側」の意見や心情が伝わるように、ふさわしい話題を選んだり描写や表現を工夫したりしている。	記述の確認	○ ふさわしい話題をいくつも見つけ、表現を工夫して書いている。 ☆ 選んだ題材について、思いつく特徴をできるだけ多く書き出させる。
	2 書いた作品を読み合い、発想のおもしろさ、描写や表現の工夫の仕方に着目して意見を述べている。	記述の確認 行動の観察	○ 自身の作品の中で表現を工夫するとともに、他の作品のよい点を認め、よりよくするためのアドバイスをしている。 ☆ 他の学習者の作品の中からおもしろいと思ったものをあげさせて、どこがおもしろかったか考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 話し言葉の特徴を意識し、題材に応じて共通語と方言を使い分けるなど、言葉の使い方を工夫している。 【言(ア) 言葉の働きや特徴、言葉遣い】	記述の点検	○ 選んだ題材にふさわしい言葉の使い方を工夫しようとしている。 ☆ 「わし」「わて」「ぼく」などの自称語を用いて書かせ、どれがふさわしいかを考えさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「B 書くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	10 描写を工夫して書くには
『学びを広げる』との関連	- 考えのメモ (P85) - 評価の視点 (P99)

単元名	理解力 2
単元のねらい	判断して説明する

教材名		配当時間	「助詞・助動詞のはたらき」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
助詞・助動詞のはたらき		2 言葉の特徴やきまり 2	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【言(ウ) 単語，文及び文章】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 自立語の後にさまざまな助詞・助動詞を付けて多くの文を作ろうとしている。		記述の確認	☆ 基本となる文をあげ，助詞・助動詞を入れかえたり，つけ加えたりして新しい文を作らせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 助詞・助動詞が自立語の後にいてさまざまな意味を表すことを理解している。		発言の確認	☆ 基本となる文から，助詞・助動詞を入れかえたり，つけ加えたりしてできる新しい文の意味を説明させる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	理解力 2
単元のねらい	判断して説明する

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう⑤」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう ⑤		1 漢字 1	・ 漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 産業・経済、人と人との関係などに関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 産業・経済、人と人との関係などに関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・ 常用漢字活用字典 (P116)
--------------	-------------------

単元名	伝え合う力
単元のねらい	ともにわかり合う

教材名		配当時間	「パネルディスカッションをしよう」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
パネルディスカッションをしよう		5 話す・聞く 5	- 異なる立場や考えの人にもわかるように、自分の考えをまとめる。 - 相手の立場や考えを尊重し、目的にそって話し合う。 【AI 話すこと】 【AO 話し合うこと】
言語活動		社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行うことをとおした指導。【A—言語活動例イ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 目的にそって話し合うことをとおして、さまざまな立場や視点にふれたり、それらと自分の考えを比べたりしようとしている。	記述の分析	○ 日常生活の中で、考えを深めたり確かなものにしたりにするためにパネルディスカッションをしようとしている。 ☆ 話し合いをとおして自分の意見や考えが変わったか変わらなかったかを確かめさせ、それがなぜかを考えさせる。
話す・聞く能力	1 自分の立場を支える資料を集め、異なる立場からの反論や意見などを予想しながら、述べ方や構成を考えている。	記述の確認	○ 異なる立場の人が自分の意見を聞いたときの「思い」も予想して考えを述べている。 ☆ 自分とは異なる立場から考えたとき、どのような意見があり得るか、具体例をあげて考えさせる。
	2 主張や意見、根拠や理由などを考えるための話し合いをとおして、互いの発言の内容を検討し、自分の考えを広げている。	行動の観察 記述の確認	○ 友達の意見から手がかりを得て、根拠を確認しながら新たな自分の考えをまとめている。 ☆ 他の学習者の発言から、根拠や理由にあたる内容を確認させて、自分たちの立場にとってそれがどうか、妥当かどうかを考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 話し合いの中で、考えを伝えるのにふさわしい語句の使い方、言葉遣いがどのようなものかを理解している。 【言(ア) 言葉の働きや特徴、言葉遣い】 【言(イ) 語句・語集】	記述の点検	○ 話し合いの中では、どのような表現がなぜ効果的であるかについても説明できている。 ☆ 他の学習者の発言の中から、考えが理解しやすかったものをあげさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「A 話すこと・聞くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	2 聞き手の立場を考え話すには 6 目的にそって話し合うには
『学びを広げる』との関連	- 情報の比較 (P83) - 説明の焦点化 (P93)

単元名	伝え合う力
単元のねらい	ともにわかり合う

教材名		配当時間	「小さな手袋」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
小さな手袋		4 読む 4	文体や描写に気をつけて読み、その表現効果について考える。 【Cエ 自分の考えの形成】
言語活動		詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流することとおし た指導。【Cー言語活動例ア】	
評価の 観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際の キーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・ 意欲・ 態度	1 視点を变えて物語を書き換えるなどして、物語の構成や展開、描写や表現の効果などについて考えようとしている。	記述の分析	○ 「おばあさん」がどんな思いでクリスマス前後の日を過ごしていたかを、表現を工夫し、作品の温かい雰囲気を変えないように書いている。 ☆ この作品を「おばあさん」を視点にした物語として考えると、『小さな手袋』にはどのような思いがこめられているかを考えさせる。
	2 作品のそれぞれの場面で、「私」の「シホ」に対する気持ちがどのように描かれているかを考えながら、内容を読み取っている。	記述の確認	○ 年齢や人物関係等の設定をふまえて読み取っている。 ☆ 「シホ」の行動を「私」がどのように見ていたかを、場面を選んで考えさせる。
読む能力	2 作者がなぜ「私」を視点にこの物語を書いたのかということについて、表現の効果も含めて考えている。	記述の点検	○ 第1・2時で学習したことや「一般的な父親の娘に対する思い」もふまえて考えている。 ☆ 「シホ」の気持ちが描かれている部分について、「シホ」ならどのような言葉で表現するかを考えさせる。
	1 作品の中の登場人物が、それぞれ他の人物からどのような人物として描かれているかを、表現に基づいて整理している。 【言(オ) 表現の技法】 【漢(ア) 漢字の読み】	記述の点検	○ 全ての登場人物は語り手の目をとおして描かれていることをふまえて整理している。 ☆ 作品の前半と後半とで、「シホ」から見た「おばあさん」がどのような人物として描かれているかを比べさせる。
知識・ 理解・ 技能	言語についての		

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	20 描写の効果を考えるには
『学びを広げる』との関連	・安岡章太郎「幸福」(P36)

単元名	伝え合う力
単元のねらい	ともにわかり合う

教材名		配当時間	「話し言葉と書き言葉」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
話し言葉と書き言葉		1 言葉の特徴やきまり 1	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【言(ア) 言葉の働きや特徴，言葉遣い】 【言(オ) 単語，文及び文章】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 実際に発話して話し言葉に現れる特徴を見つけようとしている。		行動の観察	☆ 話し言葉を書き言葉に書きかえさせたり，実際に発話してイントネーションやプロミネンスについて確認させたりする
知識・理解・技能 言語についての	1 話し言葉と書き言葉では語彙や表現，伝達の仕方などで違いがあることをおおむね理解している。		発言の確認 記述の確認	☆ 話し言葉と書き言葉の語彙や表現を比較させたり，イントネーションやプロミネンスを変えた文の意味を比べさせたりする。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	伝え合う力
単元のねらい	ともにわかり合う

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう⑥」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう ⑥		1 漢字 1	・漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 話し合いや日常生活に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 話し合いや日常生活に関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・常用漢字活用字典 (P116)
--------------	------------------

単元名	思考力 1
単元のねらい	論理的に考える

教材名		配当時間	「事典をつくろう」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
事典をつくろう		4 書く 4	・課題にそって材料を整え、観点を決めて自分の考えをまとめる ・具体的で効果的な説明の仕方を考え、描写を工夫する。 【Bア 課題設定と取材】 【Bウ 記述】
言語活動		多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くことをとおした指導。【B－言語活動例イ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 描写の仕方を工夫して書くことをとおして、読み手に事実や事柄を効果的に伝えようとしている。	記述の分析	○ 描写の仕方などの工夫について、他のグループの事典のよさや改善点に気づき、自分の解説文のよさや改善点を指摘している。 ☆ 他のグループの事典の中から、わかりやすいと思う事典や項目をあげさせる。
書く能力	1 書く内容にそって、説明の仕方を考えて材料を集めたり、整理したりしている。	記述の確認	○ 選んだ題材に即して、さまざまな観点を設定し、多様な材料を集めている。 ☆ 材料について、「材料を集める観定の例」(P133)を参考に、書く内容を整理させる。
	2 わかりやすい説明や具体例を加えたり、例をあげて具体的に説明したりするなど、描写を工夫しながら書いている。	記述の確認	○ 集めた材料を効果的に用いて、伝えたいことがわかりやすくなるよう表現を工夫している。 ☆ P134の例や、辞書や事典を参照させて、描写の仕方を振り返らせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 微妙なニュアンスを伝えるために助詞や助動詞が果たしている役割について、理解している。 【言(エ) 単語、文及び文章】	記述の点検	○ 読み手にわかりやすいように、助詞や助動詞の使い方に注意して、文章の表現を工夫している。 ☆ 文章の助詞や助動詞を変えて、ニュアンスの違いを確かめさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「B 書くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	7 書く材料を探すには
『学びを広げる』との関連	・説明の焦点化 (P93) ・池上彰『話の地図』を相手に示そう (P62)

単元名	思考力 1
単元のねらい	論理的に考える

教材名		配当時間	『循環型社会』とは何かの学習目標【学習指導要領の指導事項】
「循環型社会」とは何か		4 読む 4	文中に用いられている言葉を正しく理解し、筆者の論の進め方に注意しながら読む。 【Cア 語句の意味の理解】 【Cウ 自分の考えの形成】
言語活動		新聞やインターネット，学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較することをとおした指導。【C－言語活動例ウ】	
評価の観点	学習活動における具体の評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 文中に用いられている語句の意味を理解したうえで、述べられている意見について考えを広げようとしている。	記述の分析	○ 学校や家庭で意識して実践していることを例に挙げて、「循環型社会」に対する自分の考えと筆者の考えを比較しながら、自分の意見を述べている。 ☆ 「循環型社会」「環境」「資源」がもつ語句の意味とその具体例について確認し、それぞれについて書かれている箇所を確かめさせ、その関連を考えさせる。
読む能力	1 問題提起の文に着目し、それに対する論の展開を捉え、そこから筆者の主張を読み取っている。	記述の確認	○ 問題提起と論の展開から筆者の主張を捉え、それについての自分の考えをもっている。 ☆ 問題提起の後の段落の関連を整理させ、文章全体がどのような構成になっているかを考えさせる。
	2 筆者の「論の進め方」と「具体例の取りあげ方」に着目し、そのような書き方をした目的や意図について自分の考えをもっている。	行動の観察	○ 書かれている内容を取り上げたり、前後の段落の関連に触れたりしながら自分の考えを発表している。また、他者の発言にも注目し、自分の意見に反映させている。 ☆ 段落のつながりや文末表現に着目させ、そこから問いと答えの構造に気づかせるとともに、具体例がある場合とない場合とでどのような違いがあるかを考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 意見を論理的に伝えるために、どのような文章の構成の工夫がされているかを理解して、内容を読み取っている。 【言(ウ) 単語、文及び文章】 【漢(ア) 漢字の読み】	記述の確認	○ 重要語句をすべて含め、意味をわかりやすく書いている。また、具体例について、良い面・課題とその解決の方向についても書いている。 ☆ 意見に説得力をもたせるためには何が必要かを、内容のまとまりをとらえさせながら考えさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	13 抽象的な語句の意味を確かめるには 15 例示の効果を読み取るには
『学びを広げる』との関連	- 池上彰『話の地図』を相手に示そう(P62) - 説明の焦点化(P93)

単元名	思考力 1
単元のねらい	論理的に考える

教材名		配当時間	「敬語の意味と種類」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
敬語の意味と種類		1 言葉の特徴やきまり 1	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【言(ア) 言葉の働きや特徴，言葉遣い】 【言(オ) 単語，文及び文章】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 敬語を正しく使おうとしている。		記述の分析	☆ 常体の文を敬体に直させたり，敬語の誤りを指摘させたりする。
知識・理解・技能 言語についての	1 丁寧語，尊敬語，謙譲語の違いをおおむね理解している。		行動の観察 記述の確認	☆ 敬語を使った例文で，誰から誰への敬意を表しているかについて考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	思考力 1
単元のねらい	論理的に考える

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう⑦」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう ⑦		1 漢字 1	・ 漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 考えることや科学に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 考えることや科学に関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・ 常用漢字活用字典 (P116)
--------------	-------------------

単元名	思考力2
単元のねらい	多角的に考える

教材名		配当時間	「蒼いみち」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
蒼いみち		4 読む4	・描写の工夫や効果を考え、登場人物の心情の変化を読み取る。 【Cイ 文章の解釈】
言語活動		詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流することをおとした指導。【Cー言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 登場人物の特徴を表している表現の効果について、考えたり感じたりしたことを交流して深めようとしている。	記述の分析	○ 登場人物全てにおいて、過不足なく表現を抜き出すとともに、その工夫や効果についても記述しようとしている。 ☆ 登場人物の特徴を表した表現の具体例をあげさせ、それぞれの表現の効果について考えさせる。
読む能力	1 この作品が「私」の視点で描かれていることから全体の構成や展開にどのような効果をあげているかを考えながら、物語を読んでいる。	記述の確認	○ 描写から「私」の捉えた登場人物像を、もれなくまとめている。 ☆ 「私」と「フユちゃん」の関係の変化を、場面の展開にそって考えさせる。
	2 最後の場面での「私」の思いを、「納得した」内容を中心に考えたことを交流している。	記述の確認	○ 「私」の思いを、具体的な言葉で端的に表している。 ☆ 小学校の頃の回想（第一のまとまり）を再度読み返すように助言するとともに、「やっぱり」という言葉に着目させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 人物や情景を描くために用いられている言葉の使い方の工夫に着目して、物語を読んでいる。 【言（イ） 語句・語集】 【漢（ア） 漢字の読み】	記述の分析	○ 特徴だけでなく、お互いの関係にも着目して登場人物の紹介文を書いている。 ☆ 「墨汁のように暗くて」（P156L16）などの表現について、そうした描写からどんな心情が読み取れるか考えさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	22 表現の工夫について考えるには
『学びを広げる』との関連	・野坂昭如「凧になったお母さん」（P48）

単元名	思考力 2
単元のねらい	多角的に考える

教材名		配当時間	「手紙文を書こう」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
手紙文を書こう		4 書く 4	書いた文章を読み返し、言葉遣いや内容を見直す 【Bエ 推敲】 【Bオ 交流】
言語活動		社会生活に必要な手紙を書くことをとおした指導。【B－言語活動例ウ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 書いた手紙を読み返したり、書く目的を考えて意見や助言をし合ったりすることをおして推敲の必要性を理解し、文章を書くことにいかそうとしている。	記述の分析	○ アドバイスし合う活動の中で出た意見や助言を適切に取り入れ、さらに全体を見直したうえで手紙文を完成させようとしている。 ☆ アドバイスし合う活動の中でどのような意見や助言があったかを振り返り、それが清書にどのようにいかされているかを確かめさせる。
書く能力	1 書く目的にふさわしい文章にするために、語句や文の使い方や手紙の形式などに注意して、書いた手紙を読み返している。	記述の確認	○ 語句や文の使い方、手紙の形式などだけでなく、より文意が伝わりやすくなるよう推敲している。 ☆ 「手紙・はがきの書き方」(P325)を参考にし、手紙の形式を確かめさせる。
	2 書いた手紙を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言し合ったりしている。	記述の確認 行動の観察	○ 語句や文の使い方、手紙の形式などだけでなく、より伝わりやすい文意になるように具体的なアドバイスをしている。 ☆ とりあげている材料を選んだ理由について、書き手に確かめさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 書く相手や目的にふさわしい言葉遣いや敬語を用いて書いている。 【言(ア) 言葉の働きや特徴、言葉遣い】	記述の点検	○ 頭語と結語、時候の挨拶などの手紙の形式をふまえ、手紙の内容や想定する相手にふさわしい敬語を用いて書いている。 ☆ 手紙の例(P164～165)を参考に、ふさわしい言葉遣いを確かめさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「B 書くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	11 書いた文章を見直すには
『学びを広げる』との関連	- 情報の比較 (P83) - 場に応じたメッセージ (P97)

単元名	思考力 2
単元のねらい	多角的に考える

教材名		配当時間	「文の成分の順序と照応」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
文の成分の順序と照応		1 言葉の特徴やきまり 1	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【言(ウ) 単語，文及び文章】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 文の意味の曖昧さや照応の不適切さについて考えようとしている。		記述の確認	☆ 文の成分の関係を図などに表して考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 曖昧な文の意味がはっきりするように直したり，照応の不適切さを修正したりしている。		行動の観察	☆ 文の成分の順序を入れかえたり，文の成分同士の関係を書き込ませたりする。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	思考力 2
単元のねらい	多角的に考える

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう⑧」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう ⑧		1 漢字 1	・漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 自然や身体・健康に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 自然や身体・健康に関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・ 常用漢字活用字典 (P116)
--------------	-------------------

単元名	想像力
単元のねらい	さまざまな見方・考え方を知る

教材名		配当時間	「平家物語」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
平家物語		4 読む 4	・描かれた場面を想像し、登場人物の生き方について考える。 【Cイ 文章の解釈】 【伝(ア) 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむ】 【伝(イ) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像する】
言語活動例		詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流することをおとした指導。【Cー言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 「冒頭」と「敦盛の最期」で描かれているものの見方・考え方に共通するものは何かを捉え、それについての自分なりの考えをまとめようとしている。	記述の確認	○ 積極的に意見交換をし、他者の意見や自分の意見についてノートなどに記述して、加除・訂正を行おうとしている。 ☆ 現代語訳や平家物語について解説した文章を参考に、なぜ熊谷次郎直実が「出家」という思いに至ったのかを考えさせる。
読む能力	1 場面の展開や登場人物などの描写に注意しながら作品を読んで、内容を理解している。	記述の分析	○ 直実が、武士としての功績をあげようと野心をもち焦る心を、後文と関連づけて書いている。 ☆ 場面ごとに、敦盛や熊谷次郎直実の行動や心情を表す言葉を確かめさせる。
	2 作品に描かれた人物のものの見方や考え方について、時代背景や状況なども考えながら想像して、交流を通して確かめている。	行動の観察	○ P175L1「あつばれ〜まつらばや。」の部分から、助けたいと思う理由を二つ考え、重みづけをしてノートに書き、発表している ☆ 敦盛に対して、熊谷次郎直実はどのような気持ちで言葉をかけたかを自分の立場に置きかえて考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 文体の特徴に注意して、登場人物の心情や作者の思いを想像しながら、作品を音読している。 【伝(ア) 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと】 【漢(ア) 漢字の読み】	行動の観察	○ 「平家物語」について興味をもち、歴史的背景等について知っていることを発表している。 ☆ 意味の切れめや語調に注意して繰り返し音読させるなどして、作品に特有のリズムに慣れさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「B 書くこと」および「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	21 登場人物の言動の意味を考えるには
『学びを広げる』との関連	・平家物語紀行(P8)

単元名	想像力
単元のねらい	さまざまな見方・考え方を知る

教材名		配当時間	「詩二編」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
詩二編（大阿蘇・わたしを束ねないで）		2 読む2	・構成や展開，描写の特徴を読み取る。 【Cウ 自分の考えの形成】
言語活動		詩歌や物語などを読み，内容や表現の仕方について感想を交流することをとおした指導。【C－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 詩の構成や展開，表現の仕方について気づいたことを具体的にあげながら感想を発表し合い，考えを深めようとしている。	記述の分析	○ 作者の思いと自分の生き方とを重ね合わせ，自分の生き方を見つめ直すなどして，学習したことを今後にかかそうとしている。 ☆ 詩の構成や展開，表現の仕方について自分が最も注目した点について，それがどのようなものなのか，なぜ注目したのかを考えさせる。
	1 詩の構成や展開，表現の仕方についての工夫があるかを，具体的な表現に基づいて考えながら，内容を捉えている。	記述の確認	○ 共通点と相違点を明確に書き出している。（反復・対句・比喻） ☆ 二編の詩を比べて，それぞれにどのような違いや特徴があるかを確認させる。
読む能力	2 互いに朗読を聞き合い，詩の構成や展開，表現の仕方をどう捉えて朗読にかかそうとしたかを確認合っている。	記述の分析	○ 「大阿蘇」は連続性，「わたしを束ねないで」は強弱が，それぞれはつきりと表現されている。 ☆ 自分の朗読用ワークシートと他の学習者のものとを比べさせ，その違いを考えさせる。
	1 詩の中で使われている語句の意味を吟味したり，語句の使われ方の微妙な違いを意識したりしながら読んでいる。 【言（イ） 表現の技法】 【漢（ア） 漢字の読み】	記述の点検	○ 表現の効果を明確に書いている。（継続性・普遍性・強調など） ☆ 「繰り返し」や「言い換え」などの用例をあげ，語感の違いについて考えさせる。
知識・理解・技能	言語についての		

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため，ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	23 知識や体験をいかして読み深めるには
『学びを広げる』との関連	・詩の音読・暗唱（P32）

単元名	想像力
単元のねらい	さまざまな見方・考え方を知る

教材名		配当時間	「物語をつくろう」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
物語をつくろう		4 書く 4	・伝えたいことが明確になるように表現を工夫する。 ・文章の構成、表現の仕方について意見を交流する。 【Bイ 構成】 【Bオ 交流】
言語活動		表現の仕方を工夫して、詩歌をつくったり物語などを書いたりすることとおし た指導。【B－言語活動例ア】	
評価の 観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際の キーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・ 意欲・ 態度	1 物語を書いて、読み合ったり感想を交流したりすることとおして、文章の構成や表現の仕方を工夫しようとしている。	記述の分析	○ 内容・構成・表現・表記などに評価の観点を区切って、ノートにまとめている。 ☆ 交流をとおして気づいたことをもとに自分の書いた作品を読み返し、まとまりのある文章を書くためにはどのようなことに気をつけたらよいかを考えさせる。
書く 能力	1 選んだ絵から考えたことをもとに、場面や登場人物を設定し、物語の展開を考えている。	記述の確認	○ 心を引きつける題名になっている（興味を引く題名になっている）。 ☆ 選んだ絵（P187）から物語の「題」を考えさせ、その「題」をつけた理由をあげさせる。
	2 文章の構成や表現の仕方などで工夫が見られた点やよかったところなどについて、意見を述べ合っている。	記述の確認 行動の観察	○ 友達のよい点を参考にして、自分の作品を修正・深化させるための項目立てをしている。 ☆ 他の学習者の作品を読んでよかったところや気に入った記述をあげさせて、その理由を考えさせる。
知識・ 理解・ 技能 言語についての	1 想定した読み手に物語の内容が伝わるように、文章の形態や表現を工夫している。 【言（オ） 単語、文及び文章】	記述の点検	○ 推敲の時間を確保し、伝える級友を意識してしっかり推敲している。 ☆ 「文章の構成と表現の例」（P189）などを参考に、物語の書きだしを複数のパターンを示して、その中のどれを使うかを選ばせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」「B 書くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	12 文章の工夫について交流するには
『学びを広げる』との関連	・考えのメモ（P85） ・評価の視点（P99）

単元名	想像力
単元のねらい	さまざまな見方・考え方を知る

教材名		配当時間	「方言と共通語」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
方言と共通語		1 言葉の特徴やきまり 1	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【言(ア) 言葉の働きや特徴，言葉遣い】 【言(オ) 単語，文及び文章】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 自分自身や身の回りの人からその地域の方言の言葉を探そうとしている。		記述の分析	☆ 共通語の言葉をこの地域ではどう言うかについて考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 方言と共通語の違いやそれぞれのはたらきについておおむね理解している。		発言の確認	☆ 方言と共通語の語彙やアクセントの違い，それぞれが使われる場面を表にまとめさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	想像力
単元のねらい	さまざまな見方・考え方を知る

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう⑨」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう ⑨		1 漢字 1	・漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 比喻やつながりに関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 比喻やつながりに関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・常用漢字活用字典 (P116)
--------------	------------------

単元名	言語感覚
単元のねらい	言葉の感覚を磨く

教材名		配当時間	「日本語メガネのかけ替え」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
日本語メガネのかけ替え		3 読む3	・ものの見方や捉え方の違いについて考えながら読む。 【Cオ 読書と情報活用】
言語活動		新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較することをおとした指導。【C－言語活動例ウ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 文中の「メガネ」が、なぜかぎっこをつけて書かれたのかということを中心に、筆者のものの見方や考え方についての意見を交流しようとしている。	記述の分析	○ 自分の生活と重ねて、具体的な例や体験を引きながら、意見を述べようとしている。 ☆ 「メガネ」という言葉がここではどのような意味で使われているのか、別の言葉で言い換えられないかを考えさせる。
読む能力	1 例示された事柄についての筆者のものの見方や捉え方が表れている言葉について、それぞれがどのような意図で書かれたのかを考えながら文章を読んでいる。	記述の確認	○ 女性と男性が使う言葉の使い分けの助詞における例について、日本語の特徴という点からふれている。 ☆ 「詩の翻訳」の例を、表を用いて英語と日本語のそれぞれの特徴に分けさせながら考えさせる。
	2 筆者が二つの「メガネ」を使えるようになる前と後で、ものの見方や考え方がどのように変化したと考えているか、交流を通して確かめている。	記述の確認 行動の観察	○ 筆者があげている例以外に、日本語と英語の違いについての例を示している。 ☆ 他の例示について、筆者のものの見方や捉え方に関わる言葉を表でまとめ、それがどのような違いを表しているのかを考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 日本語の一人称のそれぞれがどのような使われ方をしているのかを確かめて、言葉の語感について考えている。 【言(ア) 言葉の働きや特徴、言葉遣い】 【漢(ア) 漢字の読み】	発言の確認	○ 語感の違いを、具体的な会話の場面や文脈を具体的に指摘して、説明している。 ☆ 実際に使われる場面や使い手を具体的に考えさせ、声に出して違いを確かめさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	17 知識や体験と関連づけて読むには 18 さまざまな方法で情報を集めるには
『学びを広げる』との関連	・船戸政一「武器なき『出陣』」(p58) ・情報の比較 (p83)

単元名	言語感覚
単元のねらい	言葉の感覚を磨く

教材名		配当時間	「論理を追って聞こう」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
論理を追って聞こう		3 話す・聞く 3	・ 論理の展開に気をつけて聞き合い、自分の考えを深める。 【Aエ 聞くこと】
言語活動		調べてわかったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。【A－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 話をまとまりとして聞いて、その内容について比べながら、自分の考えを広げようとしている。	記述の分析	○ 自分の考えを広げ、友達に共感したことや違う意見をもったことをわかりやすく伝えるスピーチ原稿を書こうとしている。 ☆ 話の内容と自分の考えとを比べて、「何が」「なぜ」「どのように」違っているのかを確かめさせる。
話す・聞く能力	1 他の学習者の話を聞いて、話の要点とそれがどのような事実に基づいているかを捉えている。	記述の確認	○ 要点を漏らさないだけでなく、見てわかりやすいようにメモを整理している。 ☆ スピーチ原稿（P205）の各段落のはじめの言葉を手がかりに、話の組み立てを確かめさせる。
	2 話の論理的な構成や展開に注意して聞いて、自分の考えと比べて賛成か反対か、納得できるかどうかなどの判断をしている。	記述の確認	○ 納得できたこと、納得できなかったり疑問に思ったりしたこと、などを整理することができる。 ☆ 話し手が主張するもとになっている根拠や理由を、内容のまとまりごとに確かめさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 伝わりやすく聞き取りやすい話に必要な語順や語の照応に注意して、話したり聞いたりしている。 【言（ウ） 単語、文及び文章】	行動の観察	○ 的確にメモを取っている。 ☆ わかりやすかったものとわかりにくかったものとを比べさせて、その違いがどこにあるかを考えさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「A 話すこと・聞くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	3 中心をはっきりさせて話すには 5 話の要点を聞き取るには
『学びを広げる』との関連	・ 考えのメモ（P85） ・ 評価の視点（P99）

単元名	言語感覚
単元のねらい	言葉の感覚を磨く

教材名		配当時間	「この人を語る」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
この人を語る		4 書く 4	- 相手に効果的に伝わるように、構成や表現を工夫して書く。 - わかりやすい文章になるよう、語句や文、文章の構成を見直す。 【Bウ 記述】 【Bエ 推敲】
言語活動		多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くことをとおした指導。【B－言語活動例イ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 書く目的を明確にして読み手に効果的に内容が伝わるように、文章の構成や表現を工夫しようとしている。	記述の分析	○ パンフレットを読み返して、よかった点とその理由、不十分な点とそれを改善する工夫などを書こうとしている。 ☆ 推敲の前後の文章を読み比べて、文章がどのように変わったかを確認させる。
書く能力	1 伝えたい事柄や事実が効果的に伝わるように、具体例の示し方や、説明・描写の仕方を工夫して書いている。	記述の確認	○ 具体的なエピソード、人物の言葉（発言）以外に、その人物にまつわるデータや関連する他の人物の紹介等を工夫して書いている。 ☆ 集めた資料の中から、伝えたい事柄を紹介の仕方の「例1・2」（P212）を参考に、どのように書けばよいかを考えさせる。
	2 伝えたい内容にふさわしい説明や描写になっているか、それぞれの記事のつながりが適切ななどの視点から文章を整えている。	記述の確認	○ 紹介する人物の魅力が伝わるパンフレットになるよう推敲している。 ☆ 伝えたい事柄の中心になる内容（P209の「みんなに紹介したいところ」）が、文章の中でどのように書かれているかを確認させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 書く目的にそって、文章の形態や展開にふさわしいものとなるように（考えながら）、資料を用いて書いている。 【言（オ） 単語、文及び文章】	記述の点検	○ 「ひきつける部分」や「まとめる部分」で単なる引用でなく自分なりの工夫をしている。 ☆ 「生徒作品の例」（P213）を参考に、資料をどのように用いればよいかを考えさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「B 書くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	8 伝えたいことを明確にするには 11 書いた文章を見直すには
『学びを広げる』との関連	- 説明の焦点化（P93） - 材料をまとめる編集（P95） - 評価の視点（P99）

単元名	言語感覚
単元のねらい	言葉の感覚を磨く

教材名		配当時間	「さまざまな熟語の読み」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
さまざまな熟語の読み		1 言葉の特徴やきまり1	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【言(イ) 語句・語彙】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 特別な読み方をする熟語の読み方について考えようとしている。		記述の分析	☆ 漢字辞典で読み方を調べたり，国語辞典で漢字表記を調べたりさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 特別な読み方をする熟語についてそのしくみをおおむね理解している。		記述の確認	☆ 熟語の読み方と意味とを調べて書き出させる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	言語感覚
単元のねらい	言葉の感覚を磨く

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう⑩」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう⑩		1 漢字 1	・漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 特別な読みに関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをおして、自分の言語生活にかかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 特別な読みに関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・常用漢字活用字典 (P116)
--------------	------------------

■『学びを広げる』

「本編」との関連		・内海隆一郎「小さな手袋」 （「伝え合う力」単元）	
教材名		配当時間	「幸福」の学習目標 【学習指導要領の指導事項】
幸福		4 読む 4	・ 文体や描写に気をつけて読み、その表現効果について考える。 【Cエ 自分の考えの形成】
言語活動		詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流することとおした指導。【C－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 （B「おおむね満足できると判断される」状況）	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 視点を变えて物語を書き換えるなどして、物語の構成や展開、描写や表現の効果などについて考えようとしている。	記述の分析	○ 「駅員」の描写からその日常を想像し、どんな思いでお釣りを受け取ったか、表現を工夫して書こうとしている。 ☆ この作品の題名である「幸福」とは誰にとってのものかを考えさせる。
読む能力	1 作品のそれぞれの場面で、「ぼく」の気持ちがどのように描かれているかを考えながら、内容を読み取っている。	記述の確認	○ 前時に学習した時代背景や人物像をふまえて「ぼく」の気持ちを読み取っている。 ☆ 「ぼく」の心情に関わる描写を指摘させる。
	2 「ぼく」の視点から書いたこの物語の構成や表現の効果について考えている。	記述の点検	○ 40代半ばの大人の気持ちを想像して考えている。 ☆ 「ぼく」の気持ちが描かれている部分について、「少年」と三人称にして書き換えるならどのような言葉で表現するかを考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 作品の中の登場人物が、それぞれ「ぼく」から見てどのような人物として描かれているかを、表現に基づいて整理している。 【言（オ） 表現の技法】 【漢（ア） 漢字の読み】	記述の点検	○ 簡単な時代考証をふまえて人物について整理している。 ☆ 駅員や母、叔父など「ぼく」以外の登場人物に関する描写をあげさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「本編」との関連		・太宰治「走れメロス」 （「理解力1」単元）	
教材名	配当時間	「夏を見上げて。」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
夏を見上げて。	4 読む 4	・登場人物の生き方や考え方について、自分の考えや意見をもつ。 【Cエ 自分の考えの形成】	
言語活動		詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流することとおし た指導。【C－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際の キーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 小説に描かれた人物のものの見方や考え方について、自分なりの考えをもとに感想を交流して、考えを深めようとしている。	記述の確認	○ 主人公の心情が効果的に描かれている部分についての感想を交流し、登場人物のものの見方や考え方について、自分自身の考え方を深めている。 ☆ 小説の場面の移り変わりを確かめさせ、その中で人物の心情がどのように描かれているかを考えさせる。
読む能力	1 小説の中のそれぞれの場面の登場人物の言動や心情などについて、描写の効果なども考えながら読み取っている。	記述の分析	○ それぞれの場面の主人公の言動や心情を、描写の効果に着目してまとめている。捉えたことについて交流し、描写の効果について理解を深めている。 ☆ どこかの場面を選ばせて、その場面での行動から人物の気持ちが変化しているかいないかを考えさせる。
	2 登場人物のそれぞれのものの見方や考え方について、自分の考えと比べながら、共感できることや疑問をもったことをまとめながら読んでいる。	行動の観察	○ 登場人物のものの見方や考え方について、自分の考えと比べ、理由を明らかにして、共感できることや疑問をもったことを交流している。 ☆ 登場人物の心情が表れているといえる言葉を指摘させ、なぜその言葉が心情を表しているといえるのかを考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 人物の心情や行動を表すために作者がどのような言葉や表現を用いているかなどの、表現上の効果を考えながら小説を読んでいる。 【言（イ） 語句・語集】 【漢（ア） 漢字の読み】	記述の確認	○ 登場人物の言動や心情を、作者がどのような言葉や表現を用いるかなど、表現上の効果に着目して、わかりやすくまとめている ☆ わかりにくい表現や単語を確かめさせ、前後の表現から文脈上の意味を考えさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「本編」との関連		・小澤征良「蒼いみち」 （「思考力2」単元）	
教材名	配当時間	「凧になったお母さん」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
凧になったお母さん	4 読む 4	・描写の工夫や効果を考え、登場人物の心情の変化を読み取る。 【Cイ 文章の解釈】	
言語活動		詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流することとおし た指導。【C－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際の キーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 描写の表現の効果について、考えたり感じたりしたことを交流して自分の考えを深めようとしている。	記述の分析	○ 友達の意見ナイスメモ！に書いた気付きをもとにするなど、根拠を明らかにしながら、表現の効果について自分の考えをまとめている。 ☆ 情景の描写の中から印象に残った表現の具体例をあげさせ、それぞれの表現の効果について考えさせる。
読む能力	1 「お母さん」の行動や心情の描写がどのように展開しているかに注目して読んでいる。	記述の確認	○ 母親の行動をまとめるとともに、母親が意識したこと（例：悲しいことを考えた、赤ん坊だった頃を思い出した）も併せてまとめている。 ☆ 全体の展開を場面ごとに分けて、内容を整理させる。
	2 人物の言葉や行動についての描写が物語全体にどのような効果をあげているかを考えながら読んでいる。	記述の確認	○ 題名につながる母親の姿を、二つの視点から捉えて、適切にまとめた上で、自分の考えをまとめている。 ☆ 文章から擬音語や擬態、比喩などを外して読ませる。
知識・理解・技能 言語についての	1 人物や情景を描くために用いられている言葉の使い方の工夫に着目して、物語を読んでいる。 【言（イ） 語句・語彙】 【漢（ア） 漢字の読み】	記述の分析	○ 十五カ所以上抜き出し、それぞれ適切に表現の効果をまとめている。 ☆ 「まごまご」「ドンドンパチパチ」「追われる泥棒のように」などの表現について、そうした描写からどんな心情が読み取れるか考えさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「本編」との関連		・井上恭介「壁に残された伝言」 （「表現力2」単元）	
教材名		配当時間	「卵の立つ話」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
卵の立つ話		4 読む4	・発見された事実と、それを取材した筆者の思いがどのように書かれているかを読み取る。 【Cイ 文章の解釈】
言語活動		説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べることをとおした指導。【C－言語活動例イ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法
			○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 「卵が立つ」という現象について文章と図とを用いて説明している筆者の意図について考え、自分なりのものの見方や考え方を広げようとしている。		記述の分析
			○ 筆者の伝えたかったことを理解し、その内容を自分の日常生活と結びつけて考えている。 ☆ 文章の結末で筆者が「学校で習う理科で～、いちばんいけないことである」と言っている理由を考えさせる。
読む能力	1 物体が倒れやすいか倒れにくいという原理について、図なども参考にして読み取っている。		記述の確認
	2 卵が立つしくみについて文章の記述から読み取ったことをもとに、科学的にもものを見たり考えたりするにはどのような立場や視点が求められるかを考えている。		行動の観察
知識・理解・技能	1 科学的・論理的な「事実」の説明と筆者の「思い」とを書き分けるために、段落の構成の仕方や図の使い方などについて、筆者はどのように工夫しているかを理解している。 【言（ウ） 単語、文及び文章】 【漢（ア） 漢字の読み】		記述の確認
			○ なぜこの図が用いられているかを理解し、その効果について考えている。 ☆ 大きな意味のまとめ(五つの意味段落)ごとに小見出しをつけることで、具体的な事実の説明と筆者の思いが、どのような構成でまとめられているかを確かめさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「本編」との関連		・アーサー＝ビナード「日本語メガネのかけ替え」 （「言語感覚」単元）	
教材名	配当時間	「武器なき『出陣』」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
武器なき「出陣」	3 読む3	ものの見方や捉え方の違いについて考えながら読む。 【Cオ 読書と情報活用】	
言語活動		新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較することをおとした指導。【C－言語活動例ウ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 平田靱負のとった行動を「出陣」とした筆者の意図を捉え、そこに描かれた人々の生き方やものの見方について考えようとしている。	記述の分析	- 時代背景をふまえ、たとえいくさではなくとも、藩の存亡を賭けた工事であったことにふれている。 ☆ 「出陣」という言葉がここではどのような意味で使われているのか、別の言葉で言いかえられないかを考えさせる。
読む能力	1 歴史上の事実とそこに関わった人々の思いについて、どのように描かれているかを考えながら文章を読んでいる。	記述の確認	○ そうせざるを得なかったそれぞれの人々の置かれた状況等も含めて考えている。 ☆ 工事に関わった人々を、「薩摩藩」「幕府」「美濃の村人」に分けさせながら考えさせる。
	2 「千本松原」が語り継ぐ「平田靱負」たちのものの見方や考え方について、自分なりの考えをもって意見を交流している。	記述の確認 行動の観察	○ 現代の社会での状況と重ねながら、意見をもっている。 ☆ 平田靱負が工事を引き受けた理由を確かめさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 題名の「出陣」という言葉の意味を文中ではどのように言いかえているかを確かめて、言葉の語感について考えている。 【言（イ） 語句・語彙】 【漢（ア） 漢字の読み】	発言の確認	○ 一般的な「出立」を指摘するだけではなく、「幕府による「薩摩征伐」，「一戦を交える覚悟」等の表現と対比させて、「出陣」の語感や意味するところについて指摘している。 ☆ 実際に使われる場面や使い方を具体的に考えさせ、違いを確かめさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「本編」との関連		・片谷教孝『『循環型社会』とは何か』（「思考力1」単元）	
教材名	配当時間	『話の地図』を相手に示そうの学習目標【学習指導要領の指導事項】	
「話の地図」を相手に示そう	4 読む4	・文中に用いられている言葉を正しく理解し、筆者の論の進め方に注意しながら読む。 【Cア 語句の意味の理解】 【Cウ 自分の考えの形成】	
言語活動		新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較することをおとした指導。【C－言語活動例ウ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 文中に用いられている語句の意味を理解したうえで、述べられている意見について考えを広げようとしている。	記述の分析	○ 「対象化」「階層化」した付箋を基にして、わかりやすい話の地図が書けている。 ☆ 「話の地図」「説明」「内容」がもつ語句の意味とその具体例について確認し、それぞれについて書かれている箇所を確かめさせ、その関連を考えさせる。
読む能力	1 冒頭のまとまりに着目し、それに対する論の展開を捉え、そこから筆者の主張を読み取っている。	記述の確認	○ 小見出しをつなぎ合わせて、話の地図を適切に書いている。 ☆ 小見出しごとの関連を整理させ、文章全体がどのような構成になっているかを考えさせる。
	2 筆者の「論の進め方」と「具体例の取りあげ方」に着目し、そのような書き方をした目的や意図について自分の考えをもっている。	行動の観察	○ たくさんの言い換え部分を探すことができるとともに、リードの実際をさまざまな新聞で確かめている。 ☆ 小見出しや文末表現、具体例などについて、それらがある場合とない場合とで本文にどのような違いが表れるかを考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 意見を論理的に伝えるために、どのような文章の構成の工夫がされているかを理解して、内容を読み取っている。 【言（ウ） 単語、文及び文章】 【漢（ア） 漢字の読み】	記述の確認	○ 日常生活と関連させながら教材を読んだ感想を書いている。 ☆ 意見に説得力を持たせるためには何が必要かを、内容のまとまりをとらえさせながら考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「本編」との関連		・高畑 勲「日本人はアリスの同類だった」 （「理解力1」単元）	
教材名	配当時間	「友愛——14歳の君へ」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
友愛——14歳の君へ	4 読む4	・自分のものの見方や考え方と比べながら読む。 【Cエ 自分の考えの形成】	
言語活動		説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べることをとおした指導。【Cー言語活動例イ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 筆者の「愛すること」についてのものの見方や考え方と自分の考え方を比べて、自分の考えを広げようとしている。	記述の分析	○ 「本当の友達」と「愛すること」に関して、筆者が述べている部分を正しくとらえ、筆者のいう「愛すること」について、共感や疑問など、自分の考えを述べている。 ☆ 最後から二つめの段落（P71 下段 L3～L14）の内容を整理させる。
読む能力	1 筆者が捉えている「本当の友達」や「愛」という言葉の定義や、「人に好かれる」と「人を好きになること」、「好かれる人」と「嫌われる人」という二つの言葉の関係を確かめながら、内容を読み取っている。	記述の確認	○ 各まとまりの中心文(キーセンテンス)と、「本当の友達」と「愛」について述べられている文章を的確に抜き出し、それに対する自分の考えを書いている。 ☆ 「本当の友達」や「愛」の定義について、それが人に好かれることや人を好きになることなどに当てはまるかどうかを考えさせる。
	2 筆者の「論の進め方」と「具体例の取りあげ方」に着目し、そのような書き方をした目的や意図について自分の考えをもっている。	記述の確認 行動の観察	○ 「愛」と「好き」の違いを明確にとらえ、共感したことや疑問に思ったことについて、きちんと自分の考えを書いている。 ☆ 文章の四つのまとまりの内容について、まとまりごとの最後の段落に着目しながら整理させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 意見を論理的に伝えるために、どのような文章の構成の工夫がされているかを理解して、内容を読み取っている。 【言（エ） 単語、文及び文章】 【漢（ア） 漢字の読み】	記述の点検	○ 「本当の」が付いている言葉をすべて抜き出し、筆者が「本当の」という言葉を使っている意図について、自分の考えを述べている。 ☆ それぞれの言葉について、「本当の」とついていない場合とついていない場合とを前後の文章も含めて抜き出させる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

■「確かめよう」

領域	教材名	指導事項	評価規準
話すこと・聞くこと	話す材料を集めるには	Aア	社会生活の中的话题について、話したり話し合ったりするためにはどのように材料を集めたらよいかを考えている。
	聞き手の立場を考えて話すには	Aイ	聞き手に対する説得力を高めるには、話の内容をどのようにしたらよいかを考えている。
	中心をはっきりさせて話すには	Aイ	聞き手にわかりやすい話をするためには、話の構成をどのようにしたらよいかを考えている。
	資料などを活用して話すには	Aウ	話の要点をわかりやすく伝えるには、資料などをどのように用いたらよいかを考えている。
	話の要点を聞き取るには	Aエ	全体の構成や話の展開を聞き取るためにはどのようにしたらよいかを考えている。
	目的にそって話し合うには	Aオ	目的にそって話し合うためにはどのようにしたらよいかを考えている。
書くこと	書く材料を探すには	Bア	社会生活の中的话题について、書くための材料をどのように集めたらよいかを考えている。
	伝えたいことを明確にするには	Bイ	伝えたい内容を明確にするには、文章の構成をどのようにしたらよいかを考えている。
	説得力のある文章を書くには	Bウ	文章の説得力を高めるにはどのようなことに気をつけたらよいかを考えている。
	描写を工夫して書くには	Bウ	読み手にわかりやすい文章を書くためにはどのように描写を工夫すればよいかを考えている。
	書いた文章を見直すには	Bエ	書いた文章を読み手にとって読みやすくわかりやすいものにするにはどのようにしたらよいかを考えている。
	文章の工夫について交流するには	Bオ	書いた文章を読み合って自分の考えを広げるにはどのようにしたらよいかを考えている。
読むこと（説明）	抽象的な語句の意味を確かめるには	Cア	抽象的な概念を表す語句の意味を理解するためにはどのようにしたらよいかを考えている。
	段落の内容と役割を整理して読むには	Cイ	文章全体と部分との関係を読み取るためにはどのようにしたらよいかを考えている。
	例示の効果を読み取るには	Cイ	文章の中で例示が果たしている役割を読み取るためにはどのようにしたらよいかを考えている。
	構成や展開について考えをまとめるには	Cウ	文章の構成や展開についての書き手の意図を捉えるにはどのようにしたらよいかを考えている。
	知識や体験と関連づけて読むには	Cエ	自分の知識や体験と関連づけて文章の内容を読み取るためにはどのようにしたらよいかを考えている。
	さまざまな方法で情報を集めるには	Cオ	関心のある問題についてさまざまな方法で適切な情報を集めるにはどのようにしたらよいかを考えている。
読むこと（文学）	表現を確かめながら読むには	Cア	心情を表す語句の意味を理解するためにはどのようにしたらよいかを考えている。
	描写の効果を考えるには	Cイ	情景の描写が果たしている役割を読み取るためにはどのようにしたらよいかを考えている。
	登場人物の言動の意味を考えるには	Cイ	登場人物の言動の意味を読み取るためにはどのようにしたらよいかを考えている。
	表現の工夫について考えるには	Cウ	文章の表現の工夫やその効果を捉えるにはどのようにしたらよいかを考えている。
	知識や体験を生かして読み深めるには	Cエ	自分の知識や体験と比べて詩や小説を読むためにはどのようにしたらよいかを考えている。
	調べたことをもとに理解を深めるには	Cオ	内容の理解にいかすために本や文章などで調べたことをどのように用いたらよいかを考えている。

3 年生

■本編

単元名	伝統的な言語文化
単元のねらい	言語文化に親しむ

教材名		配当時間	「おくのほそ道」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
おくのほそ道		3 言語 3	・歴史的背景を考えながら古文を読み、古典の世界に親しむ。 【伝(ア) 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例	
関心・意欲・態度	1 芭蕉の旅への思いを想像しながら選んだ句についての鑑賞文を書くことをとおして、古典の世界に親しもうとしている。	記述の分析	○ これまでの学習内容の反映が文面に示され、句を選んだ理由と、本文に根ざした内容理解を記述しようとしている。 ☆ 「月日は」の段の「漂泊の思い」(P14L5)や、「平泉」の段の「涙を落としはべりぬ」(P15L9)・「かねて耳驚かしたる」(P16L1)などから、旅についての芭蕉の思いを確かめさせる。	
知識・理解・技能 言語についての	1 作品の背景をふまえて、俳句に描かれた情景につながる地の文の内容を捉えている。	記述の確認	○ 本文から、芭蕉の思いと根拠を引き出し、それもとに自分の考えを述べ、加えて自身の経験に照らして発展的に考えている。 ☆ それぞれの句の表現が地の文のどこに対応しているかを確かめて、句の内容を捉えさせる。	

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

『学びを広げる』との関連	・おくのほそ道紀行 (P8)
--------------	----------------

単元名	伝統的な言語文化
単元のねらい	言語文化に親しむ

教材名		配当時間	「中国の古典の言葉」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
中国の古典の言葉		3 言語 3	・ 漢文の一節を引用して、自分の体験や考えを文章にまとめる。 【伝(ア) 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと】 【伝(イ) 古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例	
関心・意欲・態度	1 中国の古典(漢文)の一節を引用した文章を書いたり読み合ったりすることをとおして、古典に表れているものの見方や考え方を捉えて、言語生活にいかそうとしている。	記述の分析	○ 友達への感想や、最後に書いた自分の感想の中に、古典の文章の一節を理解し、それを今・これからにつなげていかそうとしている。 ☆ 文章の例(P22)や書いた文章を読み返して、引用した一節がどのような場面や状況で用いられているかを確かめさせる。	
知識・理解・技能 言語についての	1 中国の古典(漢文)の一節を引用した文章を書いたり読み合ったりして、その言葉の意味の捉え方や用い方の妥当性を確かめている。	記述の確認	○ 引用した漢文の一節が、生徒の経験や書きたいことと適合しており、漢文の理解をふまえて、自分の経験を文章にまとめられている。 ☆ 『書経』や『漢書』の現代語訳(P20)の部分を讀ませてその意味を確かめさせ、それらの内容に合致する経験をあげさせる。	

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

『学びを広げる』との関連	・ 言葉を旅する (P26)
--------------	----------------

単元名	伝統的な言語文化
単元のねらい	言語文化に親しむ

教材名		配当時間	「慣用句・四字熟語」の学習目標 【学習指導要領の指導事項】	
慣用句・四字熟語		1 言葉の特徴やきまり 1	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【言(イ) 語句・語彙】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 慣用句の正しい使い方や四字熟語の由来・意味について考えようとしている。		行動の観察	☆ 国語辞典や漢字辞典を使って慣用句の正しい使い方や四字熟語の由来・意味を調べさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 慣用句を集めたり，四字熟語を使った短文を作ったりしている。		記述の確認	☆ 国語辞典や漢字辞典を使って慣用句を集めたり，四字熟語を使った短文を作ったりさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	伝統的な言語文化
単元のねらい	言語文化に親しむ

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう①」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう①		1 漢字 1	・漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 伝統や四字熟語に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 伝統や四字熟語に関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・常用漢字活用字典 (P124)
--------------	------------------

単元名	表現力
単元のねらい	わかりやすく述べる

教材名		配当時間	「パブリックスピーチをしよう」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
パブリックスピーチをしよう		4 話す・聞く 4	・相手や場に応じた内容を考え、適切な言葉遣いで話す。 ・聞き取った内容や表現の仕方を、自分の表現にいかす。 【AI 話題設定や取材・話すこと】 【AU 聞くこと】
言語活動		時間や場の条件に合わせてスピーチをしたり、それを聞いて自分の表現の参考にしたりすることをおとした指導。【A－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 話す相手や場の状況にふさわしいスピーチを考えることをとおして、内容や組み立て、言葉遣いを考えて、効果的な話し方について工夫しようとしている。	記述の分析	○ スピーチに独自の観点を付加しようとしている。 ☆ リハーサルと実際のスピーチとで、話の組み立てや話し方のどこをどのように変えようとして取り組んだかを確かめさせる。
話す・聞く能力	1 聞き手の人数や立場をふまえて、適切な言葉遣いを意識しながらスピーチの内容を考えている。	記述の確認	○ 小学校にはない中学校独自の話題を選択し、そのことに配慮したメモを作成している。 ☆ 伝えたい内容が、聞き手の立場や目的にふさわしいものかを確かめさせる。
	2 自分の表現にいかすために、内容の組み立て方や話し方、言葉遣いについて評価しながら、スピーチを聞き合っている。	記述の確認	○ 構成が整ったものになっていたり、言葉遣いに自覚的な改良が加えられたりしている様子がメモから見てとれる。 ☆ 他の学習者の評価を聞いて、スピーチの優れている点を確かめさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 相手や場面に応じた言葉遣いや、敬語の適切な使い方を理解している。 【言(ア) 言葉の働きや特徴、言葉遣い】	記述の点検	○ 敬語等が適切に使えている。 ☆ 他の学習者のスピーチについて、聞き手を意識した言葉遣いや敬語の使い方になっている例を確かめさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「A 話すこと・聞くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	1 話す材料を整理するには 2 相手や場合に応じて話すには
『学びを広げる』との関連	・講演・スピーチの要約 (P91) ・評価の意義 (P99)

単元名	表現力
単元のねらい	わかりやすく述べる

教材名		配当時間	『私の友情論』を書こうの学習目標【学習指導要領の指導事項】
「私の友情論」を書こう		3 書く 3	- 資料を適切に引用して説得力のある文章を書く。 - 書いた文章を読み返し、文章全体を整える。 【Bイ 記述】 【Bウ 推敲】
言語活動		関心のある事柄について批評する文章を書くことをとおした指導。【B－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 取りあげた問題についての自分の考えを明確にするために、論理の展開の仕方や資料の用い方に注意して、文章の体裁を整えようとしている。	記述の分析	○ 文章をよりよくするために意図をもって推敲しようとしている。 ☆ 書いた文章について、段落ごとの内容と相互の関係が適切かどうかを考えさせる。
書く能力	1 書く目的にそって、自分の考えを述べるためにふさわしい資料を用いて書いている。	記述の確認	○ 資料について、引用の意図や、自分の考えとのつながりが明記されている。 ☆ 四つの資料の例(P35)について、自分の考えとの異同を考えさせる。
	2 説得力のある文章になるように、論理の展開や資料の用い方を見直している。	記述の確認	○ カードや構成の意図を説明することができる。 ☆ 「生徒作品例」(P38・39)から、それぞれの文章がどのような構成になっているか、どのように資料を用いているかを確かめさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 社会生活で使う語彙について意識しながら言葉を使い、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【言(イ) 語句・語彙】	記述の点検	○ 「友情」を自分なりの表現で言い換えたり、知識や経験をもとにして説明を豊かにしたりしている。 ☆ 「発想のメモ」(『学びを広げる』P84・85)を参考に、「友情」に関わりのある言葉をあげてその関係を考えさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「B 書くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	6 取材を通して考えを深めるには 9 文章を整えるには
『学びを広げる』との関連	- 情報の関係づけ (P83) - 引用の原則 (P89)

単元名	表現力
単元のねらい	わかりやすく述べる

教材名		配当時間	「冥王星が『準惑星』になったわけ」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
冥王星が「準惑星」になったわけ		4 読む 4	この文章と他の資料とを読み比べ、筆者の考え方や論の進め方について考える。 【Cウ 自分の考えの形成】 【Cオ 読書と情報活用】
言語活動		論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むことをとおした指導。【Cー言語活動例イ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 科学的な内容を伝えるための文章で、構成や展開、表現の仕方、資料の用い方などがどのように工夫されているかを考えながら読み比べて、書き手の意図と表現の仕方の関わりを考えようとしている。	記述の確認	○ 観点を多くもち（構成や展開・表現の仕方・資料の用い方など）、それらと受ける印象とが関係づけられて述べられていることとともに、書き手の意図についても的確に言及しようとしている。 ☆ 文中の写真・図表などがどのような役割を果たしているかを、具体的に考えさせる。
読む能力	1 冥王星が準惑星になった経緯について、根拠や歴史的な経緯をふまえて順序立てて説明している。	記述の確認	○ 「技術革新」「小惑星の発見」「定義の変更」の三点を関連させて説明している。 ☆ 時代を表す表現とそれぞれの時代の中心になる発見等の語句を、順を追って整理させる。
	2 本文と資料とを読んで、それぞれの文章に表れている社会や自然についての見方や考え方の違いを比べながら考えている。	記述の確認	○ 「肯定／否定的」「建設的／発展的」など、それぞれの文章がどのような姿勢で冥王星の扱いの変化を捉えているかを、自分なりに位置づけている。 ☆ 資料の新聞記事について、例示されている内容が違う理由を考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 天文に関する内容を科学的に説明するために、筆者が論の展開や言葉の使い方を工夫していることを理解して（文章の内容を読み取って）いる。 【言（イ） 語句・語彙】 【漢（ア） 漢字の読み】	記述の点検	○ P40L8 からの歴史記述の必然性や、技術革新と太陽系の広がりや、表現の工夫にも着眼しながら的確に読み取れている。 ☆ 文章の内容を、歴史の流れとして整理するとどのように捉えられるかを確かめさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	12 論理の展開を捉えるには 15 知識を広げて考えを深めるには
『学びを広げる』との関連	- 山口仲美「日本語を見つめる」(P72) - 目的に合わせた情報収集 (P81) - 表とグラフによる効果 (P87)

単元名	表現力
単元のねらい	わかりやすく述べる

教材名		配当時間	「相手意識と敬語の機能」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
相手意識と敬語の機能		1 言葉の特徴やきまり 1	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【言(ア) 言葉の働きや特徴，言葉遣い】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 話し相手や話の場面に適切な言葉や表現考えようとしている。		記述の分析	☆ 話し相手や話の場面を変えて同じ内容をどう伝えるかを声に出して言わせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 話し相手や話の場面にふさわしい敬語を使って対話をしている。		記述の確認	☆ 普通の言い方を話し相手や話の場面を変えた言い方に直させる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	表現力
単元のねらい	わかりやすく述べる

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう②」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう ②		1 漢字 1	・ 漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 表現に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 表現に関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・ 常用漢字活用字典 (P124)
--------------	-------------------

単元名	理解力
単元のねらい	判断して説明する

教材名		配当時間	『文殊の知恵』の時代」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
「文殊の知恵」の時代		4 読む 4	- 筆者の主張と、それを支える具体例との関係を考えながら読む。 【Cイ 文章の解釈】
言語活動		自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えることをとおした指導。【Cー言語活動例ウ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 文章の論の展開にしたがって筆者の考えを理解し、自分の体験と結びつけて考えようとしている。	記述の分析	○ 「文殊の知恵」について、自分の体験と結びつけて記述しようとしている。 ☆ 三人以上で取り組んだことで、うまくいったことやうまくいかなかったことを想起させる。
読む能力	1 筆者の主張の根拠や、わかりやすく述べるための論理の展開を確かめながら、内容を的確に理解している。	記述の確認	○ 14・15段落と対応させて具体例を理解している。 ☆ 文章の後半部分(P61L6～)で示された筆者の見方や考え方と、自分の読んだ経験とを比べて考えさせる。
	2 本文と後の二つの文章とを読み比べて、筆者の主張と根拠の示し方について、その違いや妥当性などについて自分の考えをまとめている。	記述の点検	○ 「私なら…」と自分にひきつけて具体例を理解し、説明している。 ☆ それぞれの文章の根拠となっている部分がどのような主張のためのものかを確認させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 「三人寄れば文殊の知恵」という言葉の由来を確かめたり、類似した表現を調べたりして、語感を磨いたり、語彙を豊かにしたりしている。 【言(イ) 語句・語彙】 【漢(ア) 漢字の読み】	記述の点検	○ 筆者の説明では、「文殊」についてふれられていないことに気づいている。 ☆ 文章の冒頭のことわざの説明と、筆者がいう「文殊の知恵」とでは、どのように使い分けたらよいかを考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	11 書き手の意図を読み取るには
『学びを広げる』との関連	- 外山滋比古「あいさつは心のパスポート」(P65) - 目的に合わせた情報収集(P81)

単元名	理解力
単元のねらい	判断して説明する

教材名		配当時間	「猫」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
猫		4 読む 4	・ 場面の展開にそって人物の心の動きを読み取る。 【Cイ 文章の解釈】
言語活動		物語や小説などを読んで批評することをおとした指導。【C－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 登場人物が作品全体の中で果たしている役割について評価して、作品のよさについて考えようとしている。	記述の確認	○ おばあさんが自分の考えを押しつけない態度をとっていることに気づいたうえで、その役割を考えようとしている。 ☆ 「おばあさん」にかかわる表現を具体的に指摘させ、主人公との関係を考えさせる。
読む能力	1 主人公の気持ちの変化を、猫の成長による変化と関連づけて捉え、作品の世界がどのように描かれているかを考えている。	記述の分析	○ 「やっき」「さっさと」「罰しては」「かきむしられる」「も」「せっかく」といった言葉に注目している。 ☆ 主人公が猫をどのように見ているのかがわかる記述から、それぞれの場面での気持ちを捉えさせる。
	2 主人公の発言にこめられた思いが、作品全体のなかでどのような意味をもつかということについて、交流をとおして考えを深めている。	記述の分析	○ 叫んだときのソフィアの感情を説明できている。 ☆ 主人公の発言の裏付けとなったできごとを具体的に指摘させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 登場人物の気持ちや言動を特徴づけている語句や語彙について、場面や描写にそって理解している。 【言（イ） 語句・語彙】 【漢（ア） 漢字の読み】	記述の点検	○ 五つ以上の対比を見つけており、マップとスヴァンテの特徴を捉えている。 ☆ 登場人物の気持ちや言動を特徴づけている語句を抜き出させて、それがどのようにつながるかを考えさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	17 場面や登場人物の設定を捉えて読むには
『学びを広げる』との関連	・ 石田衣良「終わりのない散歩」(P48) ・ オー＝ヘンリー「二十年後」(P56)

単元名	理解力
単元のねらい	判断して説明する

教材名		配当時間	「詩の魅力を伝えよう」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
詩の魅力を伝えよう		3 書く 3	- グループで取材して考えを深め、適切な構成を工夫する。 - 書いた文章を読み合い、自分の表現にいかす。 【Bア 課題設定や取材・構成】 【Bエ 交流】
言語活動		関心のある事柄について批評する文章を書くことをとおした指導。【B－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 書いた文章を互いに読み合って、情報の活用の仕方や文章の構成を評価し合い、自分の文章にいかそうとしている。	記述の分析	○ 言葉の役割や機能に注目して推薦文を評価しようとしている。 ☆ 他の学習者の書いた文章について、自分が文章を書くときに参考にできる点を考えさせる。
書く能力	1 書く目的にそって集めた情報について、さまざまな視点や立場から検討して考えを深めている。	記述の確認	○ 言葉に注目して読み、その意味を検討している。 ☆ どれかの詩を取りあげて、その詩の中の最も気に入った表現についてその理由や根拠をあげさせる。
	2 他の人との交流をとおして、集めた情報の中から何を取りあげ、どのように書くかを考えている。	記述の確認	○ 推薦文の目的に照らして、情報の取捨選択を行っている。 ☆ 選んだ詩について、その詩を選んだ理由につながる内容や情報を整理させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 選んだ詩の中の語句や表現について、その意味の微妙な違いを説明している。 【言（イ） 語句・語集】	記述の点検	○ 言葉に注目して読み、その意味を検討している。 ☆ 詩の魅力についての着目する観点（P81L6～L9）を参考に、気になる表現をあげさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」「B 書くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	7 目的に合った文章を書くには
『学びを広げる』との関連	- 目的に合わせた情報収集（P81） - 発想のメモ（P85）

単元名	理解力
単元のねらい	判断して説明する

教材名		配当時間	「俳句の世界」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
俳句の世界		3 読む 3	・ 語句の意味や表現の効果を考えながら、読み味わう。 【Cア 語句の意味の理解】
言語活動		物語や小説などを読んで批評することをととした指導。【Cー言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 選んだ俳句について、その句の表現の特徴やよさを評価して、言葉の使い方について考えを深めようとしている。	記述の確認	○ 言葉のはたらきに注目しながら情景を想像しようとしている。 ☆ 気に入った句を選ばせ、その句がなぜ気に入ったのかを説明する視点を確かめさせる。
	2 季語などを手がかりにして、それぞれの句の情景や作者の心情を捉え、語句の用い方の効果などについて感じたことを交流している。	記述の分析	○ 五七五のリズム、句切れ、切れ字を意識して声に出している。 ☆ 本文(P84・85)から、「俳句を味わうために」(P86・87)の項目のどれが当てはまるかを確かめさせる。
読む能力	1 解説文を参考に、句切れなどの表現の特徴に注意して音読し、句の内容を理解している。	行動の観察	○ 五七五のリズム、句切れ、切れ字を意識して声に出している。 ☆ 本文(P84・85)から、「俳句を味わうために」(P86・87)の項目のどれが当てはまるかを確かめさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 俳句に用いられている語句の意味や、語句の使われ方について理解している。 【言(イ) 語句・語彙】 【漢(ア) 漢字の読み】	記述の点検	○ 適切な「切れ字」を抜き出し、役割や効果などについて考えている。 ☆ 「切れ字」や俳句の感動の中心となる語句を指摘させ、その意味を考えさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	16 語句の効果的な使い方を考えるには
『学びを広げる』との関連	・ 和歌・俳句のかたち (P12) ・ 歳時記 (P16) ・ 残したい言葉 (P18)

単元名	理解力
単元のねらい	判断して説明する

教材名		配当時間	「国語辞典の広がり」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
国語辞典の広がり		1 言葉の特徴やきまり 1	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【言(イ) 語句・語彙】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 国語辞典をさまざまな用途に使おうとしている。		記述の分析	☆ さまざまな用途にそった国語辞典の使い方についてヒントを与えて考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 国語辞典を活用してさまざまな課題について調べている。		記述の確認	☆ 課題にそって国語辞典をどのように使ったらよいかについてヒントを与えて考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	理解力
単元のねらい	判断して説明する

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう③」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう ③		1 漢字 1	・漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 社会・経済や産業・技術に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 社会・経済や産業・技術に関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・ 常用漢字活用字典 (P124)
--------------	-------------------

単元名	伝え合う力
単元のねらい	ともにわかり合う

教材名		配当時間	『企画会議』を開こうの学習目標【学習指導要領の指導事項】
「企画会議」を開こう		4 話す・聞く 4	・話題を決め、資料などを活用して説得力のある話をする。 ・話し合いの展開や進行を工夫し、お互いの考えをいかし合う。 【Aア 話題設定や取材・話すこと】 【Aエ 話し合うこと】
言語活動		社会生活の中の話題について、相手を説得するために意見を述べ合うことをとおした指導。【A－言語活動例イ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 少数意見を尊重するなど、全体としての話し合いがよりよい結論に至るように意識して、話し合いに参加しようとしている。	記述の分析	○ 「企画会議」の流れや結論について詳細に整理して、自らの参加の状況や話し合い方についての発見をしようとしている。 ☆ この話し合いをとおして、どのような提案がされ、どのような話し合いの経過を経て結論が出されたのかを、順序立てて確かめさせる。
話す・聞く能力	1 話す目的にそって内容を考え、相手に伝わるように話の構成や資料の提示の仕方を工夫するなどして、効果的に話している。	行動の観察	○ 聞き手が納得するような、根拠の明確さがあり、聞き手がわかりやすくなるように話し方を工夫したり資料を作成したりしている。 ☆ 伝えたい内容にふさわしい話し方や資料の示し方はどのようなものかを、グループでの活動をとおして確かめさせる。
	2 お互いの考えをいかしたりまとめたりするために、話し合いの内容について質問をしたり意見を述べたりしている。	記述の確認	○ コーディネーター及び参加者が協力し合って話し合いの流れを作り、お互いの考えをいかしたりまとめたりする話し合いができる。 ☆ 話し合いの目的や方向を意識した発言をするためには、他の人の発言／考えと自分の意見を比べることが必要であることを確かめさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 言葉についての知識を広げ、話す目的にふさわしい語句を用いている。 【言（イ） 語句・語集】	記述の確認	○ それぞれのアイデアをいかした話し合いが行われ、効果的な企画の発表が準備されている ☆ 提案したい内容をどのような言葉で表現するとよいか、類義語・対義語辞典などを用いて考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」「A 話すこと・聞くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	5 話し合いを効果的に進行させるには
『学びを広げる』との関連	・発想のメモ（P85） ・効果的なメッセージ（P97）

単元名	伝え合う力
単元のねらい	ともにわかり合う

教材名		配当時間	「海馬」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
海馬		4 読む 4	説明の工夫や聞き手の役割に注目しながら対談を読み、考えたことをまとめる。 【Cア 語句の意味の理解】
言語活動		物語や小説などを読んで批評することをととした指導。【Cー言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 対談という形式から、話し手が伝えたい内容の中心を理解するためにどのような整理の仕方をすればよいかを考えようとしている。	記述の分析	○ 説明の工夫や聞き手の役割について、その効果や方法論を理解しようとしている。 ☆ 聞き手の発言がないと前後の関係がつかめなくなる所 (P103L7～L10 など) をあげさせ、聞き手の発言の必要性を考えさせる。
読む能力	1 対談において、説明の仕方や話の聞き方にどのような工夫や配慮があるかを、確かめながら読んでいる。	記述の確認	○ 話題の展開を正確に読み取っており、糸井さんの発言のはたらきについてよく理解している。 ☆ 聞き手の発言が、前の説明とどうつながるかを確かめさせる。
	2 神経細胞の特徴について、「回路」「情報」や、「都市」「都市設計」という言葉を使うことで、どのようなよさや効果があるか考えて、自分の言葉で説明している。	発言の確認	○ 二人の使っている言葉の違いが、伝えようとする神経細胞の特徴の違いであることを読み取り、両者の違いをふまえながら、自分の理解を表現することができる。 ☆ それぞれの言葉と前後の発言とのかかわりを確かめさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 対談の中で言い換えをしている言葉について、それがどのようなつながりや効果をうみだしているかを考えながら読んでいる。 【言（イ） 語句・語彙】 【漢（ア） 漢字の読み】	記述の点検	○ 池谷さんの説明のわかりやすいところを読み取り、その理由を言葉の言いかえに着目して理解している。 ☆ 対談の中から言いかえている言葉を指摘させ、どう言いかえているのかを確かめさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	13 文章の書き方を評価するには
『学びを広げる』との関連	・林京子「戦争と平和を思う」(P68) ・講演・スピーチの要約 (P91)

単元名	伝え合う力
単元のねらい	ともにわかり合う

教材名		配当時間	「表現につなげる文法1」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
表現につなげる文法 1		2 言葉の特徴やきまり2	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【言(イ) 単語，文及び文章】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 助詞相当の語句を使ったり，文末の表現を変えたりすることによって生じる意味の違いについて考えようとしている。		記述の分析	☆ 助詞相当の語句を使った文や，文末の表現を変えた文を使った対話を行い，意味の違いを考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 場面や文脈に適した助詞相当の部句や，さまざまな文末の表現の働きについておおむね理解している。		記述の確認	☆ 場面や文脈に適さない助詞相当の部句やさまざまな文末の表現を使った文の不自然さについて感じ取らせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	伝え合う力
単元のねらい	ともにわかり合う

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう④」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう ④		1 漢字 1	・漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 話し合いや日常生活に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 話し合いや日常生活に関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・常用漢字活用字典 (P124)
--------------	------------------

単元名	思考力
単元のねらい	論理的・多角的に考える

教材名		配当時間	「主張文を書こう」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
主張文を書こう		4 書く 4	・社会生活の中から課題を決め、自分の考えを深める。 ・論理の展開を工夫して、説得力のある文章を書く。 【Bア 課題設定や取材・構成】 【Bイ 記述】
言語活動		関心のある事柄について批評する文章を書くことをとおした指導。【B－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 文章を書く目的にふさわしい形態・論理の展開・言葉遣いなどに着目して、説得力のある文章とはどのようなものかを考えようとしている。	記述の分析	○ 自身の主張文を客観的に見つめ、気づいたことや考えたこと、大切に思ったことをまとめようとしている。 ☆ 交流するための視点（P117）を用いて、自分や他の学習者が書いた文章の内容や構成を確認させる。
書く能力	1 社会生活の中から決めた課題について、自分の考えを広げたり深めたりするために、多様な方法で材料を集めたり整理したりしている。	記述の確認	○ 自分の考えの根拠となる材料を効果的に関連づけながら整理している。 ☆ 取りあげた課題について、P113の「例」のそれぞれの項目に対応する情報がどのようなものかを考えさせる。
	2 説得力のある文章になるように、考えの根拠となる適切な資料を用いたり、文章全体の構成を工夫したりして書いている。	記述の確認	○ 相手の疑問や反論を想定して自分の考えを見つめ直し、根拠を確かにして、構成の整った文章を書いている。 ☆ 「考えを整理するための例」（P115上段）にそって、下書きの内容や集めた資料を並べて考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 書く目的にそって考えを整理したり説明・説得したりするために適切な語句を選んで文章を書いている。 【言（イ） 語句・語彙】	記述の点検	○ さまざまな考えをもつ読み手を想定したうえで、自分の考えを主張するために効果的な語句を選んでいく。 ☆ P114～115 下段の「例」の、特に文末の書き方を参考に、考えをまとめさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「B 書くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	8 信頼できる資料を選ぶには 9 文章を整えるには
『学びを広げる』との関連	・情報の関係づけ（P83） ・説明の一般化（P93）

単元名	思考力
単元のねらい	論理的・多角的に考える

教材名		配当時間	「高瀬舟」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
高瀬舟		6 読む6	・生き方や社会のあり方について、自分の考えを深める。 【Cエ 自分の考えの形成】
言語活動		物語や小説などを読んで批評することをとおした指導。【C－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 小説に描かれている人の生き方や社会のあり方について、これまでに読んだ本を振り返ったり、新たに読書をしたりして、考えを深めたり広げたりしようとしている。	記述の確認	○ それぞれの登場人物の生き方や考え方を比べながら、人の生き方や社会のあり方について自分の考えを深めようとしている。 ☆ 二人の人物のどちらかになったつもりで、モノローグを書かせる。
読む能力	1 登場人物の心の「ゆれ」や、他の人物の発言や行動などが与えた影響がどのようなものかを考えながら、作品に描かれた世界を理解している。	記述の分析	○ それぞれの人物像や場面の描写などと関連づけて、登場人物の思いの「ゆれ」について考えている。 ☆ 喜助の発言や態度が描かれた後の部分から、庄兵衛の心が「ゆれ」た理由を考えさせる。
	2 作品の最後の一文から人の生き方について考えたことを、交流をとおして深めている。	記述の分析	○ 最後の一文を解釈することをとおして、作品全体において作者が描こうとした人の生き方や社会のあり方について読み深めている。 ☆ 人物のどちらか一人を取りあげて、なぜ沈黙していたのかを考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 小説に使われている言葉について、それが書かれた時代、人物の描かれ方による用い方や意味の違いを現在の言葉遣いと比べながら、作品を読んでいる。 【言(ア) 言葉の働きや特徴, 言葉遣い】 【漢(ア) 漢字の読み】	記述の確認	○ 時間の経過による語句の意味の変化や違いについて理解している。 ☆ いくつかの言葉を具体的に取りあげ、国語辞典を用いて意味を調べさせ、現代との使われ方の違いや意味の異同を確かめさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	19 作品の価値や意味を考えるには 20 読書の幅を広げて考えを深めるには
『学びを広げる』との関連	・魯迅「故郷」(P36)

単元名	思考力
単元のねらい	論理的・多角的に考える

教材名		配当時間	「和語・漢語・外来語」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
和語・漢語・外来語		1 言葉の特徴やきまり1	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【言(イ) 単語，文及び文章】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 語種の違いによって生じる伝わる意味の違いを考えようとしている。		記述の確認	☆ 語感の異なる単語が混在した文の不自然さを感じ取らせせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 語種の違いをもつ類義語をおおよそあげている。		行動の観察	☆ 国語辞典や類義語辞典を使って類義語を拾い出させる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	思考力
単元のねらい	論理的・多角的に考える

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう⑤」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう ⑤		1 漢字 1	・漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 考えることや自然に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 考えることや自然に関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・ 常用漢字活用字典 (P124)
--------------	-------------------

単元名	想像力
単元のねらい	さまざまな見方・考え方を知る

教材名		配当時間	「好きな和歌を紹介しよう」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
好きな和歌を紹介しよう		4 書く 4	書いた文章を交流し、自分の表現に役立てる。 【Bエ 交流】 【伝(ア) 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむ】
言語活動		関心のある事柄について批評する文章を書くことをとおした指導。【B－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 書いた文章について感想を交流し、文章の展開や表現の仕方などについて評価し合うことをとおして、自分の表現をよりよいものにしようとしている。	記述の分析	- 交流して評価し合うことをとおして、自分の表現をよりよいものにするための手だてを複数の視点から考えようとしている。 ☆ 交流をとおして指摘された問題点について、それを修正するためには他の学習者の書いたどの文章が参考になるかを選ばせる。
書く能力	1 選んだ作品について、情景や作者の心情、作品のよさなどについて感じたことを整理して、紹介する文章を書いている。	記述の確認	○ 情景や作者の心情、表現上の特徴が順序を考え簡潔に表現されている。また、引用が効果的に用いられている。 ☆ P145の例を参考に、紹介したい作品についてどのような内容を取りあげたらよいかを考えさせる。
	2 書いた文章を読み合い、作品に描かれた情景や心情と、取りあげた作品について考えたり感じたりしたこととが伝わるように書かれているかを、交流をとおして確かめ合っている。	記述の確認	○ 紹介文の展開や表現の仕方がどのように優れているか、書き手の見方や考え方に着目してまとめている。 ☆ 他の学習者の紹介文を読んで、取りあげている作品のよさがどのように述べられているかを確かめさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 作者の立場や作品の背景となる状況をふまえて、作品に描かれた情景や作者の心情に親しんでいる。 【伝(ア)】	記述の点検	○ 作者や作品の背景となる状況をふまえて、よみこまれている情景や心情を捉え、紹介文を書く作品を選んでいる。 ☆ 作品を理解するためにはどのような資料が必要かを確かめ、学校図書館などを利用して作品紹介の視点の例(P145 上段)にそって整理させる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「B 書くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	10 交流して評価し合うには
『学びを広げる』との関連	- 引用の原則 (P89) - 評価の意義 (P99)

単元名	想像力
単元のねらい	さまざまな見方・考え方を知る

教材名		配当時間	「詩二編」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
詩二編（初恋・うち しってんねん）		3 読む 3	・ 詩を読み比べ、表現の特徴や効果を考える。 【Cウ 自分の考えの形成】
言語活動		物語や小説などを読んで批評することをととした指導。【C－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 それぞれの詩から感じられるよさや特徴をいかしながら朗読し、作品の理解を深めようとしている。	行動の観察	○ それぞれの詩から感じとったよさや特徴が伝わるよう、聞き手の評価も参考にして、音読練習を重ね、朗読発表をとおして、作品の理解を深めようとしている。 ☆ 他の学習者の朗読を聞かせて、何が伝わってくるかを考えさせる。
読む能力	1 二つの詩に共通することと相違することとを整理し、表現の仕方の特徴が、詩の内容とどう関わっているかを考えながら読んでいる。	記述の点検	○ 共通点と相違点を整理し、表現の仕方の特徴が、詩の内容とどう関わっているか、表現に即してまとめている。 ☆ 読み方を変えるとどのような違いが感じられるか、確かめさせる。
	2 それぞれの詩に用いられている語句や描写の仕方のよさや特徴について感じたことや考えたことを、交流を通して深めている。	記述の分析	○ 象徴的な文語や方言のもつ表現効果について、自他の考えをわかりやすくまとめ、詩の内容とどのように関わっているか理解を深めている。 ☆ どの語句や表現に心ひかれたかを指摘させ、その部分をどのように音読すると感じたことがより伝わるかを考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 詩に用いられている象徴的な文語や方言のもつ表現効果を理解している。 【言（イ） 語句・語集】 【漢（ア） 漢字の読み】	記述の確認	○ 象徴的な文語や方言のもつ表現効果を捉え、情景や心情をまとめている。 ☆ 象徴的な表現がどのように言いかえられるかを考えさせ、言葉の意味や表現効果を考えさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	18 文章を読み比べて作品を評価するには
『学びを広げる』との関連	・ 詩の音読・暗唱（P32）

単元名	想像力
単元のねらい	さまざまな見方・考え方を知る

教材名		配当時間	「理想のロボット」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
理想のロボット		2 書く 2	・構成の工夫や表現の仕方を評価しながら読み合う。 【Ｂエ 交流】
言語活動		関心のある事柄について批評する文章を書くことをとおした指導。【Ｂ－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (Ｂ「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○Ａ「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Ｂを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 伝わりやすい説明の仕方とはどのようなものか、交流をとおして考えようとしている。	行動の観察	○ 自分の説明をどうわかりやすく説得力のあるものとするか、複数の視点から簡潔にまとめようとしている。 ☆ 交流する中であげられた事柄について、次に文章を書くときにいかしたいと思ったことを整理させる。
書く能力	1 書く目的にふさわしい言葉の使い方や文章の構成、表現の仕方とはどのようなものか、交流をとおして確かめている。	記述の確認	○ 交流をとおして、目的にふさわしい言葉の使い方や構成について理解を深め、自分の説明をわかりやすいものとする手だてを具体的にまとめている。 ☆ 交流する中であげられた問題点について、それをどのように修正すればよいかを考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 伝えたい内容が明確に伝わるように慣用句・四字熟語、和語・漢語・外来語などを適切に用いている。 【言（イ） 語句・語集】	記述の点検	○ 構成を工夫し、慣用句・四字熟語、和語・漢語・外来語などを効果的に用いて、説得力のある表現としている。 ☆ 例（P155）を参考に、簡潔で伝わりやすい表現にするために、慣用句や四字熟語が使える箇所がないかを考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」「Ｂ 書くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	10 交流して評価し合うには
『学びを広げる』との関連	・発想のメモ（P85） ・評価の意義（P99）

単元名	想像力
単元のねらい	さまざまな見方・考え方を知る

教材名		配当時間	「言葉の現在・過去・未来」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
言葉の現在・過去・未来		1 言葉の特徴やきまり1	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【言(ア) 言葉の働きや特徴，言葉遣い】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 現在ゆれが生じている言葉や使われなくなった死語を探そうとしている。		記述の確認	☆ 父母や祖父母は使っているが自分は使っていない言葉，またはその逆の言葉を思い起こさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 言葉の変化やパターンについてまとめている。		行動の観察	☆ 国語辞典を引いて，現在自分が使っていない言葉や意味が変わっている言葉を見つけさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	想像力
単元のねらい	さまざまな見方・考え方を知る

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう⑥」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう ⑥		1 漢字 1	・漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 比喻やつながりに関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをとおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 比喻やつながりに関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・ 常用漢字活用字典 (P124)
--------------	-------------------

単元名	言語感覚
単元のねらい	言葉の感覚を磨く

教材名		配当時間	「対話劇を体験しよう」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
対話劇を体験しよう		2 話す・聞く 2	・状況や相手に応じて言葉を使い分ける。 ・ふだんの自分の話し言葉について考えを深める。 【Aイ 話題設定や取材, 話すこと】 【Aウ 聞くこと】
言語活動		時間や場の条件に合わせてスピーチをしたり、それを聞いて自分の表現の参考にしたりすることとおした指導。【A－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 対話劇を演じたり聞いたりすることをとおして、自分たちの話し言葉を振り返り、目的・相手・場面などに応じた話し方について考えようとしている。	記述の分析	○ 場面や状況に応じた話し方について考えようとしている。 ☆ ふだんの話し言葉を、相手や状況に応じて使い分けているか、対話劇を参考に振り返らせる。
話す・聞く能力	1 場の状況や相手の様子に応じて対話劇のせりふを考えている。	記述の確認	○ 言葉の使い分けを理解している。 ☆ 対話劇の例（P164～）で、せりふの言葉遣いがどのように変わっているかを確認させる。
	2 人物の立場や人柄、心理などと、せりふに用いられている言葉や話し方との関係に注意して対話劇を聞いている。	記述の確認	○ せりふに用いられている言葉等の関係に注意して聞いている。 ☆ 演じられた対話劇の中のせりふについて、場面や状況で違いがわかるように演じられていたかどうかを確認させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 相手や場面に応じた適切な言葉や話し方があることを理解している。 【言（ア） 言葉の働きや特徴、言葉遣い】	行動の観察	○ せりふを記述している。 ☆ 対話劇の例（P164～）の言葉遣いの違いがなぜあるのか、その理由を考えさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」「A 話すこと・聞くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	3 敬語を適切に使うには 4 評価しながら聞くには
『学びを広げる』との関連	・発想のメモ（P85） ・評価の意義（P99）

単元名	言語感覚
単元のねらい	言葉の感覚を磨く

教材名		配当時間	『『ありがとう』と言わない重さ』の学習目標【学習指導要領の指導事項】
「ありがとう」と言わない重さ		5 読む 5	・言葉と生活・社会について考えながら読む。 【Cエ 自分の考えの形成】
言語活動		自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えることをとおした指導。【C－言語活動例ウ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 筆者のものの見方や考え方を理解し、言葉とその背景にある文化について、話し合いをとおして考えを深めようとしている。	記述の分析	○ 表層的な読み（「行為」＞「言葉」）にとどまらず、モンゴル人が「言葉」をこよなく大切なものとして受け止めていることに気づこうとしている。 ☆ 「隙間をのぞきこむ」(P173L6) とは何をすることなのかを考えさせる。
	1 三つの感謝の表現の違いについての筆者の見方や考え方を読み取って、その見方や考え方について根拠をもって評価している。	記述の確認	○ モンゴル人にとって「ありがとう（バヤルラー）」が「卑しい」とされる根拠、およびモンゴル人の感謝の表現の仕方を読み取っている。 ☆ 三つの感謝の表現の違いを、具体的な場面にそってまとめさせる。
読む能力	2 題名にこめられた筆者の思いについて、交流を通して考えを深めている。	記述の確認	○ 表層的な読み（「行為」＞「言葉」）にとどまらず、モンゴル人が「言葉」をこよなく大切なものとして受け止めていることに気づいている。 ☆ 「モンゴル人の精神世界の深さ、豊かさ」という表現から、筆者がどのような受け止め方をしているかを考えさせる。
	1 「ありがとう」、「バヤルラー」、「サンキュー」がそれぞれどのような語感をもって使われているかを比べて、言葉の伝わり方について考えている。 【言（ア） 言葉の働きや特徴、言葉遣い】 【漢（ア） 漢字の読み】	記述の点検	○ 日本人にとっての「ありがとう」が、モンゴル人にとっては「卑しい」とされることを読み取っている。 ☆ 「バヤルラー」を筆者が使っていた場面についてのモンゴル人の反応を確かめさせる。
知識・理解・技能 言語についての			

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	14 文章を読んで見方や考え方を広げるには
『学びを広げる』との関連	・日高敏隆「春の数え方のくいちがい？」(P62)

単元名	言語感覚
単元のねらい	言葉の感覚を磨く

教材名		配当時間	「大切な言葉で編む」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
大切な言葉で編む		3 書く 3	- 必要な資料を探し、適切に引用して文章を書く。 - 文章を読み返し、編集の意図が生かすように工夫する。 【Bイ 記述】 【Bウ 推敲】
言語活動		目的に応じてさまざまな文章などを集め、工夫して編集することをおとした指導。 【B－言語活動例イ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 アンソロジーをつくることをとおして、意図や目的が読み手に伝わるように表現の仕方を工夫しようとしている。	記述の分析	○ 文章の表現や構成、体裁などについて、自分や他の学習者の作品について、適切に振り返ったりアドバイスしたりしようとしている。 ☆ どのような意図からアンソロジーをつくったのかを確かめて、全体の内容と構成がその意図にそってつくられているかどうかを見直させる。
書く能力	1 書く目的にそって、さまざまな方法で集めた材料を整理して、ふさわしい文章の形態や構成を考えて編集している。	記述の確認	○ 探した材料の中から使う材料を選び、並べ方を考えて、目次等を作っている。 ☆ 「アンソロジーの例」(P181)や「アンソロジーをつくろう」(『学びを広げる』P30)などを参考に、つくりたいアンソロジーについてのイメージをもたせる。
	2 文章を読み返して材料の取りあげ方や文章の構成などを見直して、アンソロジーの体裁を整えている。	記述の確認	○ 選んだ材料にふさわしくなるように体裁を整えている。 ☆ 選んだ言葉や文章を、構成の視点(P179上段)にそって改めて整理させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 選んだ言葉を手がかりにさまざまな言葉に触れることをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【言(イ) 語句・語彙】	記述の点検	○ 自分が大切にしている言葉、アンソロジーの題名、今の自分に贈る言葉をそれぞれ記述している。 ☆ 一つ一つの言葉について、その意味を辞書などを用いて確かめさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「B 書くこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「確かめよう」との関連	6 取材を通して考えを深めるには 7 目的に合った文章を書くには
『学びを広げる』との関連	- 目的に合わせた情報収集 (P81) - 引用の原則 (P89) - 構成を整える編集 (P95)

単元名	言語感覚
単元のねらい	言葉の感覚を磨く

教材名		配当時間	「表現につなげる文法2」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
表現につなげる文法 2		2 言葉の特徴やきまり2	・言葉の特徴やきまり，漢字についての理解を深める。 【言(イ) 語句・語彙】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 自動詞と他動詞による文の意味の違いや，異なる副助詞を使った文の意味の違いについて考えようとしている。		行動の観察	☆ 自動詞と他動詞を変えた文や，副助詞が異なる文を使った対話を行い，意味の違いを考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 自動詞と他動詞による文の意味の違いや，異なる副助詞を使った文の意味の違いについておおむね理解している。		行動の観察	☆ 自動詞と他動詞を変えた文や，副助詞が異なる文の意味の違いについて説明する例を示して考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については，この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は，学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって，ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と，Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

単元名	言語感覚
単元のねらい	言葉の感覚を磨く

教材名		配当時間	「漢字を使いこなそう⑦」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
漢字を使いこなそう ⑦		1 漢字 1	・漢字の読み書きについての理解を深める。 【漢(ア) 漢字の読み】 【漢(イ) 漢字の書き】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 慣用句に関わる言葉の漢字を読んだり書いたりすることをおして、自分の言語生活にいかそうとしている。		行動の観察	☆ 『学びを広げる』や国語辞典などを活用して例文の中での漢字の意味を調べ、その意味を説明させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 慣用句に関わる言葉を書いたり読んだりしている。		行動の観察	☆ 繰り返し練習させるとともに、国語辞典を活用するなどして、その漢字を使った短文を考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)〕と「学習目標」に基づいて設定している。

★ 「言語についての知識・理解・技能」の評価は、学習活動全体をとおして身につけたことを評価するものである。したがって、ここではB「おおむね満足できると判断される状況」と、Bを実現していない学習者への手だての例のみを示した。

『学びを広げる』との関連	・常用漢字活用字典 (P124)
--------------	------------------

■『学びを広げる』

「本編」との関連		・森鷗外「高瀬舟」 （「思考力」単元）	
教材名	配当時間	「故郷」の学習目標 【学習指導要領の指導事項】	
故郷	6 読む6	・生き方や社会のあり方について、自分の考えを深める。 【Cエ 自分の考えの形成】	
言語活動		物語や小説などを読んで批評することをおとした指導。【C－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 小説に描かれている人の生き方や社会のあり方について、これまでに読んだ本を振り返ったり、新たに読書をしたりして、考えを深めたり広げたりしようとしている。	記述の確認	○ それぞれの登場人物の生き方や考え方を比べながら、人の生き方や社会のあり方について自分の考えを深めようとしている。 ☆ 二人の登場人物のどちらかになったつもりで、モノローグを書かせる。
読む能力	1 登場人物の心の「ゆれ」や、他の人物の発言や行動などが与えた影響がどのようなものかを考えながら、作品に描かれた世界を理解している。	記述の分析	○ それぞれの人物像や場面の描写などと関連付けて、登場人物の思いの「ゆれ」について考えている。 ☆ 閨土の発言や態度が描かれた後の部分から、「私」の心が「ゆれ」た理由を考えさせる。
	2 作品の最後の場面から人の生き方について考えたことを、交流をとおして深めている。	記述の分析	○ 最後の一文を解釈することをおして、作品全体において作者が描こうとした人の生き方や社会のあり方について読み深めている。 ☆ 「私」と閨土との関係を少年時代と現在とに分けて整理させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 小説に使われている言葉について、それが書かれた時代、人物の描かれ方による用い方や意味の違いを現在の言葉遣いと比べながら、作品を読んでいる 【言(ア) 言葉の働きや特徴, 言葉遣い】 【漢(ア) 漢字の読み】	記述の確認	○ 時間の経過による語句の意味の変化や違いについて理解している。 ☆ いくつかの言葉を具体的に取りあげ、国語辞典を用いて意味を調べさせ、現代との使われ方の違いや意味の異同を確かめさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「本編」との関連		・トーベ＝ヤンソン「猫」 （「理解力」単元）	
教材名	配当時間	「終わりのない散歩」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
終わりのない散歩	4 読む 4	・場面の展開にそって人物の心の動きを読み取る。 【Cイ 文章の解釈】	
言語活動		物語や小説などを読んで批評することとおした指導。【C－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 題名が作品の世界を表すために果たしている役割について評価して、作品のよさについて考えようとしている。	記述の確認	○ 「終わりのない」という修飾語の意味を指摘したうえで、自分の考えを記述しようとしている。 ☆ 「終わりのない」という言葉が誰にとってのことなのかを考えさせる。
読む能力	1 「ぼく」の気持ちの変化を、「おばあちゃん」との関わりから捉え、作品の世界がどのように描かれているかを考えている。	記述の分析	○ 「ぼく」の評価・判断を表す言葉を取りあげて、「おばあちゃん」の言動を捉えている。 ☆ 「ぼく」が「おばあちゃん」をどのように見ているのかがわかる記述から、それぞれの場面での気持ちを捉えさせる。
	2 いろいろな場面での「ぼく」の思いが、作品全体のなかでどのような意味をもつかということについて、交流をとおして考えを深めている。	記述の分析	○ 文字どおりの温かさだけではなく、「ぼく」の「おばあちゃん」に対する気持ちについて指摘している。 ☆ 「おばあちゃん」が「ぼく」に草餅をくれた理由となったできごとを具体的に指摘させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 登場人物の気持ちや言動を特徴づけている語句や語彙について、場面や描写にそって理解している。 【言（イ） 語句・語彙】 【漢（ア） 漢字の読み】	記述の点検	○ 「ぼく」の評価・判断を表す言葉を取りあげて、「おばあちゃん」の特徴を捉えている。 ☆ 登場人物の気持ちや言動を特徴づけている語句を抜き出させて、それがどのようにつながるかを考えさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「本編」との関連		・ トーベ＝ヤンソン「猫」 （「理解力」単元）	
教材名		配当時間	「二十年後」の学習目標 【学習指導要領の指導事項】
二十年後		4 読む 4	・ 場面の展開にそって人物の心の動きを読み取る。 【Cイ 文章の解釈】
言語活動		物語や小説などを読んで批評することをおとした指導。【C－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○ A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆ Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 登場人物が作品全体の中で果たしている役割について評価して、作品のよさについて考えようとしている。	記述の確認	○ 場面の関係に着目して、物語構造を説明しようとしている。 ☆ 警官と「男」にかかわる表現を具体的に指摘させ、二人の関係を考えさせる。
読む能力	1 人物の気持ちが作品の世界がどのように描かれているかを考えている。	記述の分析	○ 結末と対応させて警官の葛藤を記述している。 ☆ 警官が「男」をどのように見ているのかがわかる記述から、それぞれの場面での気持ちを捉えさせる。
	2 人物の言動にこめられた思いが、作品全体のなかでどのような意味をもつかということについて、交流をとおして考えを深めている。	記述の分析	○ 手紙が「ずいぶん短い」点を手がかりとして、警官が手紙を書いた理由を考えている。 ☆ 警官の手紙の裏付けとなったできごとを具体的に指摘させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 登場人物の気持ちや言動を特徴づけている語句や語彙について、場面や描写にそって理解している。 【言（イ） 語句・語彙】 【漢（ア） 漢字の読み】	記述の点検	○ 男の大きなものの言いに言及して、二十年前の約束にかかる思いを説明している。 ☆ 登場人物の気持ちや言動を特徴づけている語句を抜き出させて、それがどのようにつながるかを考えさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「本編」との関連		・ 呉人恵『ありがとう』と言わない重さ」（「言語感覚」単元）	
教材名		配当時間	「春の数え方のくいちがい？」の学習目標【学習指導要領の指導事項】
春の数え方のくいちがい？		5 読む 5	・ 言葉と生活・社会について考えながら読む。 【Cエ 自分の考えの形成】
言語活動		自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えることをとおした指導。【C－言語活動例ウ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 （B「おおむね満足できると判断される」状況）	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 自然界で起きていることをどう捉えるかという問題から、人間と自然との関わり方について考えようとしている。	記述の分析	○ 事実と意見を書き分けようとしている。 ☆ 筆者が「やっぱり」と思った理由を本文から探させる。
読む能力	1 筆者が「春の数え方」という表現で自然のなかで行われている営みを表現している意図を読み取って、その見方や感が方について根拠をもって評価している。	記述の確認	○ 昆虫が温度によって、小鳥が日の長さによって、それぞれ春の到来を察知していることを読み取り、ノートに簡潔にまとめている。 ☆ 「春の数え方」の違いについて、虫と鳥とに分けてまとめさせる。
	2 題名の最後の「？」から筆者の問題意識を読み取って、交流を通して考えを深めている。	記述の確認	○ 「地球温暖化」に対する筆者の危惧を読み取ったうえで、筆者の提示する問題について理解を深めている。 ☆ 本文の最後で筆者が「たまらなく心配」と言っている理由を本文から探させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 昆虫と小鳥との間に生じる「くいちがい」などの、自然界の現象を表す言葉の使われ方から、語句の用い方が論の展開にどのような効果を生んでいるかを理解している。 【言（ア） 言葉の働きや特徴、言葉遣い】 【漢（ア） 漢字の読み】	記述の点検	○ 「春の数え方」とは「春のきたことを知る方法」であることをふまえ、昆虫と小鳥の間に生じる二つの「くいちがい」の関係性について読み取っている。 ☆ 本文で「くいちがい」という言葉がもつ二つの意味を考えさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「本編」との関連		・北川達夫『文殊の知恵』の時代（「理解力」単元）	
教材名	配当時間	「あいさつは心のパスポート」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
あいさつは心のパスポート	4 読む 4	・筆者の主張と、それを支える具体例との関係を考えながら読む。 【Cイ 文章の解釈】	
言語活動		自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えることをとおした指導。【C－言語活動例ウ】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 文章の論の展開にしたがって筆者の考えを理解し、自分の体験と結びつけて考えようとしている。	記述の分析	○ 「挨拶」について、自分の体験と結びつけて記述しようとしている。 ☆ 挨拶にまつわる体験で、うまくいったことやうまくいかなかったことを想起させる。
読む能力	1 筆者の主張の根拠や、わかりやすく述べるための論理の展開を確かめながら、内容を的確に理解している。	記述の確認	○ 前半部分と結びつけてパスポートの意味を考えることができる。 ☆ 文章の前半部分で、日本人研究者がアメリカの研究所で評判が悪くなった理由を考えさせる。
	2 具体的な例示の部分と筆者の意見を交えた部分とを読み比べて、筆者の主張と根拠の示し方について、その違いや妥当性などについて自分の考えをまとめている。	記述の点検	○ 「私なら…」と自分にひきつけて具体例を理解し、説明している。 ☆ 文章の後半部分で、筆者が挨拶についての例としてあげているもの（「封筒のような筒」、握手など）とその内容とを整理させる。
知識・理解・技能 言語についての	1 「心のパスポート」という比喻表現の意味を確かめたり、類似した表現を比べたりして、語感を磨いたり、語彙を豊かにしたりしている。 【言（イ） 語句・語彙】 【漢（ア） 漢字の読み】	記述の点検	○ 具体例の部分を捨象し、主張や結論の部分に線を引いている。 ☆ 本文の「パスポート」という単語について、他にどのような言葉で言い換えることができるかを考えさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「本編」との関連		・池谷裕二・糸井重里「海馬」 （「伝え合う力」単元）	
教材名	配当時間	「戦争と平和を思う」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
戦争と平和を思う	4 読む 4	・説明の工夫や聞き手の役割に注目しながら対談を読み、考えたことをまとめる。 【Cア 語句の意味の理解】	
言語活動		物語や小説などを読んで批評することをおとした指導。【C－言語活動例ア】	
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)	評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 文中で取りあげている言葉や表現から筆者の意図を読み取り、自分の考えを深めようとしている。	記述の分析	○ 複数の表現を比べ、それぞれの共通点や相違点などが明らかにしようとしたり、引用されている資料からだけではなく、筆者の考えや思いも対象化したりしようとしている。 ☆ 「慣れすぎたのでしょうか」(P68 中段 L12)のように、筆者の強い気持ちが感じられる表現を探させる。
読む能力	1 筆者が考えを述べるためにどのように論を展開したり具体例を示したりしているかを確かめながら読んでいる。	記述の確認	○ 注目した語句の役割や効果が捉えられており、筆者の現代人に対する批判や警鐘と結びつけて理解が行われている。 ☆ 「賛美される戦争などありません」(P68 下段 L5)、「戦争にあるのは現実だけです」(P69 上段 L15)という筆者の考えを裏付ける箇所を確かめさせる。
	2 文章で述べられている内容について、具体的な表現に基づいて読み取ったことを、自分の言葉で説明している。	発言の確認	○ 平和な時代に習った英語が、戦争の際に生にたどり着く唯一の道であったことや、事実を直視する重要性を強調する西ドイツ大統領の言葉から、戦争と平和の関係性を連続するものとして捉え、自分なりの考えをもっている。 ☆ それぞれの言葉と前後の発言とのかかわりを確かめさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 文中で用いられている言葉について、それがどのようなつながりや効果をうみだしているかを考えながら読んでいる。 【言（イ） 語句・語彙】 【漢（ア） 漢字の読み】	記述の点検	○ 「口の中に広がる芳醇なバターの味に満足」など、実感を伴って伝わってくる表現の工夫や「慣れ」の繰り返しなどによる意味の強調といった表現に目を向け、その効果を書き出している。 ☆ 段落の最後の文章の文末に着目させ、どのように変化しているかを確かめさせる。

＊ 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものであるため、ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

「本編」との関連	・ 渡部潤一「冥王星が『準惑星』になったわけ」 （「表現力」単元）
----------	-----------------------------------

教材名		配当時間	「日本語を見つめる」の学習目標【学習指導要領の指導事項】	
日本語を見つめる		4 読む 4	・ この文章と他の資料とを読み比べ、筆者の考え方や論の進め方について考える。 【Cウ 自分の考えの形成】 【Cオ 読書と情報活用】	
言語活動		論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むことをとおした指導。【C－言語活動例イ】		
評価の観点	学習活動における具体的評価規準 (B「おおむね満足できると判断される」状況)		評価方法	○A「十分満足できると判断される」状況と評価する際のキーワードとその具体的な姿の例 ☆Bを実現していない学習者への手だての例
関心・意欲・態度	1 文化的な内容を伝えるための文章で、構成や展開、表現の仕方などがどのように工夫されているかを考えながら読み比べて、書き手の意図と表現の仕方の関わりを考えようとしている。		記述の確認	○ あげられた事例や、述べ方について、読者としての自分の受けた印象や実感をふまえて、その効果を述べようとしている。 ☆ 文中の英文やかぎかっこ、カタカナなどがどのような役割を果たしているかを、具体的に考えさせる。
読む能力	1 日本語のもつ問題について、根拠や歴史的な経緯をふまえて順序立てて説明している。		記述の確認	○ 「音読み」「訓読み」の成立過程をふまえながら、読み方の多さについて説明できている。 ☆ 時代を表す表現とそれぞれの時代の中心になる発見等の語句を、順を追って整理させる
	2 本文を読んで、漢語とカタカナ語の受け入れ方の違いについて比べながら考えている。		記述の確認	○ 両者の違いが、明治時代と現在の、「浸透している」文化のちがいにあることを指摘できている。 ☆ 資料の新聞記事について、例示されている内容が違う理由を考えさせる。
知識・理解・技能 言語についての	1 文化に関する内容を実証的に説明するために、筆者が論の展開や言葉の使い方を工夫していることを理解して(文章の内容を読み取って)いる。 【言(イ) 語句・語彙】 【漢(ア) 漢字の読み】		記述の点検	○ 直接に「読みやすさ」「わかりやすさ」を指摘しているところだけではなく、第二のまとも(「過去の人々の英知」)に着眼できている。 ☆ 文章の内容を、歴史の流れとして整理するとどのように捉えられるかを確かめさせる。

* 「関心・意欲・態度」の評価規準については、この学習材で育成すべき言語能力に合わせて設定するものである。ここでは学習指導要領の「2 内容」「C 読むこと」と「学習目標」に基づいて設定している。

■「確かめよう」

領域	教材名	指導事項	各領域の能力
話すこと・聞くこと	話す材料を整理するには	Aア	社会生活の中の話題について、説得力のある話をするためにはどのように材料を用いたらよいかを考えている。
	相手や場合に応じて話すには	Aイ	聞き手や場に応じて話すためには、どのようなことに注意したらよいかを考えている。
	敬語を適切に使うには	Aイ	相手や場に応じてどのような言葉遣いがふさわしいかを考えている。
	評価しながら聞くには	Aウ	話を聞いて内容や表現の仕方などについて検討したり評価したりするにはどのようにしたらよいかを考えている。
	話し合いを効果的に進行させるには	Aエ	話し合いを効果的に進行させるためにはどのようにしたらよいかを考えている。
書くこと	取材を通して考えを深めるには	Bア	社会生活の中の話題について、自分の考えを深めるためにはどのように材料を用いたらよいかを考えている。
	書くには	Bア	書く目的に応じて文章の形態や構成をどのようにしたらよいかを考えている。
	信頼できる資料を選ぶには	Bイ	説得力のある文章を書くために、どのような資料を集めたり用いたりしたらよいかを考えている。
	文章を整えるには	Bウ	文章の形態や目的にそって書いた文章を整えるためにはどのようにしたらよいかを考えている。
	交流して評価し合うには	Bエ	書いた文章を読み合っ内容や表現の仕方などについて検討したり評価したりするにはどのようにしたらよいかを考えている。
読むこと（説明）	書き手の意図を読み取るには	Cア	文中に用いられた語句や表現から書き手の意図を読み取るためにはどのようにしたらよいかを考えている。
	論理の展開を捉えるには	Cイ	文章の論理の展開を捉えるにはどのようにしたらよいかを考えている。
	文章の書き方を評価するには	Cウ	文章を読み比べるなどして、書き方の特徴を捉えるにはどのようにしたらよいかを考えている。
	文章を読んで見方や考え方を広げるには	Cエ	文章を読んで見方や考え方を広げるにはどのようにしたらよいかを考えている。
	知識を広げて考えを深めるには	Cオ	自分の知識を広げたり考えを深めたりするためにはどのようにしたらよいかを考えている。
読むこと（文学）	語句の効果的な使い方を考えるには	Cア	文中の語句の使われ方の効果を捉えるにはどのようにしたらよいかを考えている。
	場面や登場人物の設定を捉えて読むには	Cイ	場面設定や登場人物の描かれ方を捉えるにはどのようにしたらよいかを考えている。
	文章を読み比べて作品を評価するには	Cウ	文章を読み比べるなどして作品を評価するためにはどのようにしたらよいかを考えている。
	作品の価値や意味を考えるには	Cエ	作品の価値や、その作品が描かれた時代や状況における意味を考えるためにはどのようにしたらよいかを考えている。
	読書の幅を広げて考えを深めるには	Cオ	自分の読書の幅を広げて考えを深めるためにはどのようにしたらよいかを考えている。